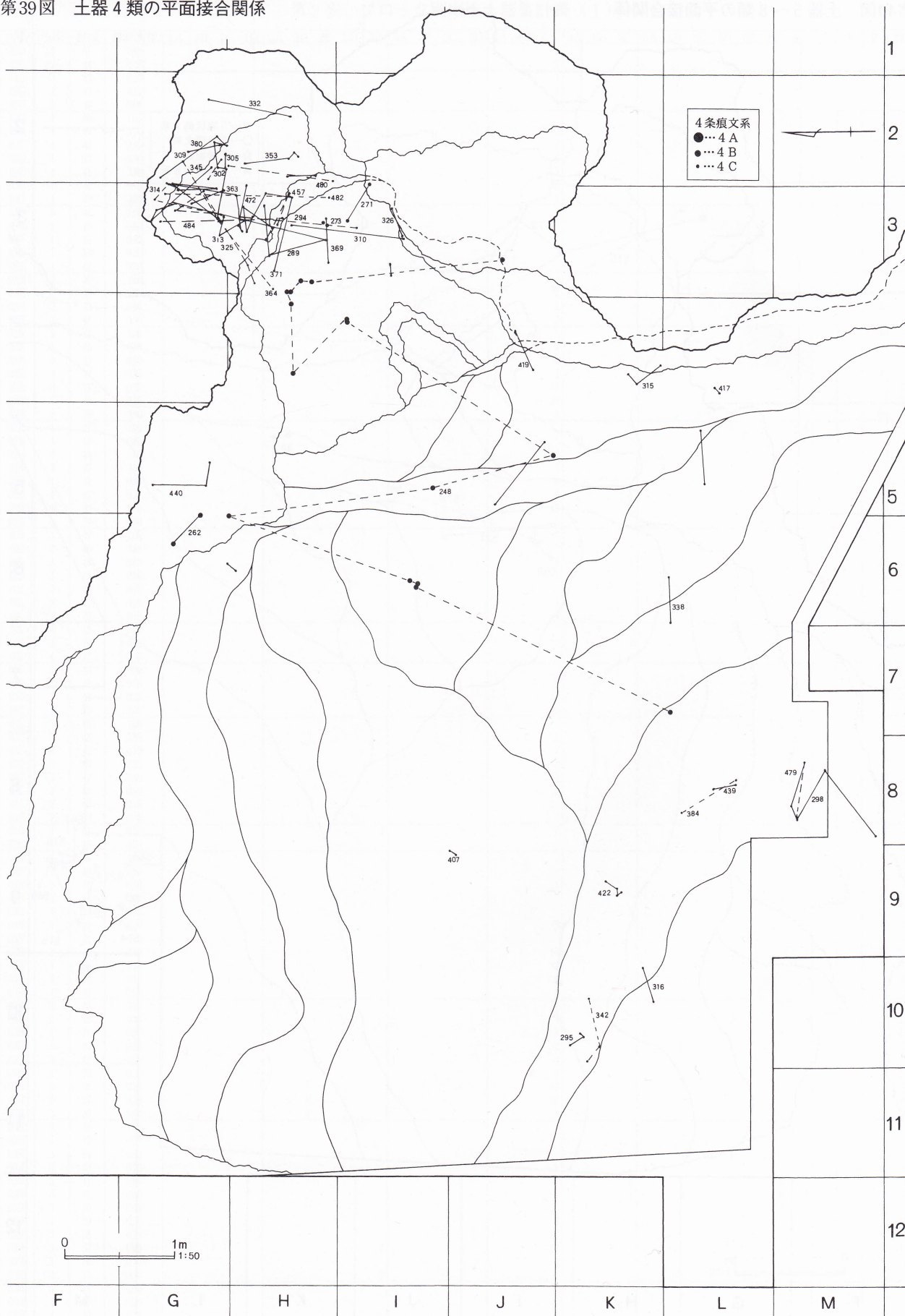
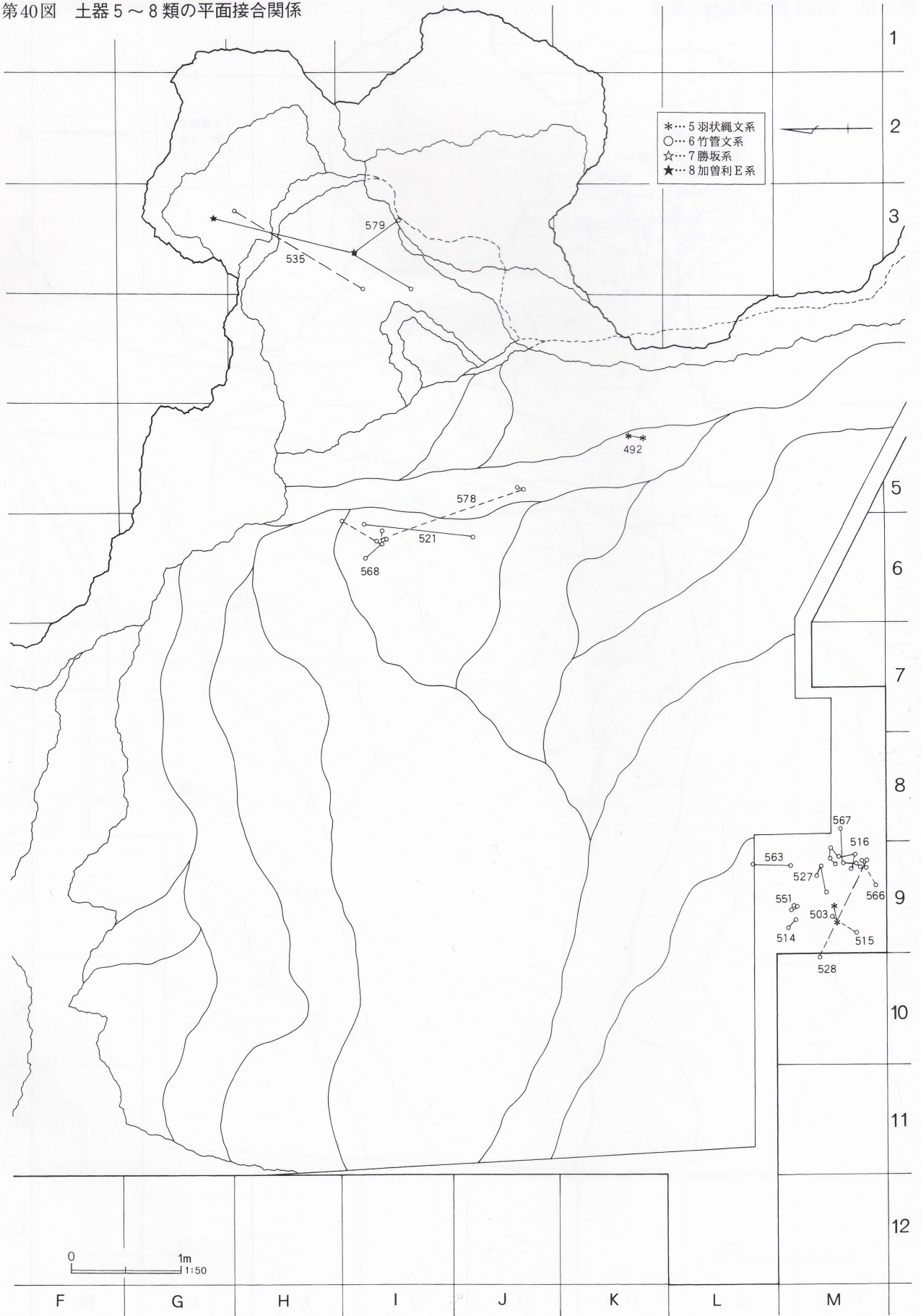


第39図 土器4類の平面接合関係



第40図 土器5～8類の平面接合関係































向の傾斜にほぼ並行している。

第39図に示した4類では、洞穴奥の集中を反映して、近距離間での接合例が多く認められた。これは、分布がより散漫となる前庭部でも同様だが、唯一248のみが広範囲にわたる関係が成立した。

このような例は、前図の沈線文系土器に近似している。実は同番土器は、沈線文系に類似する文様構成が描かれているものの、破片分類の段階では、胎土や線引きの手法などがむしろ条痕文系に類似するとして4類に組み入れたものである。しかし、接合関係からみる限り、やはり整理担当者の分類の誤りである可能性が強い。だが、同じ傾向の沈線文系よりも洞穴の主軸に対して幅広く散乱しており、そこに同土器の特殊性を見いだすことも可能かもしれない。

一方、前期以降の土器の接合関係は、もっぱら6類で成立したものである。接合は、分布範囲の特徴で指摘した三群の比較的近距离間でのみ可能であり、群をまたいで成立した関係はない。

次に、出土土器の垂直分布に転ずると、洞穴内そして前庭部を問わず、おおよそ層位の堆積順や出土位置の相対的な上下に応じて土器の分類相が変化していることがわかる。

第41図には、洞穴内から出土した土器の分類別の分散度と土層別の比率とを示した。このグラフからは、各層ごとの不可侵というわけにはいかないが、それぞれ対角に向かう重心の移動が見て取れる。

とくに、前期前半の5類以降の土器を多く包含するⅡ層と、早期後葉の4類を中心とするⅢ層との間には、あざやかな反転変化が現れている。また、Ⅳ層では、早期中葉の2類のみがもっぱら出土し、4類土器をほとんど含まない。

これを実際の資料にあてたのが第42図である。前のグラフと同様に、左上から右下へ、大きく対角に向かう重心の移動が見て取れる。これは層順として現れた堆積の先後と、実際の時間経過がおおよそ対応していることを表している。

このうち、Ⅱ層は、前期以降中期までの各時期の土

器を含みながらも、Ⅲ層が多く含む早期後葉の4類をほとんど含まない。また、これにも増して、Ⅲ層には前期以降の土器が、きわめてまれな例を除いて入り込んでいない。つまり、洞穴内のⅢ層上位は、Ⅱ層の形成時には、あまり下位を荒らすような行為に及ばなかったということにもなるだろうか。

そして、Ⅱ層と同じく、洞穴内で均等に広がるⅣ層は、薄層ながらも4類土器をほとんど含まない。ところが、Ⅲ層は、4類を主体としながらも、2類を多く包含していた。これは、天井亀裂の雨垂れ痕を境に洞穴奥と入口に分けられるⅢ層のなかでも、入口部方面に多くみられた。

洞穴入口の中層は、灰層と、腐植質の強いⅢJ・ⅢL層が堆積していた。灰層は、最終的には4層に分離できたが、これは、断面観察壁を一瞥する機会を得て初めて可能だった分層で、遺物取り上げなどの精査時は見分けることができなかった。また、灰層は、質色に類似性が強いいため、短期間で形成されたものと憶測し、分層なくしても遺物の出土相に変化ないものと楽観した部分もあった。

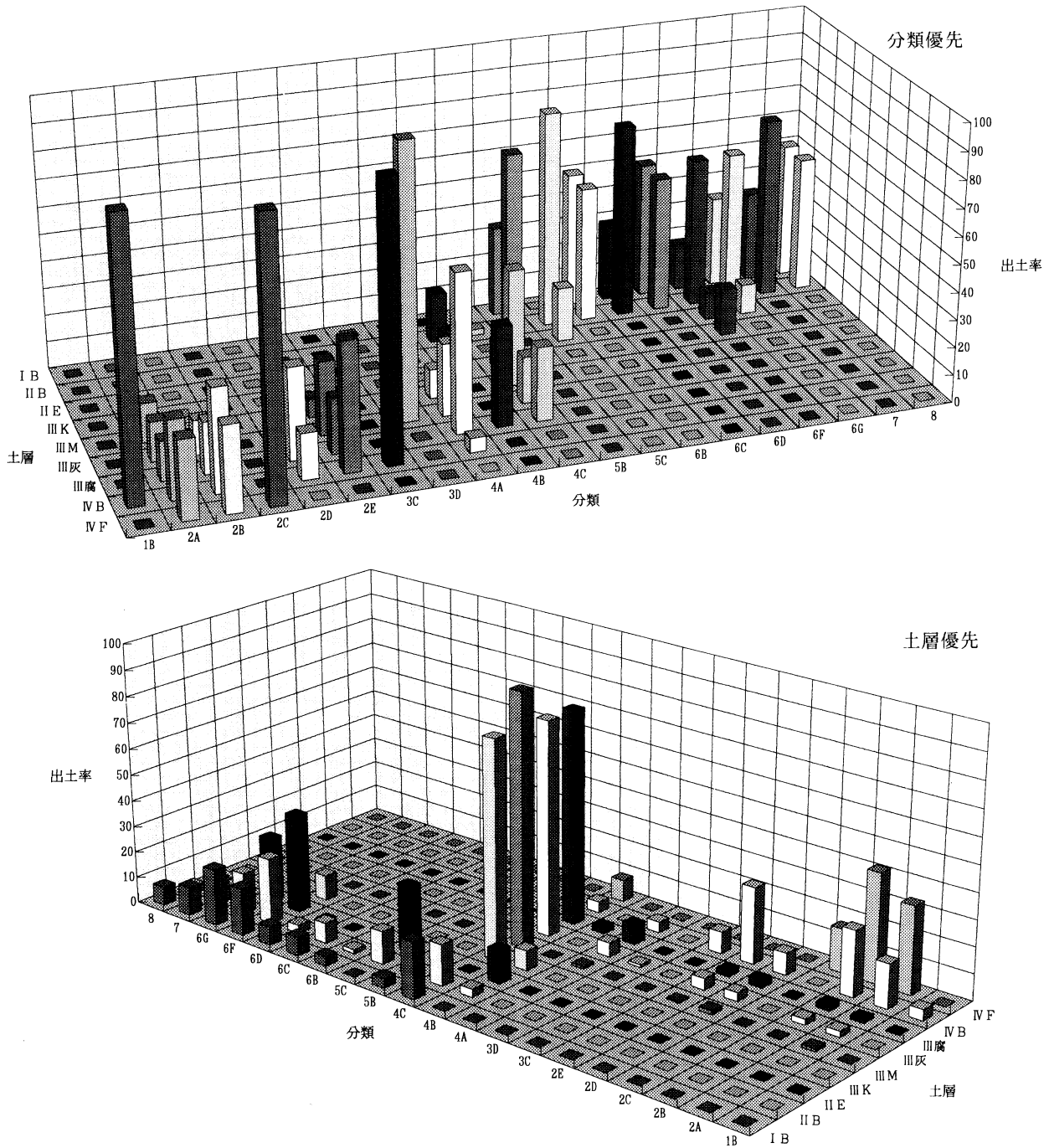
ところが、灰層からは、上位で主体となる4類土器の他に、無視できないほどの2類土器が出土している。今となっては確定できないが、出土高や位置などからしても、多くは灰層でも最下位のⅢI層に含まれていたと考えられる。

これらは、攪乱による混入というよりは、自然堆積の結果と考えられる。したがって、早期後葉を示す文字をあてたが、最初期の灰層であるⅢI層は沈線文系期に堆積したものと判断できる。

また、ⅢJ・ⅢL層の腐植質土も遺物取り上げ時には一括して扱った。こちらは、灰層などが岩盤を伝う水滴や湿気によって変質した層である可能性が強い。となれば、湿気の軌跡でしかない両層の傾斜を無視し、遺物の分布高や位置を目安に周辺のⅢI層やⅢG層などにあてることができる。報告までに整わなかったが、腐植質土出土の4類と2類は、このような方法で帰属別に分離できると考えられる。



第41図 洞穴内の土器出土層比率

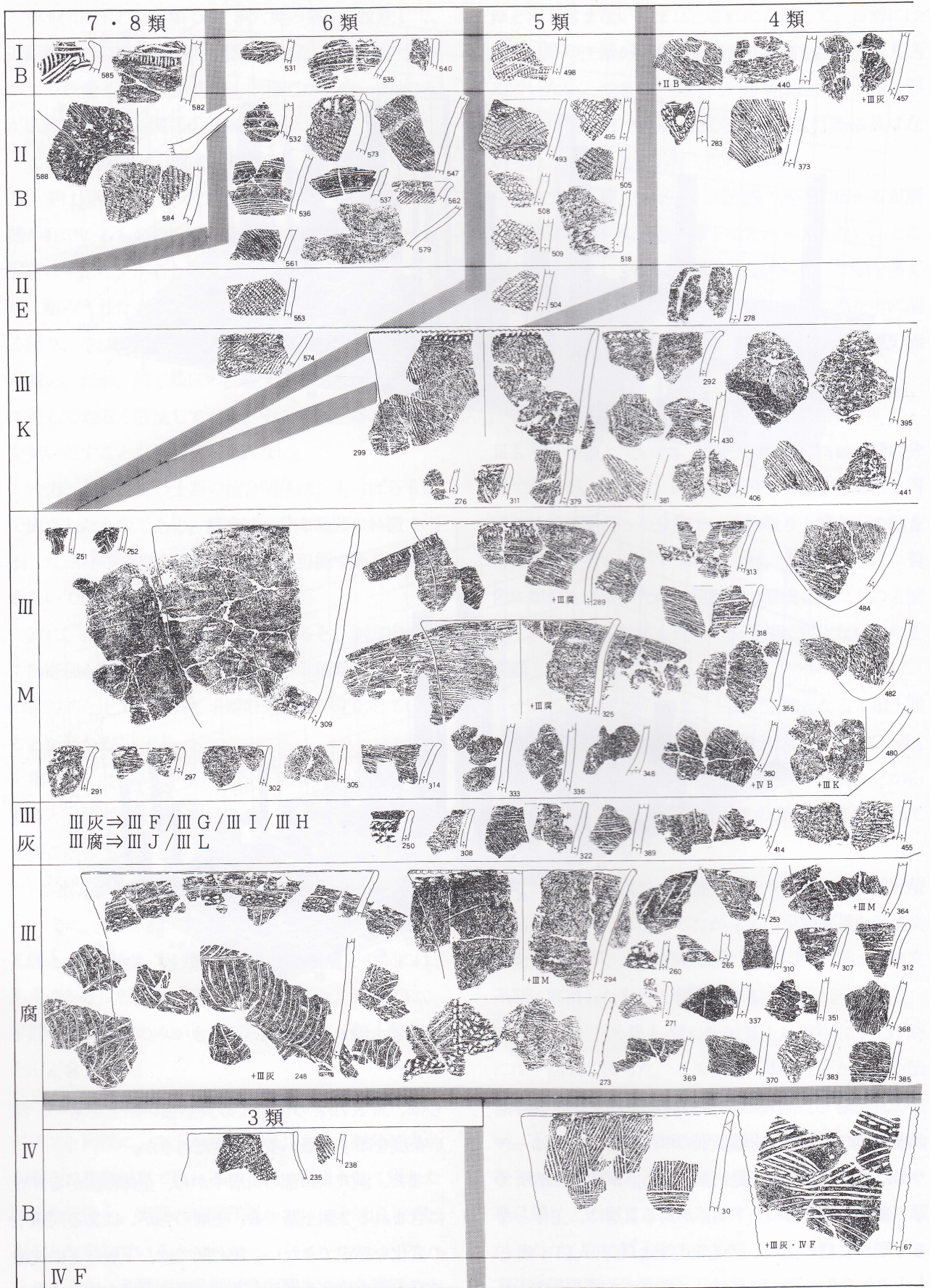


これに対し、洞穴の入口・奥を問わず、同じ時期の堆積層のなかや、土器類別の単位ごとでは、はっきりした変化のきざしが見いだせない。洞穴の二個所で厚く良好な堆積層の上下関係があるⅢ層は、主体となる4類が文様に乏しいのもわざわざいし、入口・奥とも大きな変化を見て取れない。強いてあげるとするな

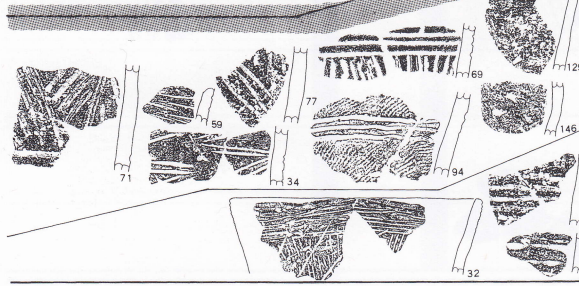
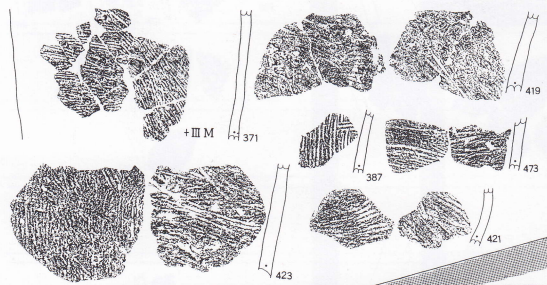
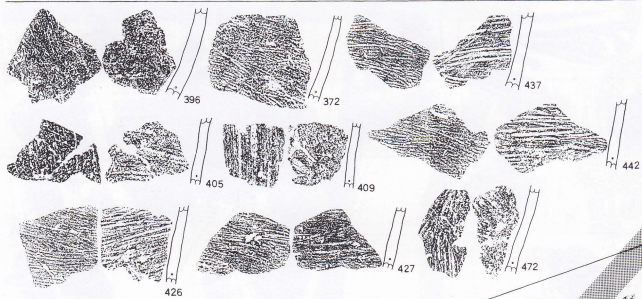
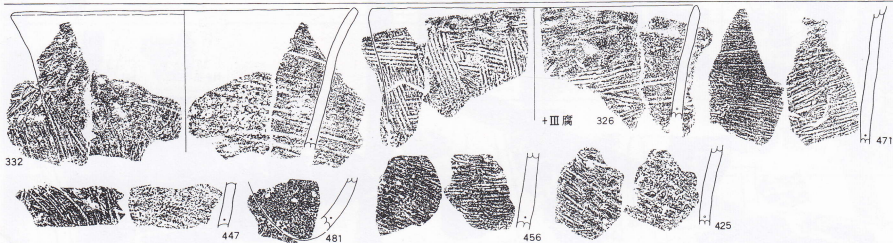
らば、Ⅲ Kなどの上層で砂質感強い胎土をもち、深い条痕を印す土器が多い程度だろうか。

また、洞穴入口部のⅢ層中から、全体に広がるⅣ層に含まれる2類土器でも、土層のちがいによる同類中の変化を確定できない。第42図では、下層ほどに沈線施文土器の比率が増し、逆に上層ほど縄文施文土器が

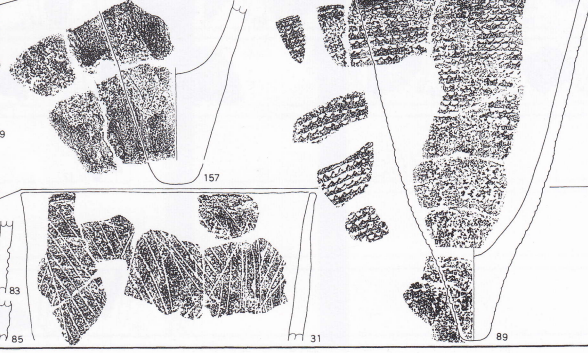
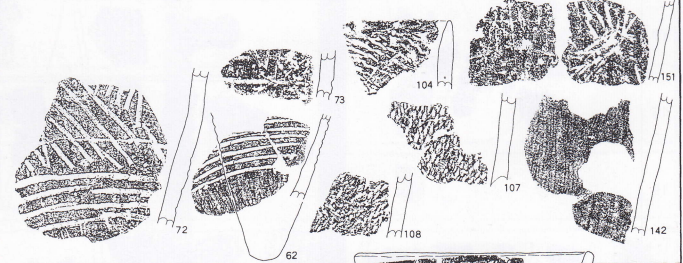
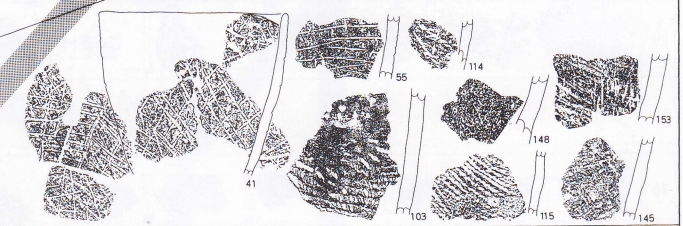
第42図 洞穴内土層別の出土土器



4類



2類

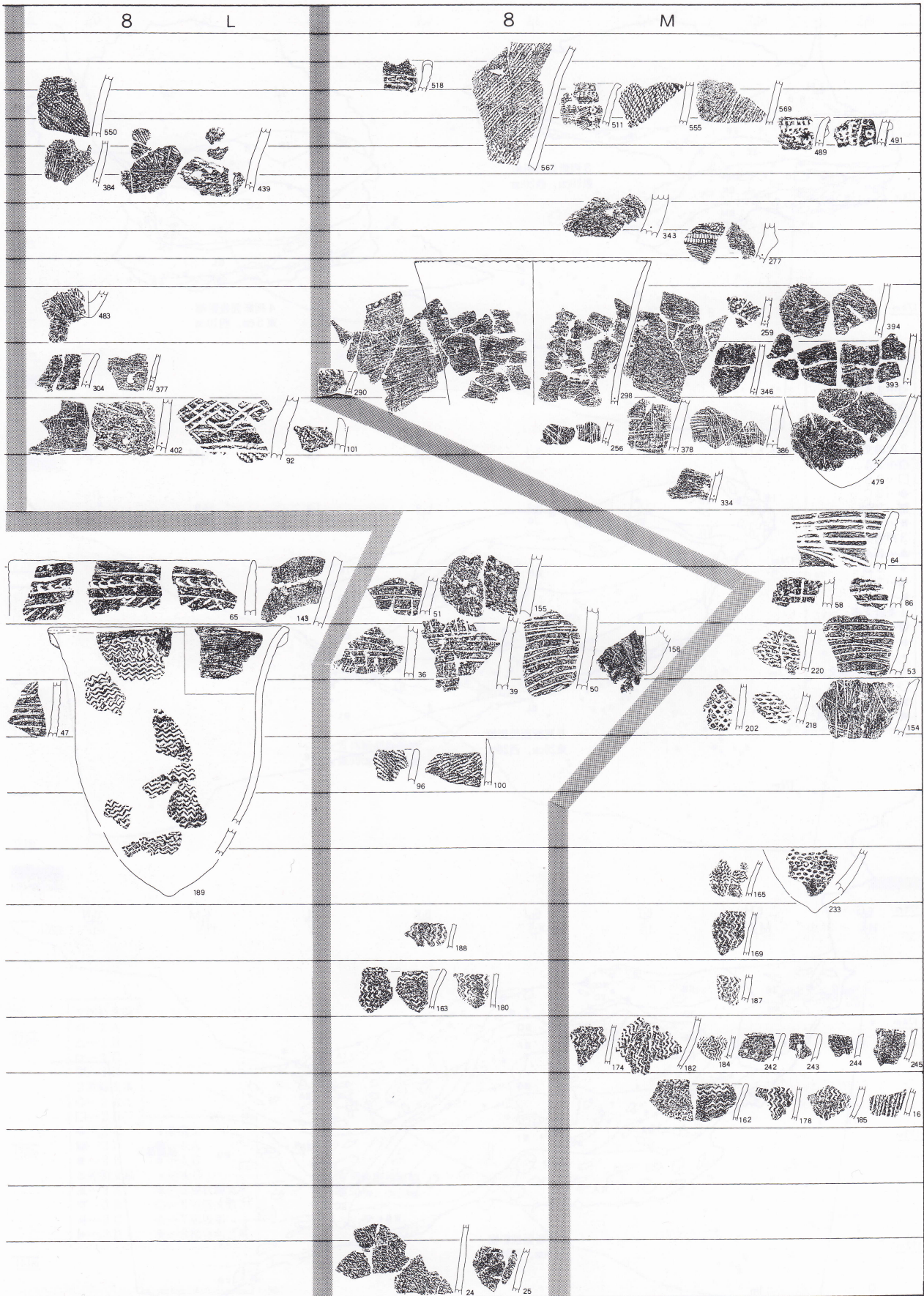


1類

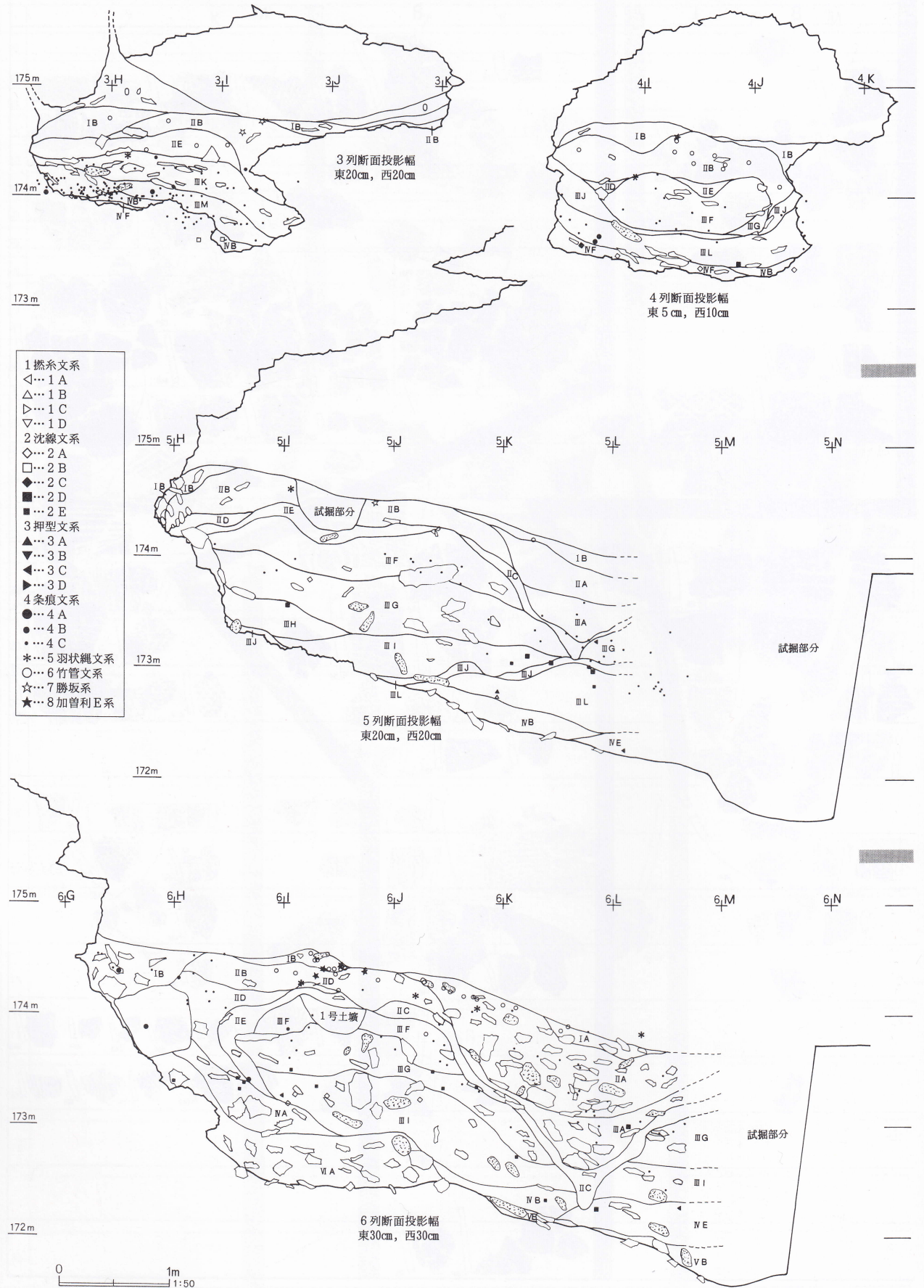


第43図 前庭部ブロック別の出土土器

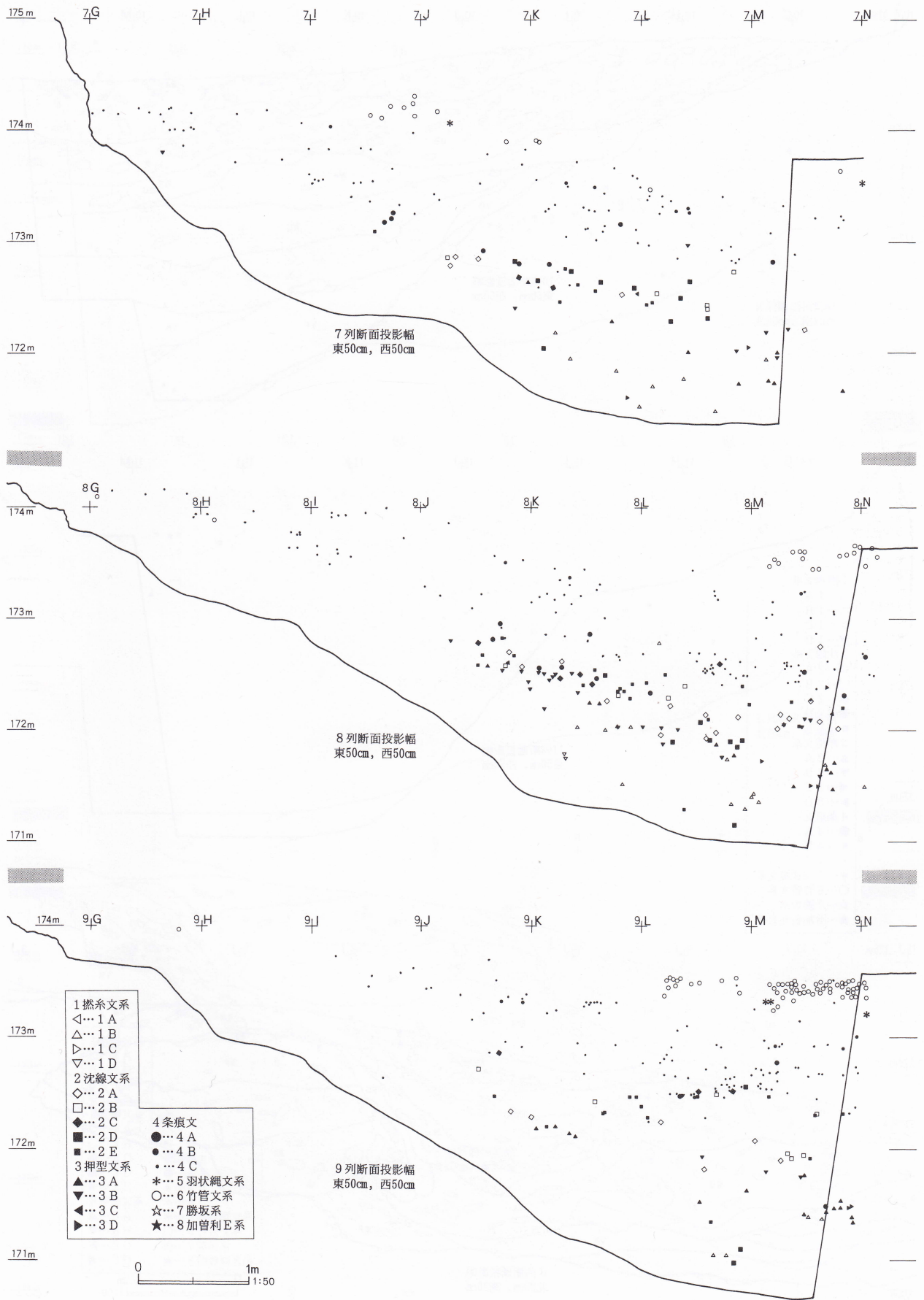




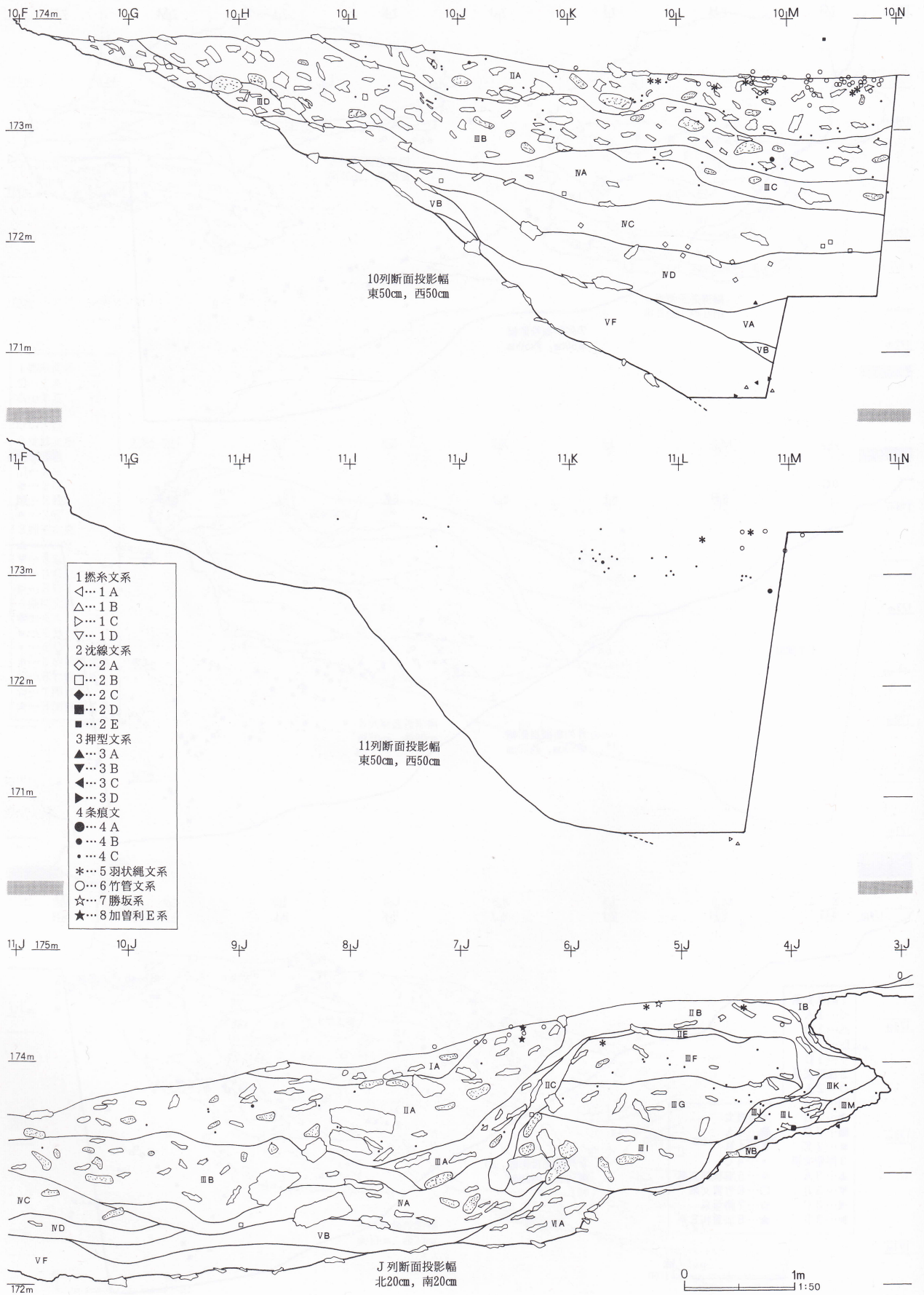
第44図 3～6列上の土器垂直分布



第45図 7～9列上の土器垂直分布

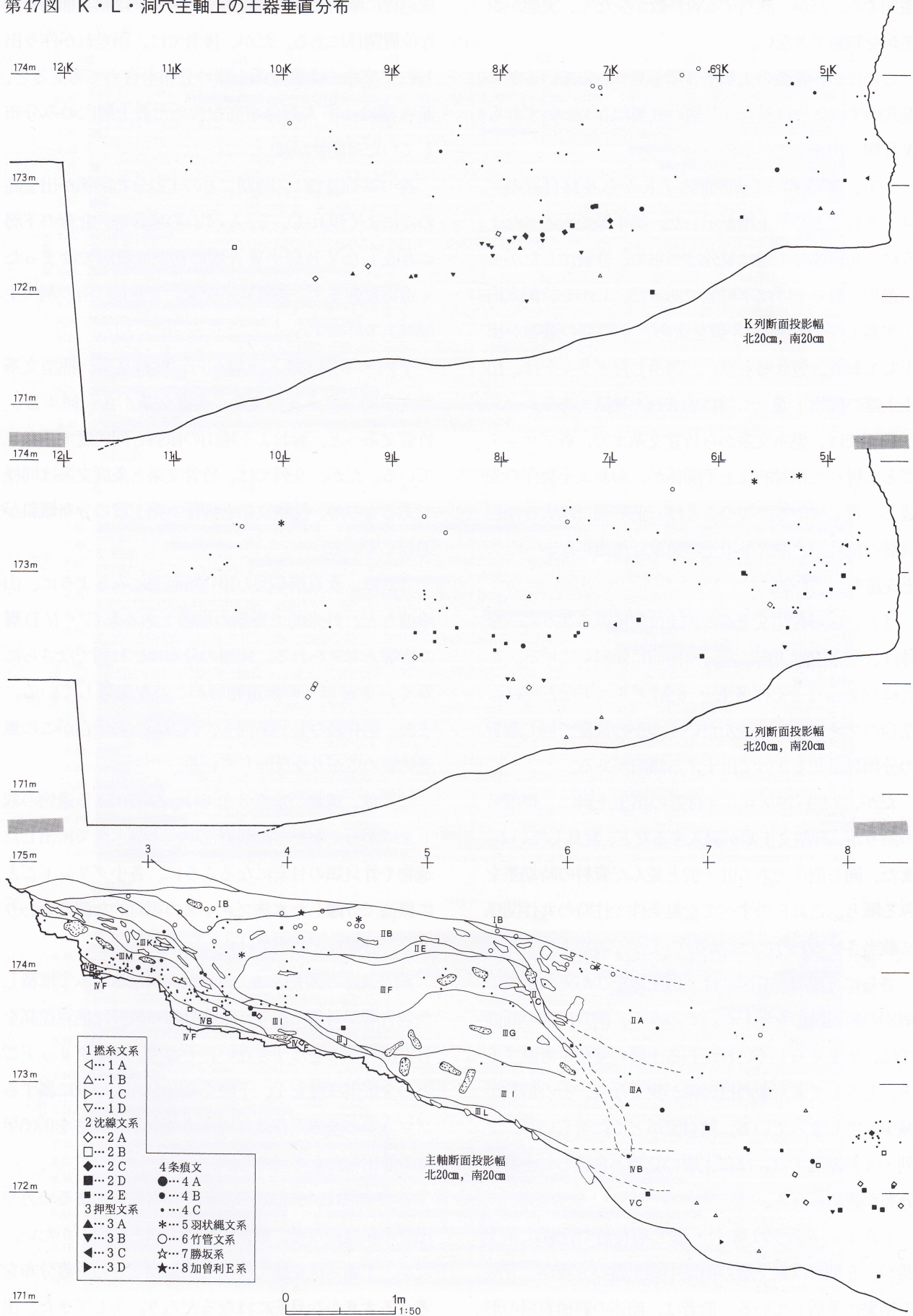


第46図 10・11・J列上の土器垂直分布





第47図 K・L・洞穴主軸上の土器垂直分布



増加する。だが、該当する資料数が少なく、実態か誤差かを判断できない。

このほか、少数の1類や3類も見つかっているが、洞穴内ではこれに見合うV層の堆積はなく、いずれもIVB層で出土している。

一方、第43図には前庭部の7Kから8M付近のブロック高ごとの出土相を示した。第1節でも述べたように、前庭部の土層は見分けづらく、分層にしたがった遺物の取り上げは不可能であった。しかし、洞穴内で欠落していた1・3類を含め、全時期の遺物が出土しており、包含層も厚い。図示したグリッドは、出土土器の種類・量とも特に恵まれた地区である。

同図では、撚糸文系から竹管文系まで、各ブロックごとに現れた相対的な上下関係が、おおよそ製作の先後と一致している。このことは、前庭部では大きな包含層の攪乱や、洞穴堆積土の急激な流出がなかったことを証明している。

また、山形押型文土器の出土位置にみるように、全体は、洞穴主軸方向に沿った南西に傾斜している。これに加え、たとえば8L・8Mグリッドなどでは、空白のブロックをはさんだいくつもの高度で同じ趣旨の分類群がまとまって出土する傾向がある。

だが、7L-29ブロック付近の出土土器は、整理時の誤りか、押型文土器が混入するなど、混乱している。また、同じ個体である91・92と並んだ資料の時期差をみる限り、これらのすべてを無条件で往時の共存関係に該当させるわけにはいかないようである。

さらに、第44～47図には、出土地をひかえた土器の個別の断面投影を示した。このうち、洞穴内部の断面では、めまぐるしくいれかわる土層の変化を考慮すると、どうしても対象の投影幅が狭くなり、その個数が減少してしまっている。第44図がとくに著しいが、3列・4列断面では、ほぼ土層の認識と合致した土器の分布が認められる。

しかし、5列ではⅢI・ⅢL層付近の沈線文系土器が、6列では最上層の前期中期土器の分布が、分層の結果に矛盾している。前者は、前述の腐植質層の形

成過程に照らせば、灰層下位、あるいは相当部の十分な位置関係にある。だが、後者では、雨垂れが作り出したV字中の条痕文系土器の分布も含めて考えると、IIA層は、IA層分布高を含めた最上層にのみ分布していた可能性が強い。

次の第45図では、時期ごとの土器分布関係が出土高の差によく現れている。いずれの場合も、北側の下層に存在したVB層やVIA層の初期堆積層ではまったく遺物を含まず、条痕文系を除いて分布は南の洞穴主軸線上で終始する。

7列・8列では、下層から、撚糸文系、押型文系3A、同3Bと沈線文系、条痕文系4A、同4B、竹管文系へと、おおよそ地山の傾斜と同角度で分布している。だが、9列では、竹管文系と条痕文系は同様であるものの、沈線文系と押型文系土器の分布傾斜が逆転している。

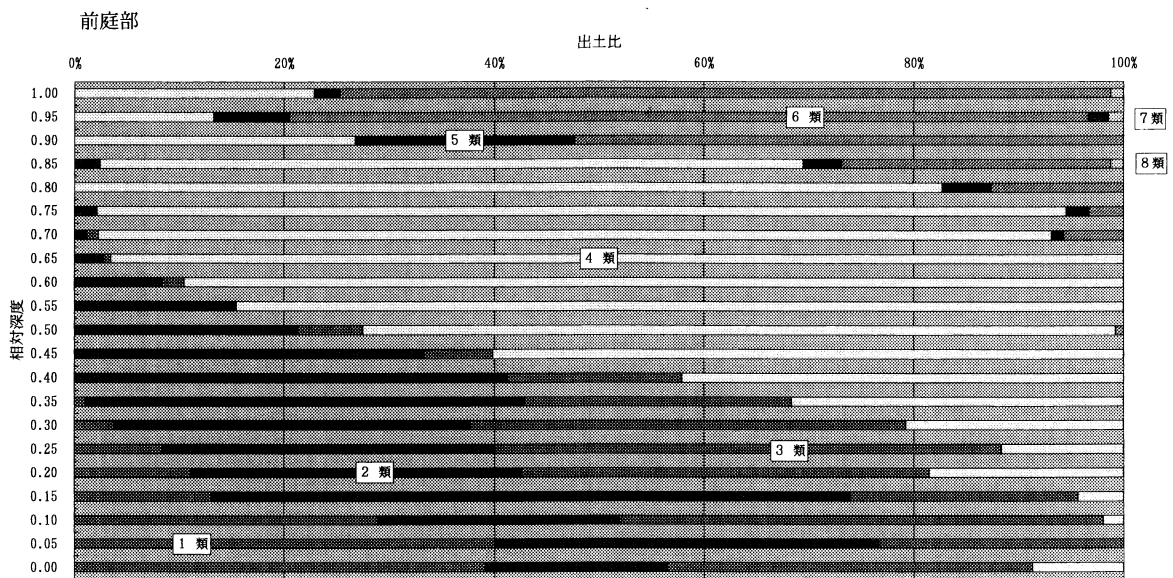
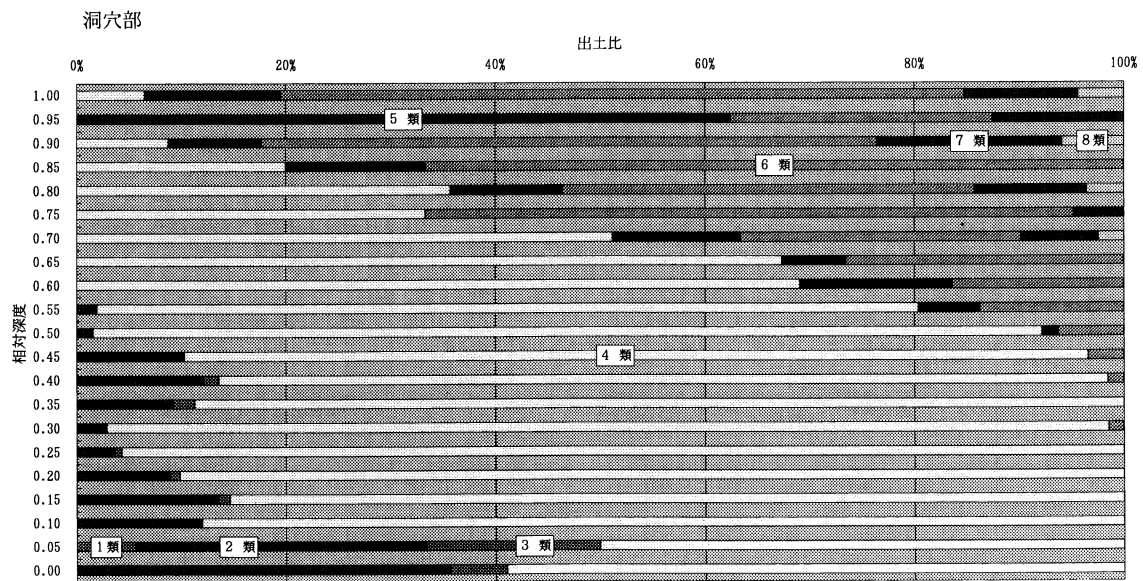
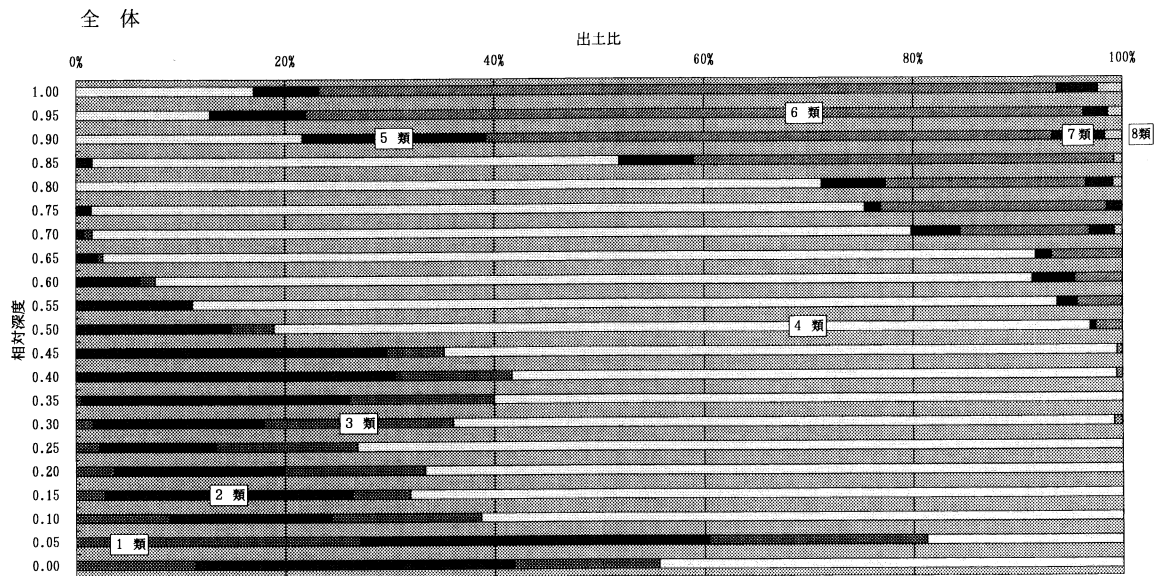
これは、次頁第46図の10列断面図にみるように、山津波など、外来的で短期の堆積であるIVC・IVD層の影響と考えられる。両層の分布は、11列ではさらに厚く、2m以上の無遺物層がこれを象徴している。また、第47図のL列断面も、西方からの空白がこの無遺物層の広がりを反映している。

この他、遺物の垂直分布では、分層による遺物の取り上げが行えなかった前庭部や、土壌水洗で検出した遺物や骨貝類の目安になるように、各小グリッドごとに標高で分離した水洗ブロックの相対的な深度をわり出し、分類などに当てはめた。

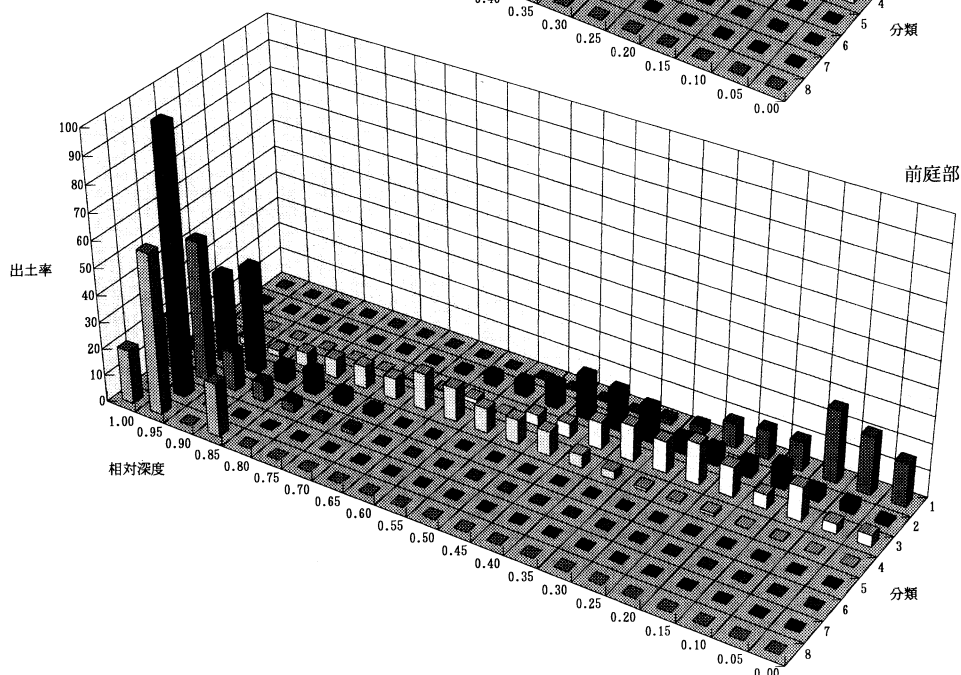
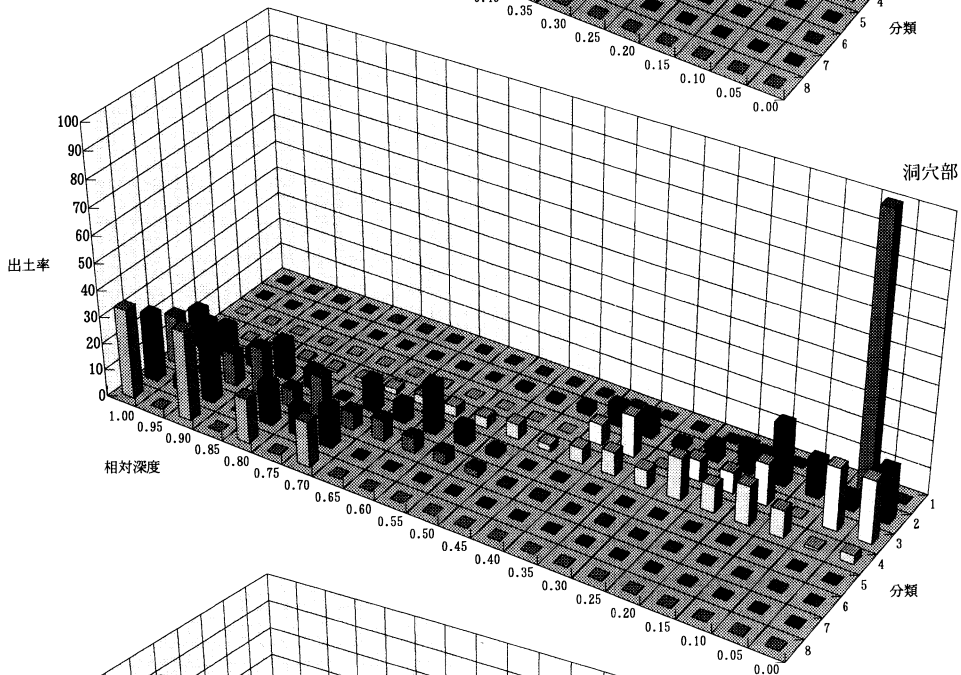
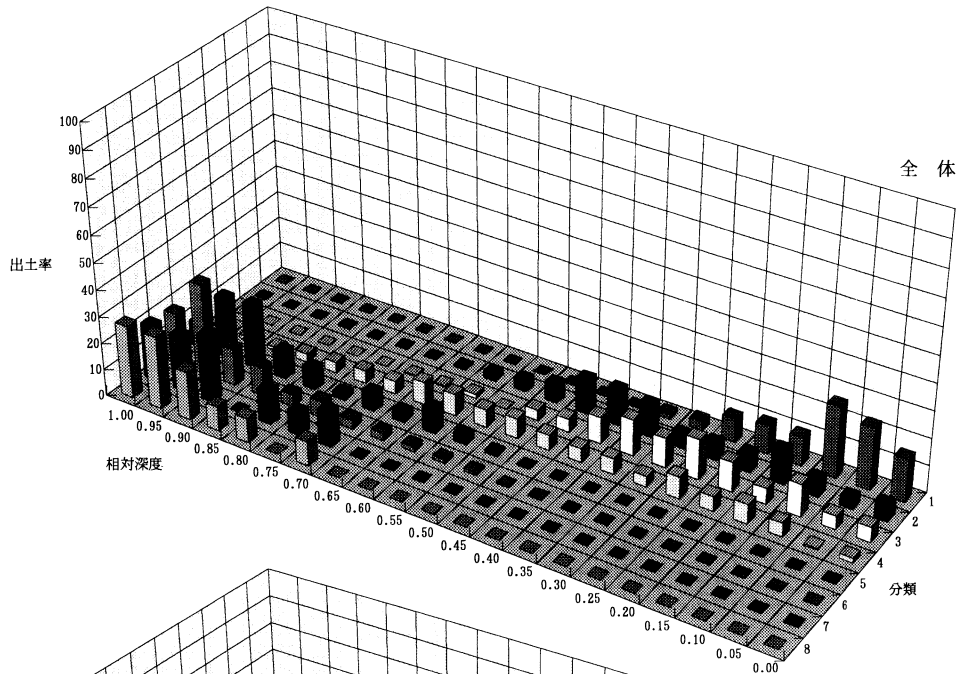
洞穴遺跡の調査区は、斜面地に異なる厚みで堆積した包含層が対象であり、垂直分布の統計は絶対標高を目安に行うことはできない。そこで、各小グリッドごとの全掘削深度を1、下限を0とし、その間に属するブロックの全掘削深度に対する相対的な深さを0.05単位で算出したものである。

この方法は、初期値の制約や相対数値のまるめ方や出現の頻度差など、厳密な統計方法とはいえない。だが、土壌水洗を経て検出した遺物などの垂直分布を考える大まかな目安にはなるだろう。そしてまた、出

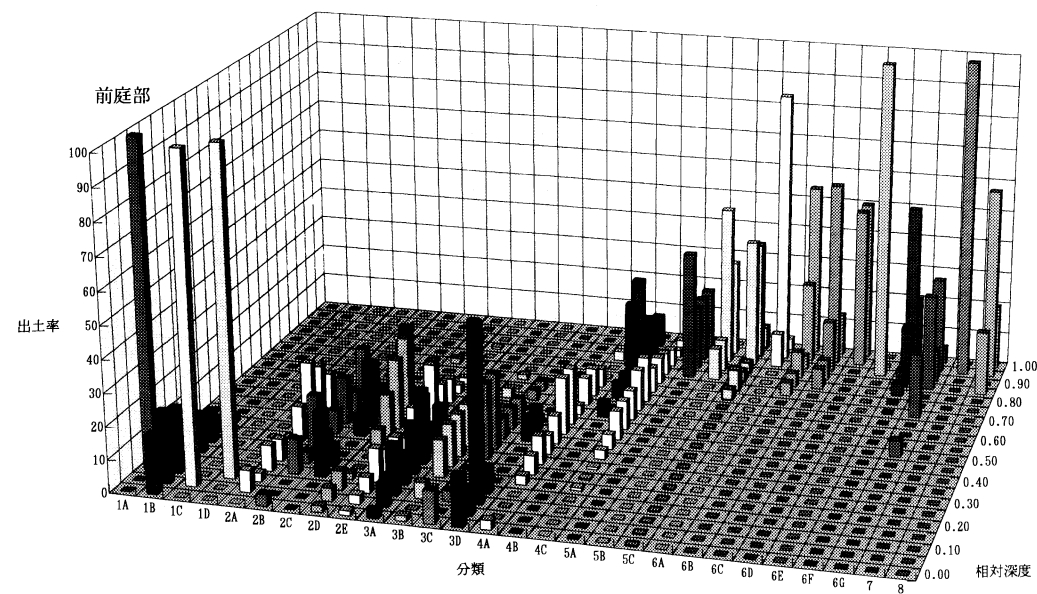
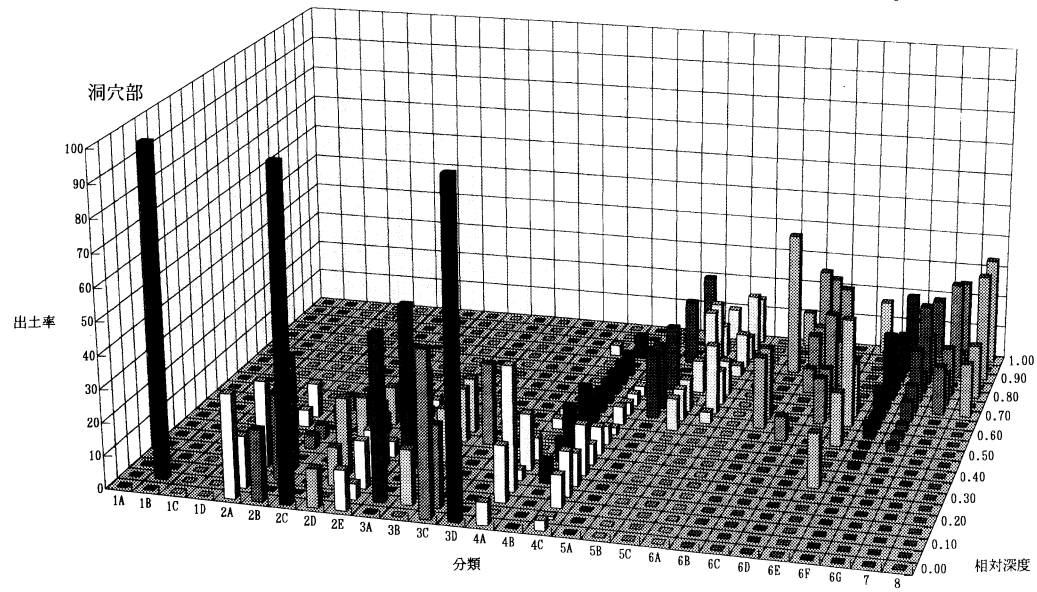
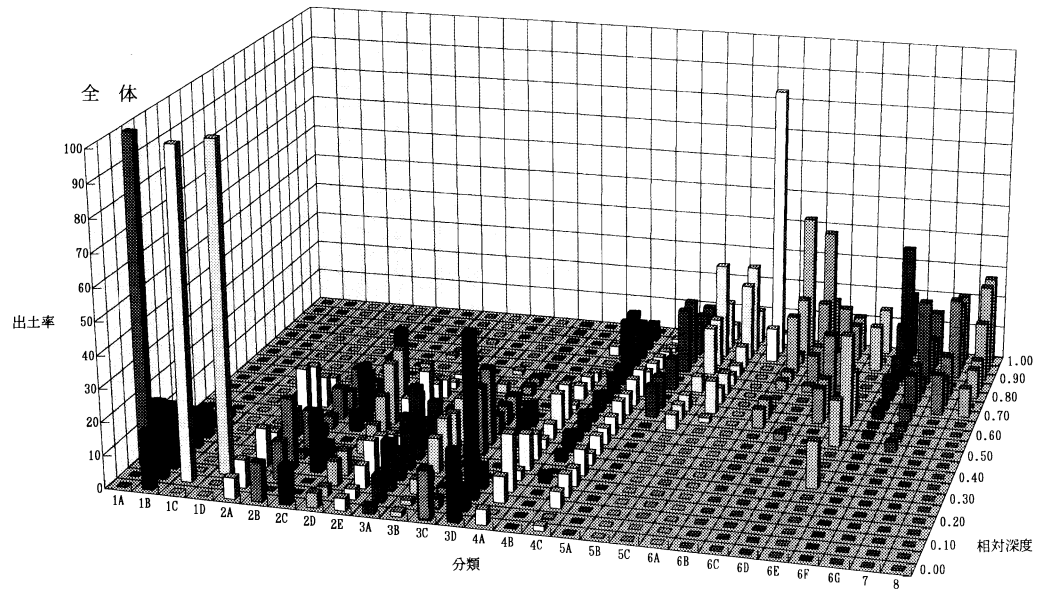
第48図 土器の相対深度別出土比率



第49図 土器の類別出土相対深度



第50図 土器の全分類別出土相対深度



土位置をひかえた遺物などもあわせ、遺跡から発見したすべてを同じ基準のもとで一括して扱える手段となるはずである。また、誤差をおさえるため、各分類の集計は、掘削の総高で0.5 mを超すブロックのみを対象とした。そして、洞穴の内と外では早期前半の土器の出土率に極端な差があるため、洞穴内と前庭部とに分けた集計も行っている。

第48図には、その相対深度ごとの各土器分類の出現率を示した。最上部の数値1.00付近では、洞穴部、前庭部、そして全体ともに前期以降の土器でほとんどが占められる。とくに、洞穴内では、その傾向が強く、1・3類など、古相の資料が少ない分だけ、より下位の深度から前期土器が出現する。

これに対し、前庭部では、洞穴部とは逆に、1から3類が下位の出現種を独占している。そして、最下層での出現率を二分する1類と3類は、大方が掘削高の下位1/3までに出土している。

さらに、第49図には、土器の類別を優先した相対深度の分布を示した。こちらでも、早期と前期の間に極端な変化がみられ、これは、全体・洞穴部・前庭部の、集計三対象のいずれにも共通する。また、全体と前庭部では、早期類別の出現率の頂点が、捺糸文系から押型文系へ、さらに沈線文系から条痕文系へ、順に上位に移りかわっている。

対して、前期以降では、このような傾向がでない。これは、包含層の層厚が結果的に十分発達できなかったのと、資料の絶対的な数量の不足が不利にはたっていると考えられる。それでも、前期土器は中期より下位から出現し始めるなど、細かなきざしをとらえることは可能である。

さらに、第50図は、土器の全分類種を対象に相対深度による出現率を表した図である。資料の不足から、極端な傾向が現れた1C・1D種などを除けば、第49図と同様の、そしてさらに細かな個別種間の傾向を見取ることができる。

早期土器の1から3類では、やはり前庭部でばらつきのない傾向がでている。1類の多くを占める1B

種は、より掘削下限に近い位置に集中し、これに次ぐのが3A種となる。以下、3B種や3C種、あるいは沈線文系の各種が続く。

また、沈線文系では、2A・2B種に大きな差はみられないが、2D・2Eの二種は、前二者より比較的上位に重心が存在する。この他、3D種のみが1類と同様、常に下位から出土しているが、実際に古いのか、統計の誤差か、判断がつかない。

もっとも出土量の多い4類は、それがために大きな稜が形成されないが、逆に確実性が増加する。各集計ともに、4Aから4Cまでの三種では、4A・4C・4Bの順で下位からピークを迎える。とくに、4A種は沈線文系の一部とほぼ同じような深度分布となり、鶺鴒ヶ島台式前後の時期を念頭にした4B種との分離は、大勢で誤りないことを示している。

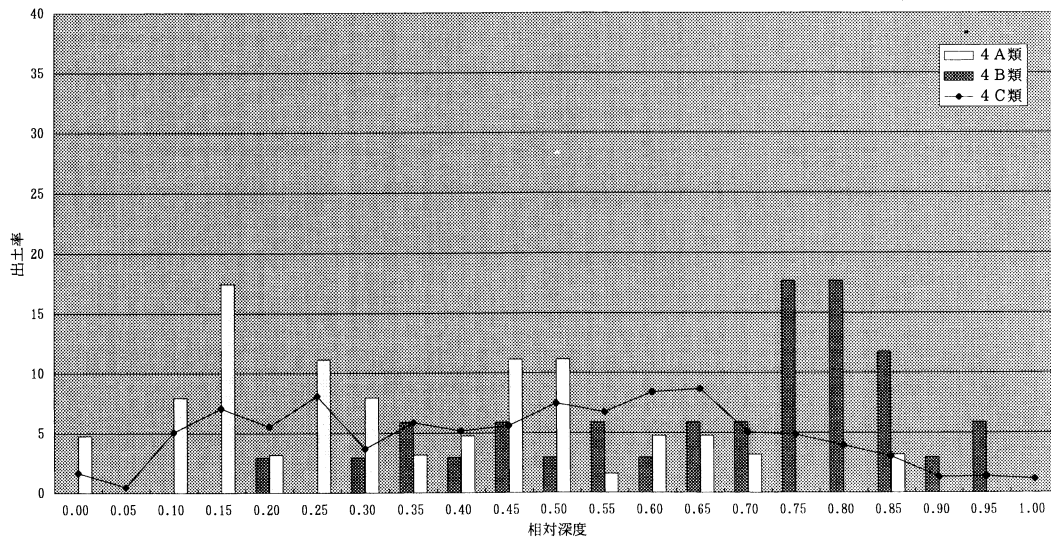
また、第51図では4類中の3種だけを比較したが、洞穴内での4C種は、下層に集中する4A近くにピークをもつ。そして、前庭部では中層と上層に分かれた4A・4Bのほぼ中間に出土値の稜がある。このように、条痕・擦痕文のみで4A・4Bどちらの有文土器に伴うか判断に迷う4C種であるが、どちらかというとなら4A種への傾斜が強く、出土率はB種との出現比以上に及ぶと考えられる。

以上、洞穴内と前庭部の大まかな土器の出土傾向についてみた。分布は、平面・垂直とも洞穴主軸に沿った南西への傾斜のなかで広がっている。各期の平面分布範囲は、出土率と対応し、遺跡利用の開始から早期後葉までの一律な拡大を経て、前期以降の限定された使用へと移行する。

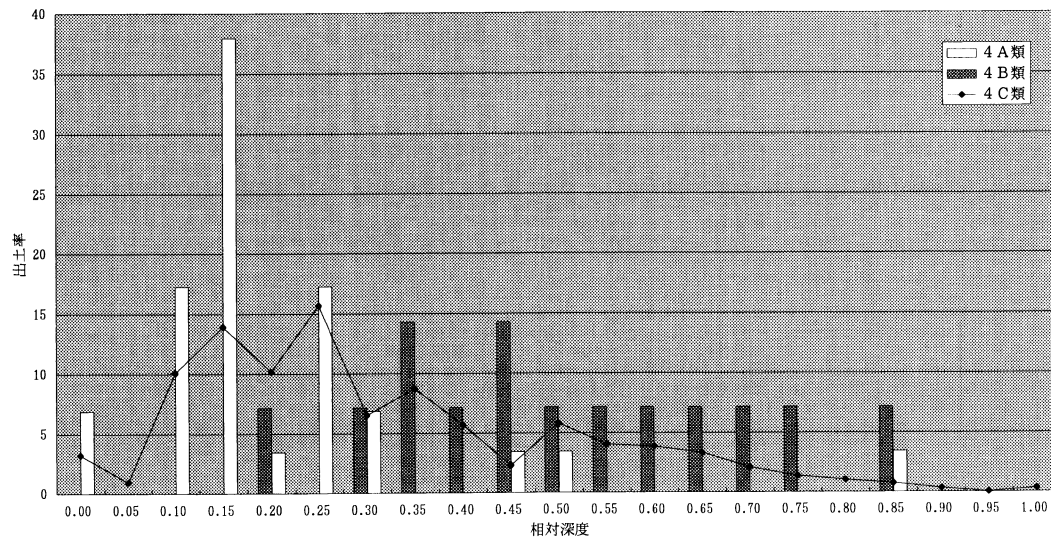
また、それら垂直分布は、大きな波乱なく、おおよそ実際の堆積時の先後を保ちながら分布しており、平面分布と符合するように、とくに早期と前期の端境がはっきりと分離できる傾向があった。この時期的な分布の特徴は、石器や骨貝類でも共通するはずだが、分類の手法や遺存環境の関係から、土器でのみ現れたものが多かった。

第51図 土器4類の相対深度別出土比率

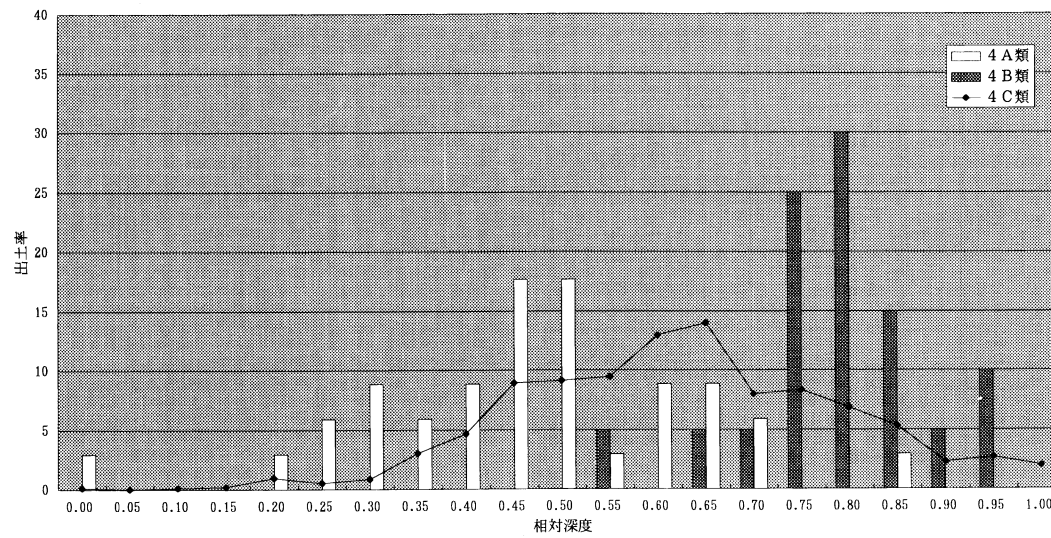
全体



洞穴部



前庭部



### (3) 石器の出土状態

右表にも示したとおり、今回の調査では総20,670点の石器類が出土した。このうち、18,753点が土壌水洗作業で検出でき、さらに表採などの出土地不明56点を差し引いた1,861点が出土位置を控えたものである。石器製品は1,209点を数え、6点の石製品類とあわせれば、総計1,215点となる。

その石器製品に限り、器種別の出現比でみたのが第52図である。調査区全体で出土した石器製品は、約半数が定型・不定形の礫器で占められ、残りを小型・大型の削器、石鏃、そして磨石類が三分する。

だが、これをさらに洞穴部と前庭部にわけると、石器を秤に掛けたような変化があらわれる。すなわち、洞穴部では、全体とくらべて石鏃・削器の軽量製品の出土率が増し、両者で半数を占める。反面、これに押された礫器と磨石類の重量物が減少する。

前庭部はこの逆で、礫器・磨石類の出土率が増加し、軽量製品の比率が減少する。また、前期以降の石斧類は、いずれも洞穴かその至近で発見され、早期のスタンプ形石器は前庭部で発見されている。また、装飾品・石製円盤などは、洞穴内で検出できた。

さらに、第15表と第53図を頼りに平面分布をみると、全体の分布域や濃淡は、第34図に示した土器の分布とほとんどかわりないことがわかる。その多くは、灰層の中央を避けた洞穴主軸方向に分散するが、土器より

やや南での出土率が高く、洞穴奥での分布が薄いのが数少ない変化でもある。

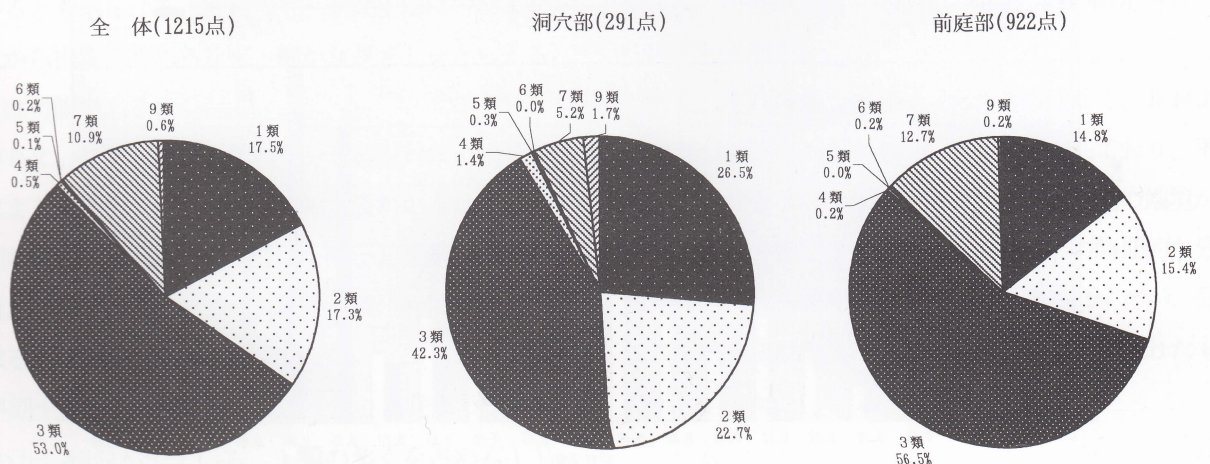
そして、第54図以下の種類別平面分布を加えると、より細かな分類ごとの傾向が見て取れる。このうち1類は、水洗選別遺物も含めた第15表でみると、洞穴内の比重が高く、未製品のF類はほとんどが6列までに分布していた。

また、黒曜石・チャート製の小型削器を分類した2A種や、大型だが定型的な削器類となる2B種も同じような傾向が指摘できる。だが、礫器に通じる面が多い2C・2D種は、前庭部にもそんな量分布している。また、第55図に示した3類の礫器は、石器分布域のほとんどを網羅する。3B種が前庭部L列西部に多い。しかし、傾向があるが、3A・C・D種にはこれといった傾向を見いだせない。

これに対し、第56図に示した4～7類では、石斧類は洞穴内、スタンプ形石器は前庭部に分布していた4から6類の傾向は、前述したとおりである。また、磨石類の出土は4K以南・以西がもっぱらで、洞穴内にはわずかしき入り込まない。そのなかで、7B種の凹石は、雨垂れ下を避けるように、洞穴内と7列以西に分布域が二分されている。

さらに、第57図の剥片類のうち、黒曜石を素材とした8A類は、小片が多く、出土位置を記録できたものが少ない。同図では前庭部の南西方に集中するよう

第52図 出土石器製品の類別比率

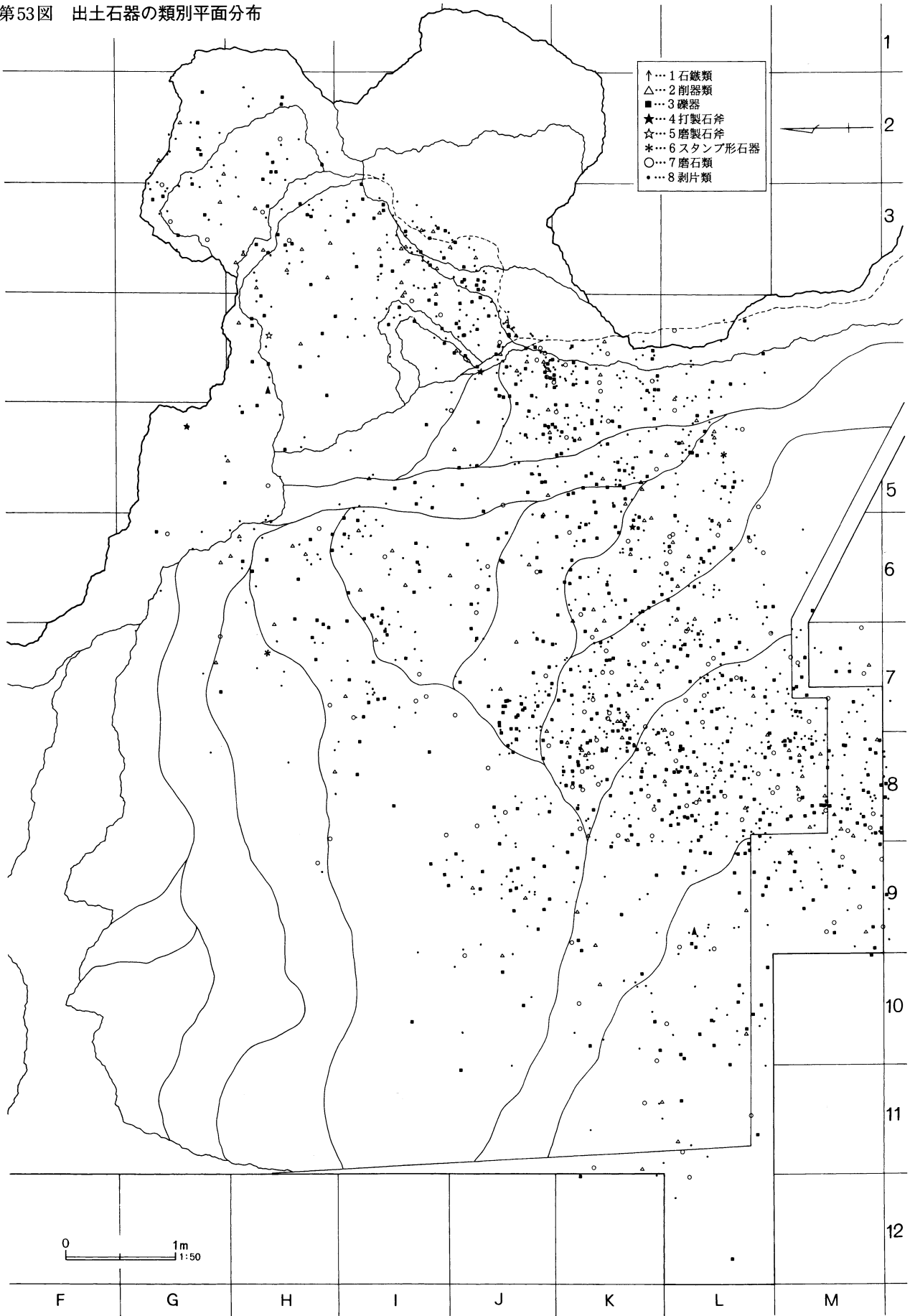




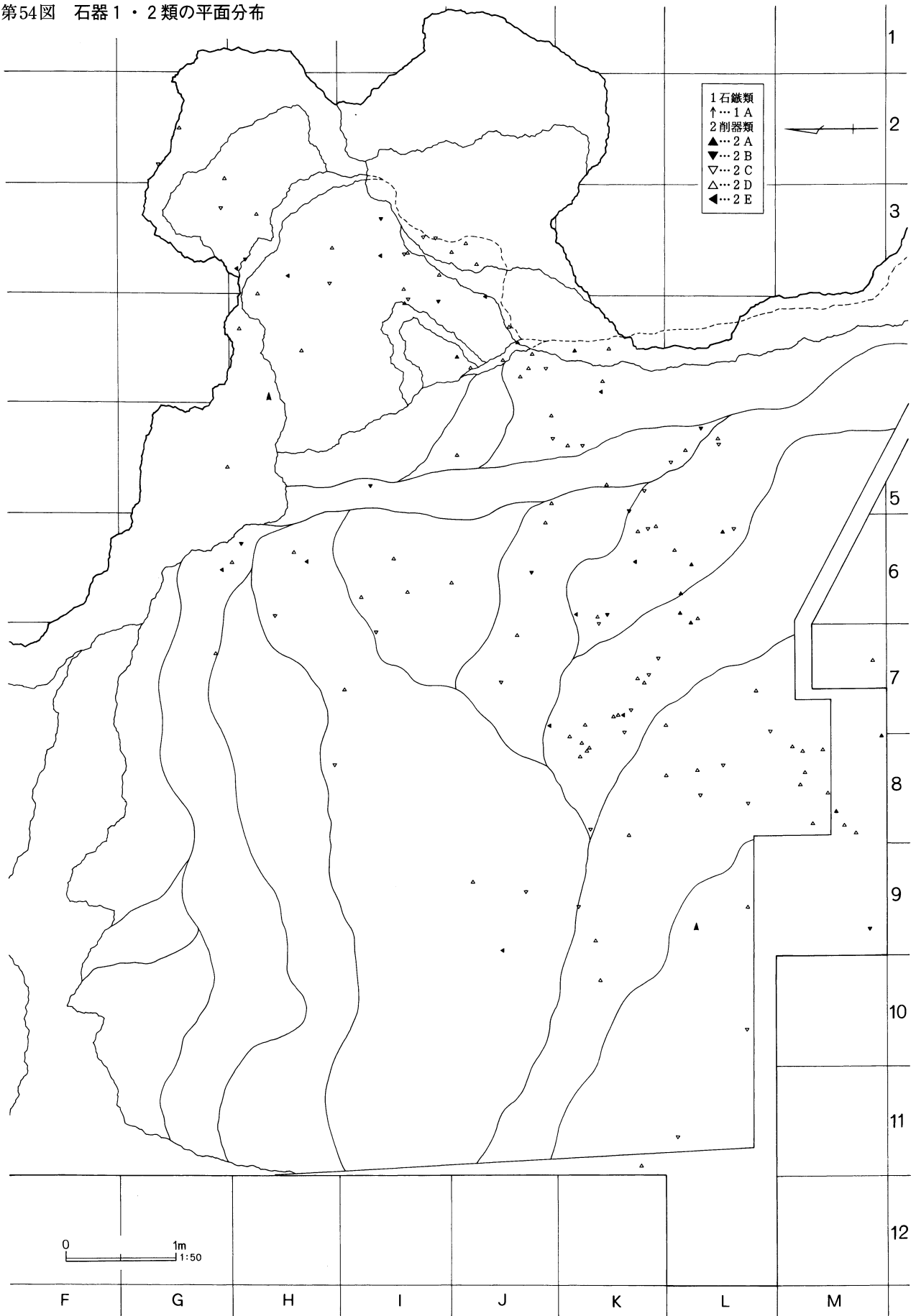
第15表 グリッド別出土石器集計表

	1A	1B	1C	1D	1E	1F	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3A	3B	3C	3D	3E	3F	3G	4	5	6	7A	7B	7C	7D	8A	8B	8C	9	計
02G	2					1			1	1					1	2			1							15	18	91		133	
02H	3												3		1	3							1			32	40	101		185	
02I												1														7	3	18		29	
03G		1				1			1						1	2	1		1				2	1		28	99	81		219	
03H	7	1			1	2	2	1	1	3	2	2	3		2	6		1	1		1		1	1		89	208	282	3	619	
03I	3				2	1	1	1	3	5	1	1	3		4	6	1		4							119	187	394	1	737	
03J	1	3				1	1			3			3		3	2			1							42	91	74		225	
04H	2	2	1		1	2	2		1	2			1		4	4					1		1			258	275	373		929	
04I	7	2						1	1	4		1			2	5			2					1	1	252	268	469		1016	
04J	3	3		1	1	2	5		1	8	1	1	3	1	13	12	2	2	2	1	1			4	2	244	414	450	1	1177	
04K	3	3	1		1	1	2			2	1		1	1	3	6	1		2				5	1		316	177	386		913	
04L	2		1		3	6	1									1		2	1					1		313	218	443		992	
04M																														0	
05G																					1					69	3	45		118	
05H	4				2	1				1					1	4	1		2				1			182	49	386		634	
05I	5	2	1		1	3	3	1					1	1	2	1	1		1	1						225	67	533		849	
05J	1	2			3	4	1		1	4		1		1	6	6		1	5					1	1	393	136	668		1235	
05K	8	1			2	6	3	1	2	5		2	2	2	12	18	2		5				4			427	132	795		1429	
05L	4	3	1	1	2	2	6	1	3	3		2	1		4	5	1		1			1	3			398	148	644	1	1235	
06G										1						1								1		16	1	15		35	
06H	2		1			2	2	1		2	1	1	1		4	5							1			87	45	118		273	
06I	8					1	1			3		2	1		4	6		1	3					1		144	127	504		806	
06J	2	4	1			2	1	1		3			1		5	6		1					3	1		364	146	789		1330	
06K	4	2			2	2		1	1	3	2		3	1	11	15	1		3	1			2	1		223	128	804		1210	
06L	5	5	1			6	5		1	2		2	3	2	4	8	1		2				4	3		189	140	662		1045	
06M	3	1														1										134	37	114		290	
07G										1			1												1	1	1	2		7	
07H										1			1		2	1							1			1	4	7		19	
07I	1									1	2		2		5	2							2	1	1	25	1	28		71	
07J	1									1	1	1	3		9	14	1	1					2			32	19	57		142	
07K	1						1		4	7	1		3		12	12		1	3				9	1	1	70	23	156		305	
07L	2	3					2		1				1	3	14	6	1	1	1				4	1	3	78	59	229		409	
07M	1	2					1			1				2	1	8			1				2	2	2	48	15	89		175	
07N																													1	1	
08G																													1	1	
08H																									1	4	2	34		41	
08I											1		1		1	2										8	5	9		27	
08J							1								4	4		1					2	1	1	23	3	39		79	
08K	1	1			1					2	7		5	4	11	12			5				8		4	36	37	204		338	
08L			1	1						4	1		5	4	12	23	1	1	4				7		2	37	36	208		347	
08M	1						2			9			5		8	19	1	2	7				2	3	1	66	28	222		376	
08N															1	2													1	4	
09G																														0	
09H																													1	2	
09I	1																		1							2	3	4		11	
09J										1	1	1			8	6			1					1		15	11	31		76	
09K						1				1	1		2		4			1						1		18	9	50		88	
09L			1			1				1			1		6	8		1						1	1	9	8	56		94	
09M									1				4		6	6			1	1				1	3	2	23	21	96	1	166
09N																														0	
10G																														0	
10I															1															1	
10J															1	1													4	6	
10K										1			1		1	2							2			1		8		16	
10L										1					3	8		1						1		1		10		25	
11H																														0	
11J															1															1	
11K										1		1			1									1	1				5	10	
11L										1					2									2	1				2	8	
11M																														0	
12L																1													1	2	
遺構																											22	7	70		99
人骨	1									1																			2	4	
不明							1				1																22	10	22		56
総計	89	43	9	2	23	47	44	10	34	91	13	18	65	23	199	263	16	17	61	6	1	2	79	23	29	1	5108	3459	10888	7	20670

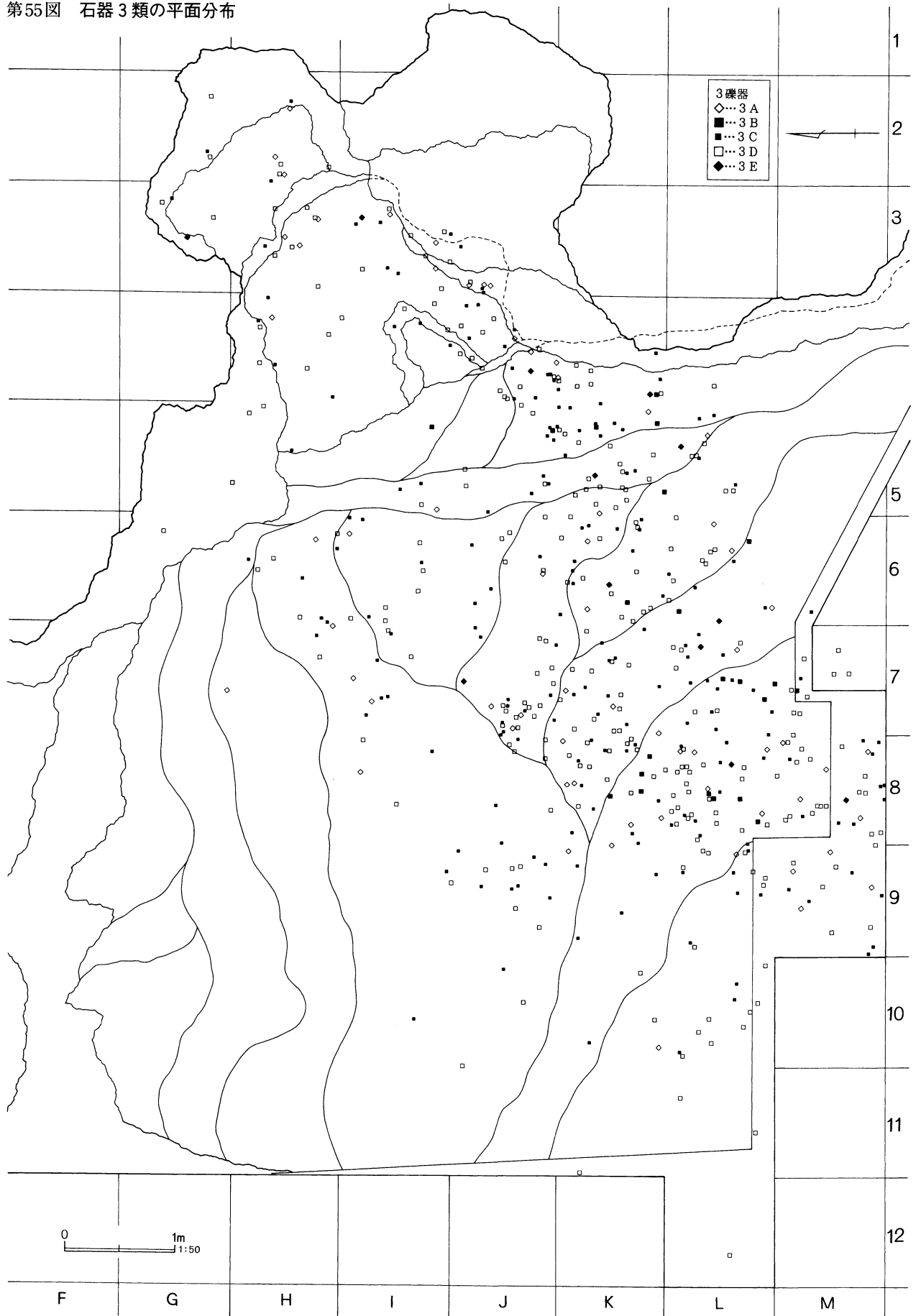
第53図 出土石器の類別平面分布



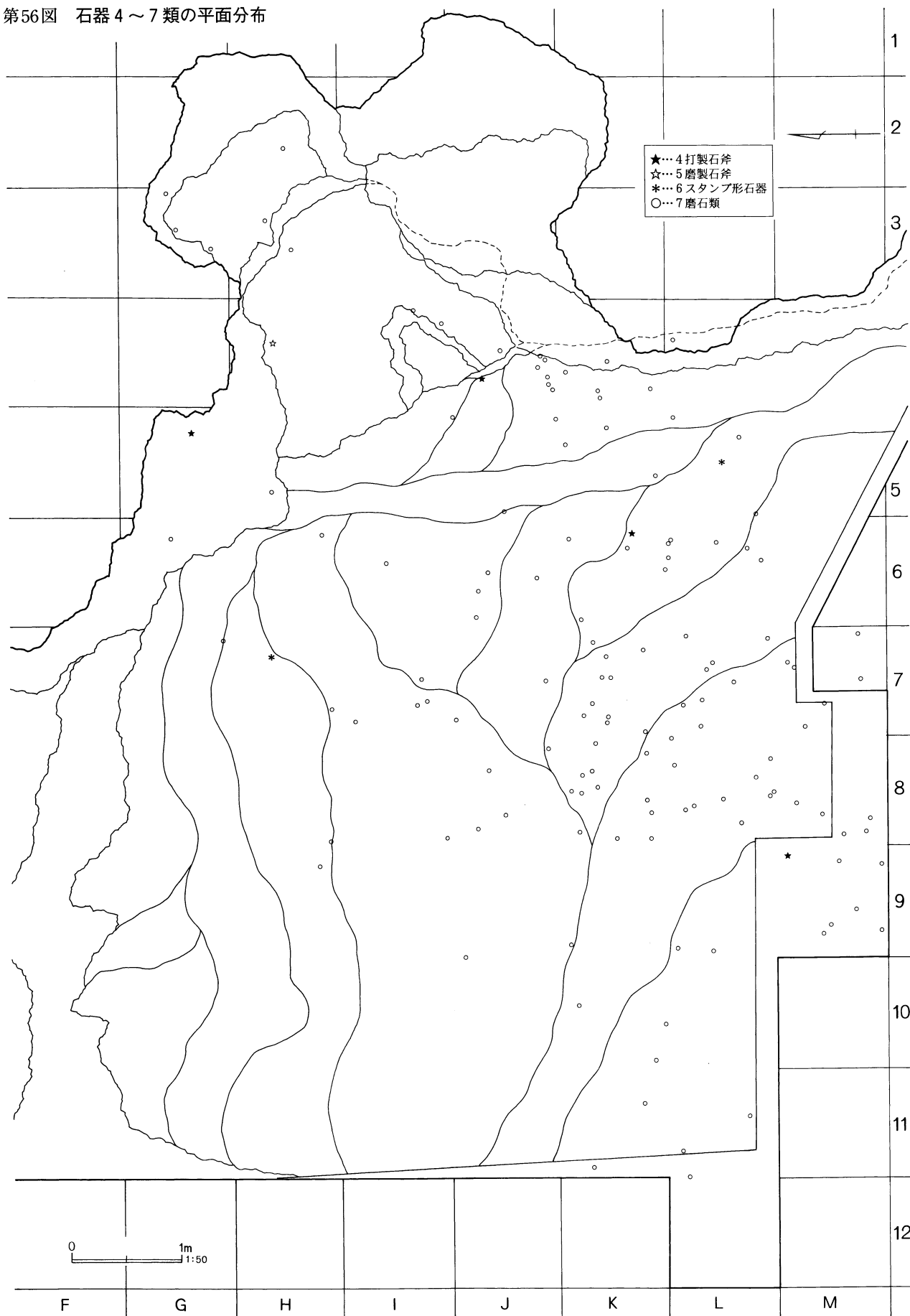
第54図 石器1・2類の平面分布



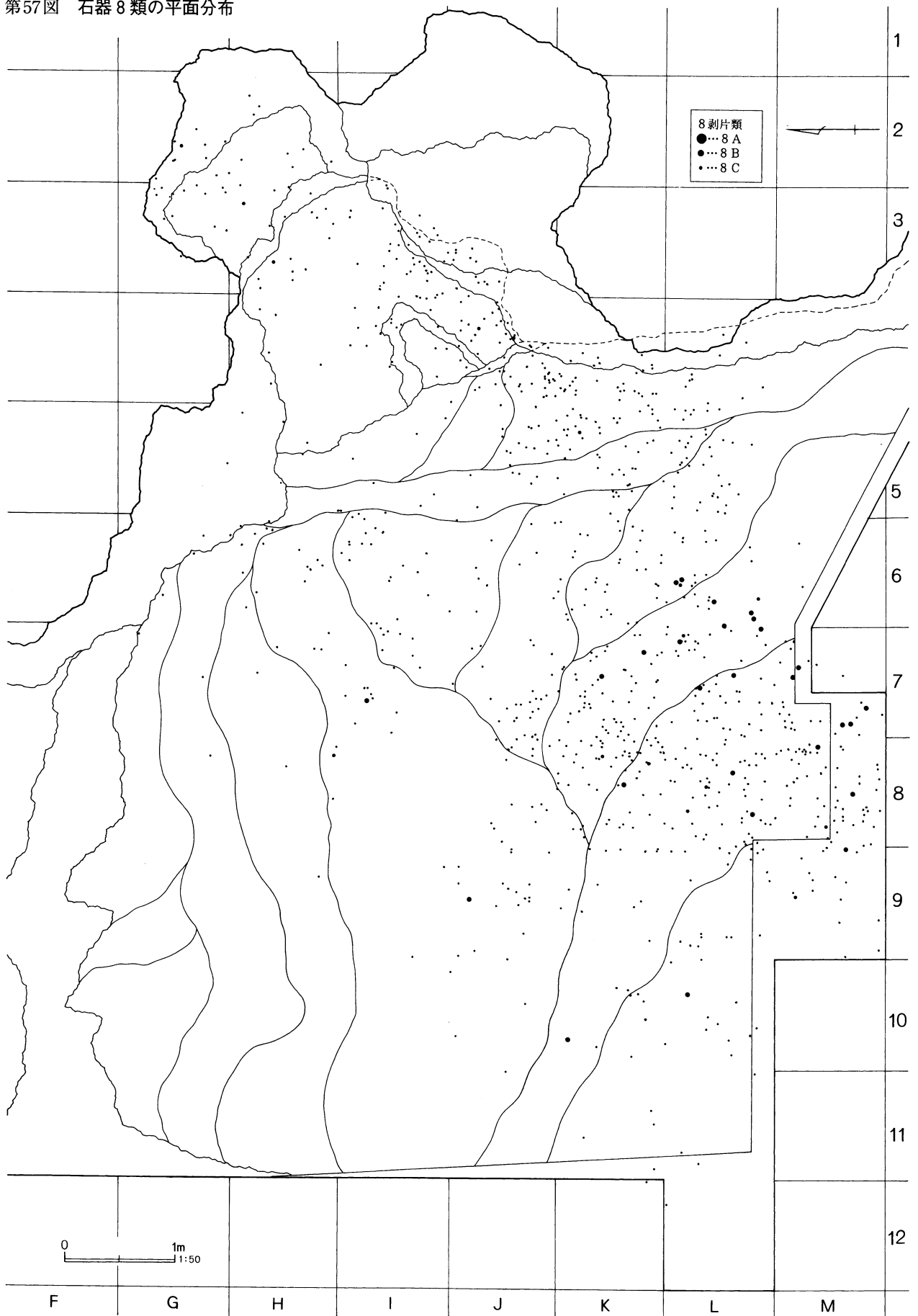
第55図 石器3類の平面分布



第56図 石器4～7類の平面分布



第57図 石器8類の平面分布





第17表 ブロック別出土石器集計表(2)

大Gr	小Gr	標高	相对深度	1A	1B	1C	1D	1E	1F	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3A	3B	3C	3D	3E	3F	3G	4	5	6	7A	7B	7C	7D	8A	8B	8C	9	計	
03H	3	38	0.25								1																		2	10	7		21		
03H	3	37	0.20	1																									5	24	12		42		
03H	3	36	0.10										1					1											4	20	9		35		
03H	3	35	0.00																										2	6			8		
03H	4	45	0.90																										3			1	4		
03H	4	44	0.85																													1	1		
03H	4	43	0.75																										5	1	3		9		
03H	4	42	0.65												1														1	1	4		6		
03H	4	41	0.60									1																	1	3	2		7		
03H	4	40	0.50																										6		12		18		
03H	4	39	0.40																										10	13	1		24		
03H	4	38	0.35	1								1				1											1	2	1	9			16		
03H	4	37	0.25	1														1										4	22	27			55		
03H	4	36	0.15											1														1	3	15			21		
03H	4	35	0.10																1										2	12			15		
03I	1	46	1.00																										1				1		
03I	1	45	0.90																											1	1			2	
03I	1	44	0.80																											2	3			5	
03I	1	43	0.70																										1	4			5		
03I	1	42	0.65																											2			2		
03I	1	40	0.45	1															1												2			4	
03I	1	39	0.35																															3	
03I	1	38	0.25								1									1			1							18	1			19	
03I	1	37	0.20																										1	5	24			35	
03I	1	36	0.10																										3	9	35			48	
03I	1	35	0.00				1						1																2	5	29			38	
03I	2	46	1.00																										1					1	
03I	2	45	0.90																										1	1	1			3	
03I	2	41	0.60																										4	1				5	
03I	2	40	0.50											1																	2			3	
03I	2	39	0.40																										3	1	6			10	
03I	2	38	0.35																										2	9	1			13	
03I	2	37	0.25									1								1									5					14	
03I	2	36	0.15																											5	12			17	
03I	2	35	0.10																															2	
03I	2	34	0.00																															2	
03I	3	45	0.85								1																			4		7			12
03I	3	43	0.70																										2			1		3	
03I	3	42	0.60																										1		1			2	
03I	3	41	0.55																													2			4
03I	3	40	0.45	1																									2	3	7			12	
03I	3	39	0.40																										13	11	3			28	
03I	3	38	0.30	1																									8	16	8			33	
03I	3	37	0.25																										7	8	15			30	
03I	3	36	0.15												1														1	1	40			44	
03I	3	35	0.05																										3	3	15			21	
03I	3	34	0.00																										1	10	4			16	
03I	4	44	0.90					1																					2	1	4			8	
03I	4	43	0.85																												2			2	
03I	4	42	0.75																			2							2					4	
03I	4	41	0.65										1																					1	
03I	4	40	0.60																															8	
03I	4	39	0.50																										26	7	12			45	
03I	4	38	0.40																										6	6	8			20	
03I	4	37	0.35												1						1							1	4	25			32		
03I	4	36	0.25																										5	22	26			57	
03I	4	35	0.15										1	2				2		1								6	9	36			54		
03I	4	34	0.10																										4	8	38			50	
03I	4	33	0.00																										1	15	3			19	
03J	1	40	1.00																										3	2				5	
03J	1	38	0.65	1																											1			2	
03J	1	37	0.50																											2	7			9	
03J	1	34	0.00																															1	
03J	3	40	1.00																										7	2				10	
03J	3	39	0.90								1																							1	
03J	3	38	0.75																										13	8	1			24	
03J	3	37	0.65																				1						2	1	12			16	
03J	3	36	0.55																										6	2	25			36	
03J	3	35	0.45										2									1							2	1	6			12	
03J	3	34	0.35																										1	21	4			27	
03J	3	33	0.20																										5	48	18			75	
03J	4	35	0.00																										3	3	1			7	
04H																																			









第21表 ブロック別出土石器集計表(6)

大Gr	小Gr	標高	相対深度	1A	1B	1C	1D	1E	1F	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3A	3B	3C	3D	3E	3F	3G	4	5	6	7A	7B	7C	7D	8A	8B	8C	9	計
05I	1	42	0.75																											5	1	2		8
05I	1	41	0.65																											5	1	1		6
05I	1	40	0.60																												1	10		11
05I	1	39	0.55																											4				4
05I	1	38	0.45																													10		10
05I	1	37	0.40												1																	11		12
05I	1	36	0.35							1																				8	1	18		28
05I	1	35	0.25																											2		14		16
05I	1	34	0.20		1																									4		18		23
05I	1	33	0.15		1																										7			8
05I	1	32	0.05							1																				6	3	29		39
05I	1	31	0.00																											3	1	6		10
05I	2	43	0.85																													6		6
05I	2	41	0.75							1																					1			1
05I	2	40	0.70	1																										6	1			8
05I	2	39	0.60																											1		10		11
05I	2	38	0.55																											2		10		12
05I	2	37	0.50																											1	1	6		8
05I	2	36	0.45																													7		7
05I	2	35	0.35																											1		14		15
05I	2	34	0.30							1																				45		9		55
05I	2	33	0.25																												2	3		5
05I	2	32	0.20																											1		4		5
05I	2	31	0.10																											6	2	1		9
05I	2	30	0.05																											1		4		5
05I	2	29	0.00													1																		1
05I	3	46	1.00																													4		4
05I	3	44	0.85																												1			2
05I	3	43	0.80																											2	1	2		5
05I	3	42	0.75	1																										4		3		8
05I	3	41	0.70																											7	5	4		16
05I	3	40	0.60								1																			1	1	4		7
05I	3	39	0.55		2																									11	3	18		34
05I	3	38	0.50																											1		11		12
05I	3	37	0.45																												2	15		17
05I	3	36	0.35																											2	1	22		25
05I	3	35	0.30			1																								3	35		39	
05I	3	34	0.25																													6		6
05I	3	33	0.20																												5	8		13
05I	3	32	0.10							1																				2	2	18		23
05I	3	31	0.05																											10		3		13
05I	3	30	0.00																											35	6	15		56
05I	4	45	1.00																											4	4			8
05I	4	44	0.95																												1	2		3
05I	4	43	0.85																											2				3
05I	4	42	0.80																											1		4		5
05I	4	41	0.75																											4		6		10
05I	4	40	0.70																													2		3
05I	4	39	0.60	1																1										6		12		19
05I	4	38	0.55							1																				5	2	14		23
05I	4	37	0.50																													10		12
05I	4	36	0.45																											1		7		8
05I	4	35	0.35																											1	2	19		24
05I	4	34	0.30													1														1		3		4
05I	4	33	0.25																											5	2	27		34
05I	4	32	0.20																											4	9	9		22
05I	4	31	0.10																											8		8		16
05I	4	30	0.05																											5		5		10
05I	4	29	0.00																											3				3
05J	1	44	1.00																													5		5
05J	1	43	0.95																												1			1
05J	1	42	0.85																											5		4		9
05J	1	41	0.80																											4		1		5
05J	1	40	0.75																											35	3	10		48
05J	1	39	0.65																											36	7	10		54
05J	1	38	0.60																											15	2	12		29
05J	1	37	0.55																													14		14
05J	1	36	0.45																													18		19
05J	1	35	0.40												1																4	15		20
05J	1	34	0.35																											2	3	14		19
05J	1	33	0.25																											3	16	27		46
05J	1	32	0.20																											3	9	8		22











第26表 ブロック別出土石器集計表 (11)

大Gr	小Gr	標高	相対深度	1A	1B	1C	1D	1E	1F	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3A	3B	3C	3D	3E	3F	3G	4	5	6	7A	7B	7C	7D	8A	8B	8C	9	計
06K	1	31	0.50																										2	28			30	
06K	1	30	0.45																											1	1			1
06K	1	29	0.40													1																		1
06K	1	28	0.35						1									1											4	4	22			32
06K	1	27	0.25															1										6	3	31			41	
06K	1	26	0.20																2									2	2	20			25	
06K	1	25	0.15		1																							2	1	2			6	
06K	1	24	0.10																									4		17			21	
06K	1	23	0.05																											1	3			4
06K	1	22	0.00																									2	1					3
06K	2	39	1.00																1										1	1	3			6
06K	2	38	0.95															1																10
06K	2	37	0.90																															3
06K	2	36	0.85																									2						3
06K	2	35	0.80																									2						3
06K	2	34	0.75						1										1	1								2						4
06K	2	33	0.70	1								1	1						1	1								4	1	10			18	
06K	2	32	0.65																									1						18
06K	2	31	0.60																	1				1				2	2	18			24	
06K	2	30	0.55																1										5	22			28	
06K	2	29	0.50																									2		16			19	
06K	2	28	0.45																								1		4	13	20			38
06K	2	27	0.40																										2	2	6			8
06K	2	26	0.35												1													3	2	17			23	
06K	2	25	0.30																									5	4	10			19	
06K	2	24	0.25										1					1										1	1	6			10	
06K	2	23	0.20																										11	4	7			22
06K	2	22	0.15																									3		6			9	
06K	2	21	0.10																										2		4			6
06K	2	20	0.05																											1	2			3
06K	3	39	1.00																															1
06K	3	37	0.90																										4					4
06K	3	36	0.85																									4		4				8
06K	3	35	0.80												1													6		1				8
06K	3	33	0.70													1			1									16	2	5			25	
06K	3	32	0.65																1		1							1	4	26			32	
06K	3	31	0.60																									4	8	17			30	
06K	3	30	0.55							1										1									1	1	25			29
06K	3	29	0.50																									6	5	38			49	
06K	3	28	0.45		1																							3	3	36			43	
06K	3	27	0.40																									4	3	16			19	
06K	3	26	0.40											1														4	1	18			24	
06K	3	25	0.35																									6	5	8			19	
06K	3	24	0.30																									8	4	11			23	
06K	3	23	0.25																									1		3			4	
06K	3	22	0.20																									1	2	7			10	
06K	3	21	0.15															2										4		6			13	
06K	3	20	0.10																											9			9	
06K	4	37	0.95																											1				1
06K	4	36	0.90																									3	2	1				6
06K	4	35	0.85	1																								4		10				15
06K	4	34	0.80																									6	1	4				11
06K	4	33	0.75						1											1								4	2	11				19
06K	4	32	0.70																									2	6	26				34
06K	4	31	0.70																	2							1	1	11					15
06K	4	30	0.65	1																									3	23				27
06K	4	29	0.60																	1								2	27					31
06K	4	28	0.55																									1	1	20				22
06K	4	27	0.50																1									1	1	8				11
06K	4	26	0.45																	2								3	9	31				45
06K	4	25	0.40																	1								8	4	23				36
06K	4	24	0.35															1										4	2	9				16
06K	4	23	0.30																									8	2	6				16
06K	4	22	0.25																									9	2	14				25
06K	4	21	0.20																									2						2
06K	4	20	0.20																									2		3				5
06K	4	19	0.15																									2		7				9
06K	4	18	0.10																									2						2
06L	1	37	1.00																															2
06L	1	36	0.95																											1	3			4
06L	1	35	0.90																									2	2	11				15
06L	1	34	0.85																									2	1	4				7
06L	1	33	0.																															





第29表 ブロック別出土石器集計表 (14)

大Gr	小Gr	標高	相対深度	1A	1B	1C	1D	1E	1F	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3A	3B	3C	3D	3E	3F	3G	4	5	6	7A	7B	7C	7D	8A	8B	8C	9	計			
07L	234	28	0.75													1		1														6		8			
07L	234	27	0.70														1																1	2			
07L	234	24	0.55															1															1	1			
07L	234	22	0.45															2	1													6	9				
07L	234	21	0.40																													4	4				
07L	234	20	0.40																	1											1	4	3				
07L	234	19	0.35																												1	1	1				
07L	234	16	0.20																												1	1	1				
07L	234	15	0.15														1															3	3				
07L	234	14	0.10																													1	3				
07L	234	13	0.05										1					1														1	3				
07L	234	12	0.00														1																1	1			
07M	1	34	0.85																											3		2	5				
07M	1	32	0.80																1												1	2	2				
07M	1	31	0.75																											1			1	1			
07M	1	30	0.70																											2	1	3	6				
07M	1	29	0.65																												1	3	4				
07M	1	28	0.60	1																										1	1	3	6				
07M	1	27	0.60																											1	1	8	10				
07M	1	26	0.55																													6	6				
07M	1	25	0.50																											2		4	6				
07M	1	23	0.40																												1		1	1			
07M	1	22	0.35			1																								7	5	9	22				
07M	1	21	0.35																													5	5	5			
07M	1	20	0.30							1																				5	3	2	11				
07M	1	19	0.25			1																								5	1	2	9				
07M	1	18	0.20																											14		4	18				
07M	1	16	0.10																											4	1	3	8				
07M	1	15	0.10																													6	6				
07M	1	14	0.05																													6	8	8			
07M	1	13	0.00																							2						5	5	5			
07M	234	35	0.95																									1						1	1		
07M	234	33	0.85																1															3	3		
07M	234	31	0.80																1															1	1		
07M	234	30	0.75																								1							1	1		
07M	234	29	0.70																1														3	4			
07M	234	28	0.65																														2	2	2		
07M	234	26	0.55																	1													1	1	1		
07M	234	24	0.45																	1													1	1	1		
07M	234	23	0.45																															1	1		
07M	234	21	0.35																1	2													2	5			
07M	234	20	0.30																														1	1	1		
07M	234	19	0.25																														2	3	3		
07M	234	18	0.20																															1	1		
07M	234	16	0.15																1														2	3	5		
07M	234	15	0.10																														2	3	3		
07M	234	14	0.05										1														1							2	2		
07M	234	13	0.00																														1	1	1		
07N	234	36	1.00																															1	1		
08G	234	39	1.00																															1	1		
08H	1	40	1.00																																1	1	
08H	1	39	0.80																															1	19	21	
08H	1	37	0.40																															3	1	4	
08H	1	36	0.20																															10	10	4	
08H	234	37	1.00																																1	1	
08H	234	35	0.35																																1	1	
08I	1	37	0.85																																4	2	7
08I	1	36	0.75												1																				1	1	
08I	1	35	0.65													1			1															1	3	7	
08I	1	34	0.60																															1	2	3	
08I	1	33	0.50																																1	1	
08I	1	32	0.40																															2	1	4	
08I	1	27	0.00																															1	1	1	
08I	234	35	0.20																	1															1	2	
08I	234	34	0.00																		1														1	1	
08J	1	38	1.00																																	8	8
08J	1	37	0.90																																	7	7
08J	1	36	0.85																																	11	14
08J	1	35	0.80																1																	1	1
08J	1	34	0.70																																	1	1
08J	1	33	0.65																								1								3	7	
08J	1	32																																			



第30表 ブロック別出土石器集計表(15)

大Gr	小Gr	標高	相対深度	1A	1B	1C	1D	1E	1F	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3A	3B	3C	3D	3E	3F	3G	4	5	6	7A	7B	7C	7D	8A	8B	8C	9	計		
08K	1	27	0.55											1				1											1	12			14			
08K	1	26	0.50										1																2	3			6			
08K	1	25	0.45		1																								1	1	12		15			
08K	1	24	0.40																											1			1			
08K	1	23	0.35		1													1											2	1			5			
08K	1	22	0.30										1						2							1		2	1	13			21			
08K	1	21	0.25																1									2					2			
08K	1	20	0.20																															1		
08K	1	19	0.20																											1				1		
08K	1	18	0.15																															1		
08K	1	17	0.10																											1				2		
08K	1	16	0.05																															1		
08K	1	15	0.00																							1								7		
08K	234	32	0.95																															1	1	
08K	234	31	0.90														1																	1	1	
08K	234	30	0.85															1	1							2		1			1	1		7		
08K	234	29	0.80										1	1					1	1						1					3			8		
08K	234	28	0.75																				1												2	
08K	234	27	0.70										1	1			1	1								1						8		13		
08K	234	26	0.70																1	3												5		10		
08K	234	25	0.65									1																				1		1		
08K	234	24	0.60																1															1		
08K	234	23	0.55																														2	2		
08K	234	22	0.50																														8	11		
08K	234	21	0.45														2	1														3	5			
08K	234	20	0.40														1															2		3		
08K	234	16	0.20																															1		
08K	234	14	0.15																															1		
08K	234	13	0.10																															1		
08K	234	11	0.00																1															1		
08L	1	34	1.00																															2	3	
08L	1	33	0.95																															2	4	
08L	1	32	0.90																															1	2	
08L	1	31	0.85																															2	5	
08L	1	30	0.80																															4	4	
08L	1	29	0.75			1																												6	15	
08L	1	28	0.70																								1							8	23	
08L	1	27	0.70																															2	31	
08L	1	26	0.65																															2	24	
08L	1	25	0.60		1							1															1							2	28	
08L	1	24	0.60																															2	31	
08L	1	23	0.50																															1	13	
08L	1	22	0.45																															1	6	
08L	1	21	0.40																															5	30	
08L	1	20	0.35																															1	8	
08L	1	19	0.30																															1	10	
08L	1	18	0.25																															7	9	
08L	1	17	0.20																															4	9	
08L	1	16	0.20																															2	2	
08L	1	15	0.15																															4	4	
08L	1	14	0.10																															1	2	
08L	1	13	0.05																															1	2	
08L	1	12	0.00																															2	4	
08L	234	33	0.90																																1	3
08L	234	32	0.90										1																						2	
08L	234	31	0.85																																2	4
08L	234	29	0.75																																2	5
08L	234	28	0.75																																2	8
08L	234	27	0.70																																7	10
08L	234	26	0.65																																6	12
08L	234	25	0.60																																2	22
08L	234	24	0.55																																1	2
08L	234	23	0.55																																2	2
08L	234	22	0.50																																1	1
08L	234	21	0.45																																2	3
08L	234	20	0.40																																1	2
08L	234	19	0.40																																1	1
08L	234	18	0.35																																1	1
08L	234	16	0.25																																1	1
08L	234	14	0.20																																1	1
08L	234	12	0.10																																2	7
08L	234	11	0.05																																	

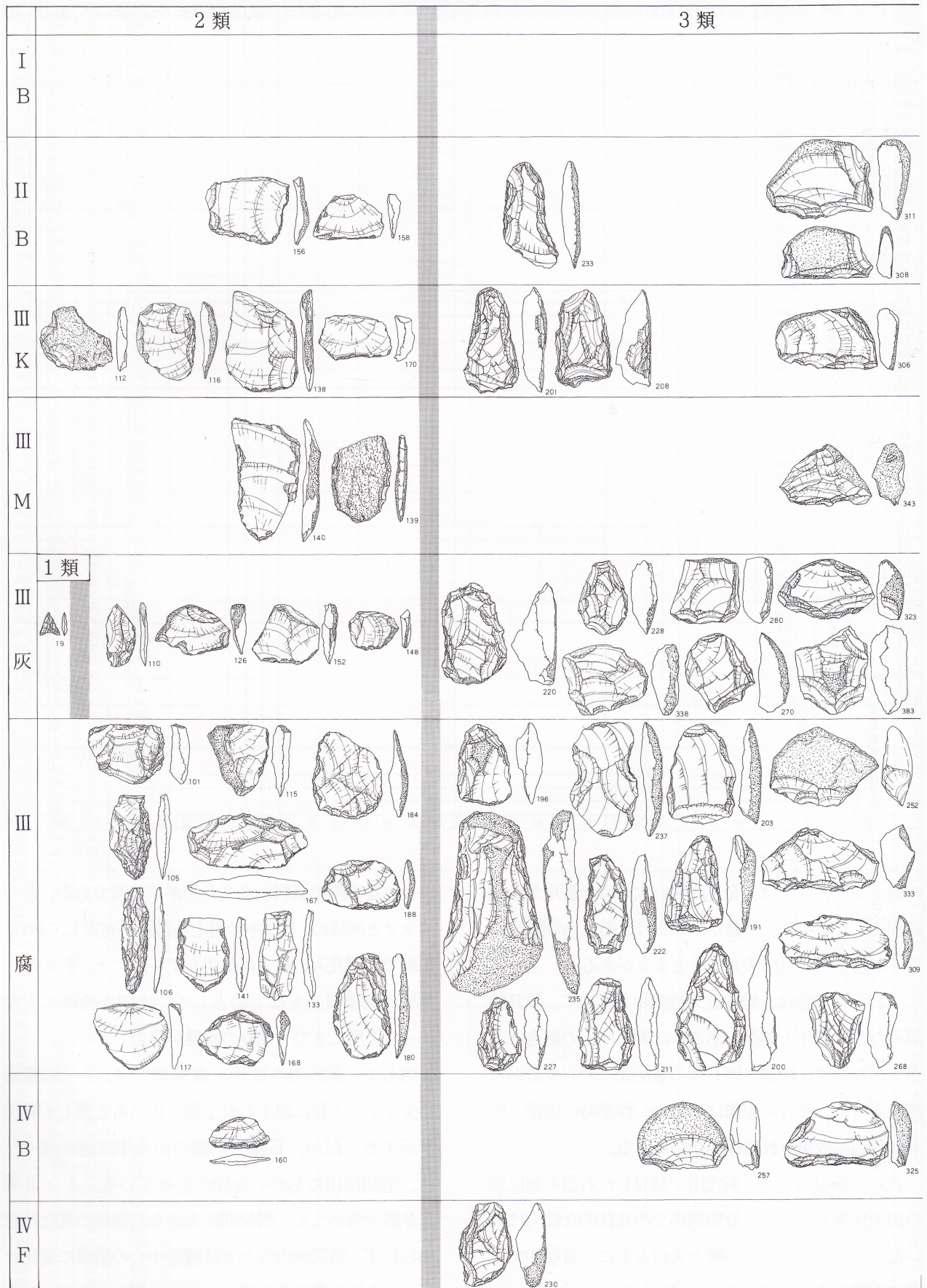
第31表 ブロック別出土石器集計表 (16)

大Gr	小Gr	標高	相対深度	1A	1B	1C	1D	1E	1F	2A	2B	2C	2D	2E	2F	3A	3B	3C	3D	3E	3F	3G	4	5	6	7A	7B	7C	7D	8A	8B	8C	9	計		
08M	234	33	0.90															1																1		
08M	234	31	0.80																											1	1			2		
08M	234	29	0.75																															2		
08M	234	28	0.70										1																					4		
08M	234	27	0.65																							1	1	1						8		
08M	234	26	0.60											1																				8		
08M	234	25	0.55											1		1	1	1		1														12		
08M	234	24	0.50										1			1	1	2									1							23		
08M	234	23	0.45																																3	
08M	234	22	0.45																																2	
08M	234	21	0.40																																1	
08M	234	20	0.35											1																					2	
08M	234	17	0.20																																1	
08M	234	16	0.15																																1	
08M	234	15	0.15																																3	
08M	234	14	0.10							2																									4	
08M	234	13	0.05													1																			3	
08M	234	12	0.00																																1	
08N	1	23	0.00																																1	
08N	234	11	1.00																																2	
08N	234	10	0.00																																1	
09H	234	35	1.00																																2	
09I	1	36	0.20																								1								3	
09I	1	35	0.00	1																															6	
09I	234	35	0.90																																1	
09I	234	31	0.55																																1	
09J	1	36	1.00										1																						15	
09J	1	35	0.90																																5	
09J	1	34	0.80																																8	
09J	1	33	0.70																																1	
09J	1	32	0.65																																4	
09J	1	31	0.55																																3	
09J	1	29	0.35																																7	
09J	1	27	0.20																																2	
09J	1	25	0.00																																2	
09J	234	34	0.85											1																					3	
09J	234	33	0.80																																1	
09J	234	32	0.75																																	1
09J	234	31	0.65																																	3
09J	234	30	0.60																								1								2	
09J	234	29	0.55																																	3
09J	234	28	0.45										1																							5
09J	234	28	0.45																																	8
09J	234	28	0.45																																	6
09J	234	21	0.00																																	1
09K	1	35	1.00																																	1
09K	1	34	0.95																																	2
09K	1	33	0.90																																	3
09K	1	32	0.85					1																												4
09K	1	31	0.80																																	16
09K	1	30	0.75																																	18
09K	1	29	0.70																																	5
09K	1	28	0.65																																	9
09K	1	26	0.55																																	15
09K	1	19	0.20																																	1
09K	1	15	0.00																																	1
09K	234	32	0.85																																	1
09K	234	30	0.80																																	1
09K	234	29	0.75																																	1
09K	234	28	0.70																																	2
09K	234	27	0.65																																	1
09K	234	26	0.60																																	2
09K	234	25	0.60																																	1
09K	234	20	0.35																																	3
09K	234	11	0.00																																	1
09L	1	34	0.95																																	1
09L	1	33	0.90																																	2
09L	1	32	0.90																																	8
09L	1	30	0.80																																	12
09L	1	29	0.80																																	3
09L	1	28	0.75																																	8
09L	1	27	0.70																																	



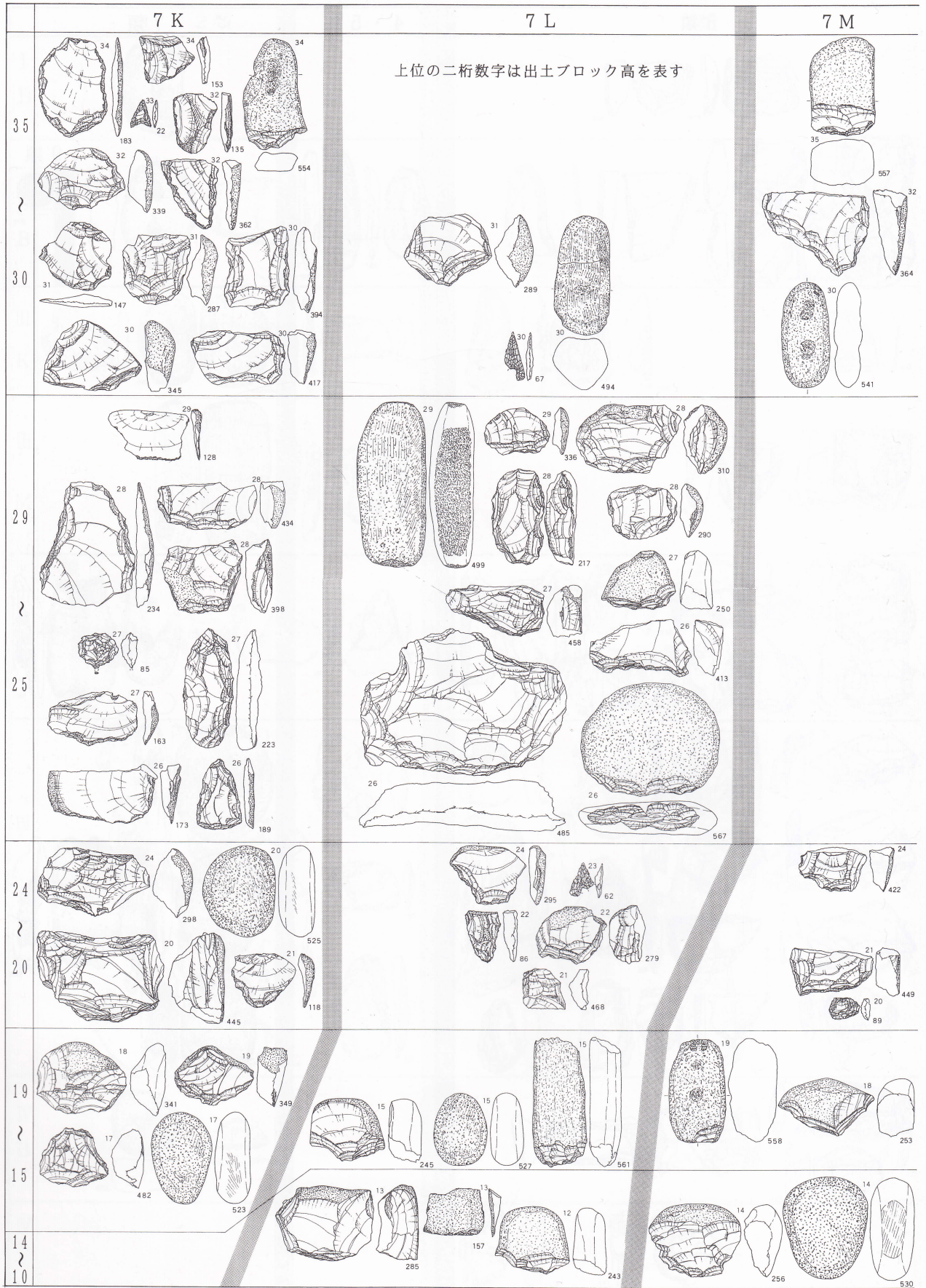


第58図 洞穴内土層別の出土石器



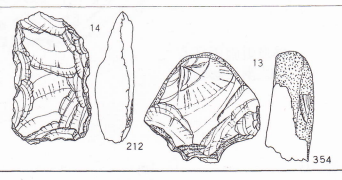
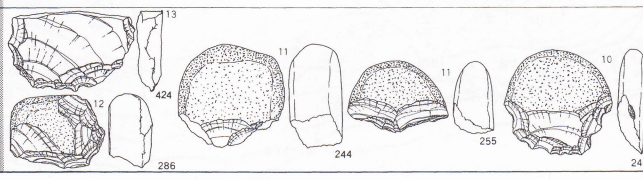
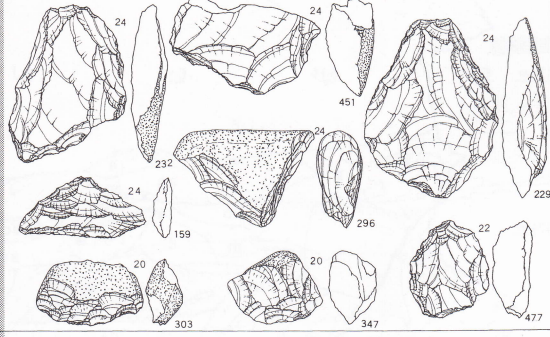
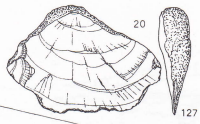
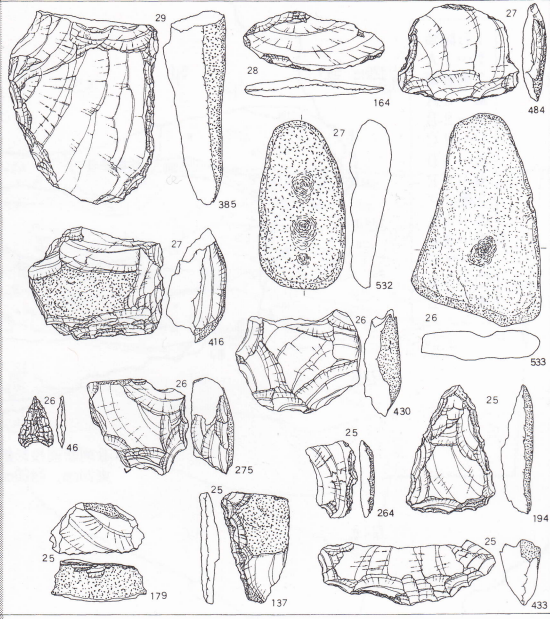
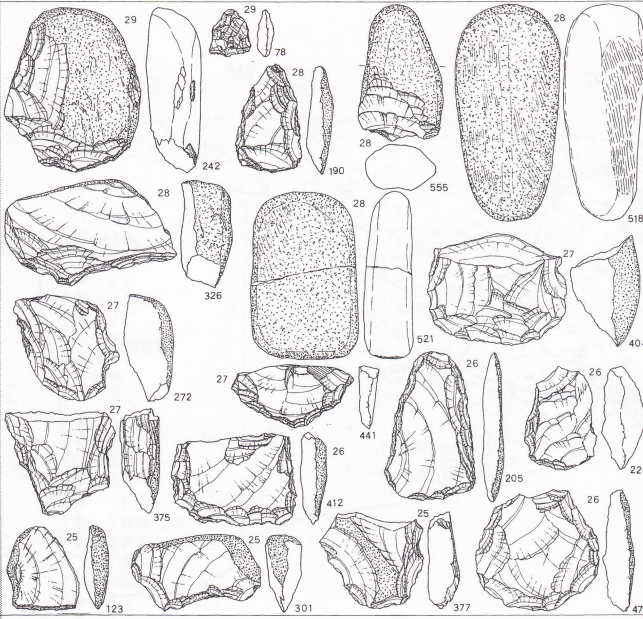
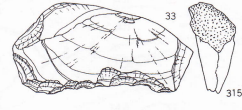
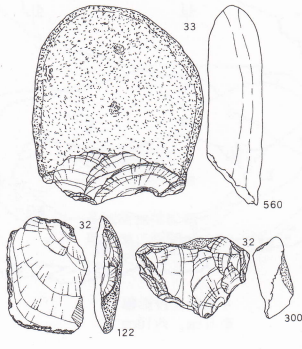


第59図 前庭部ブロック別の出土石器

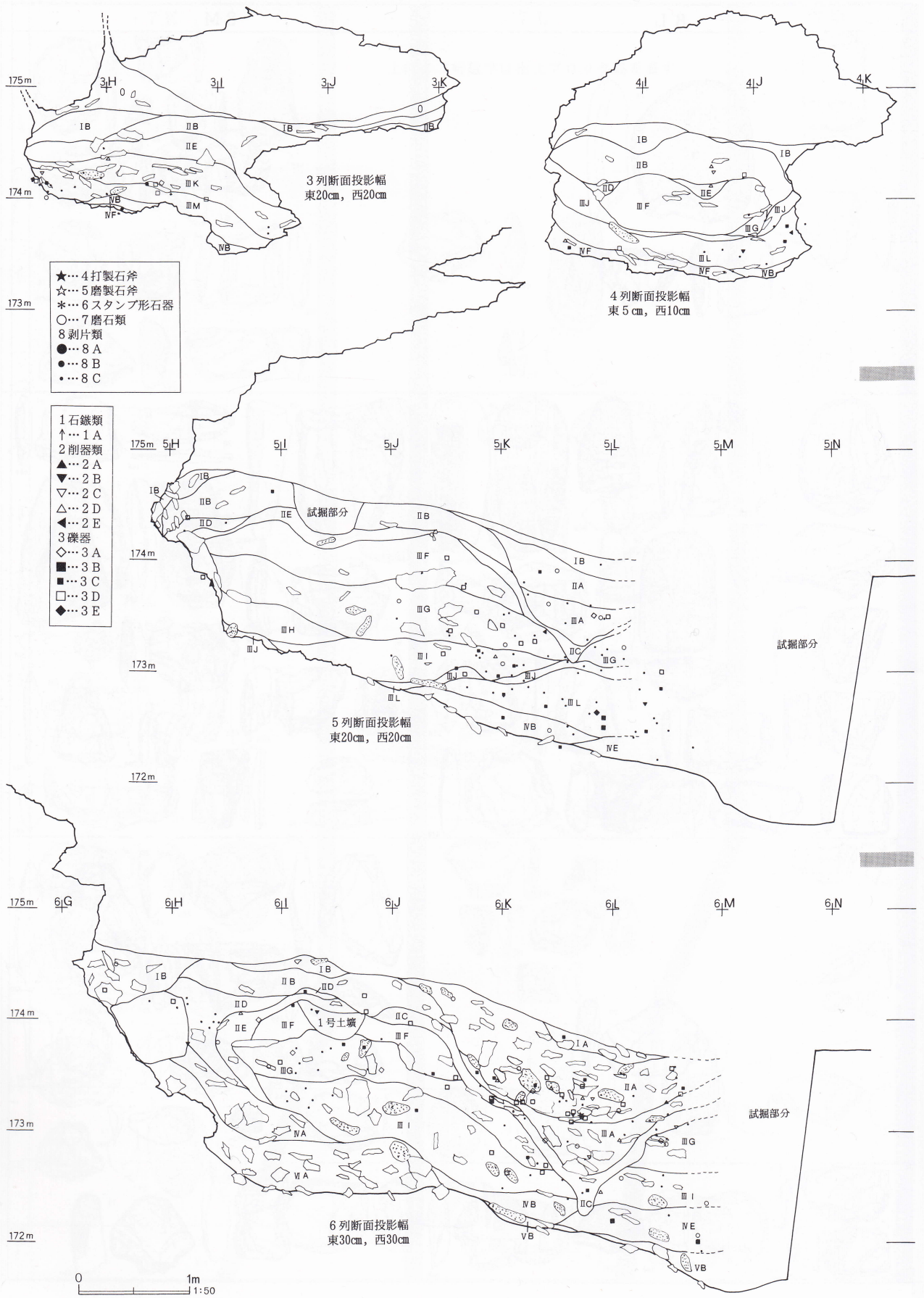


8 L

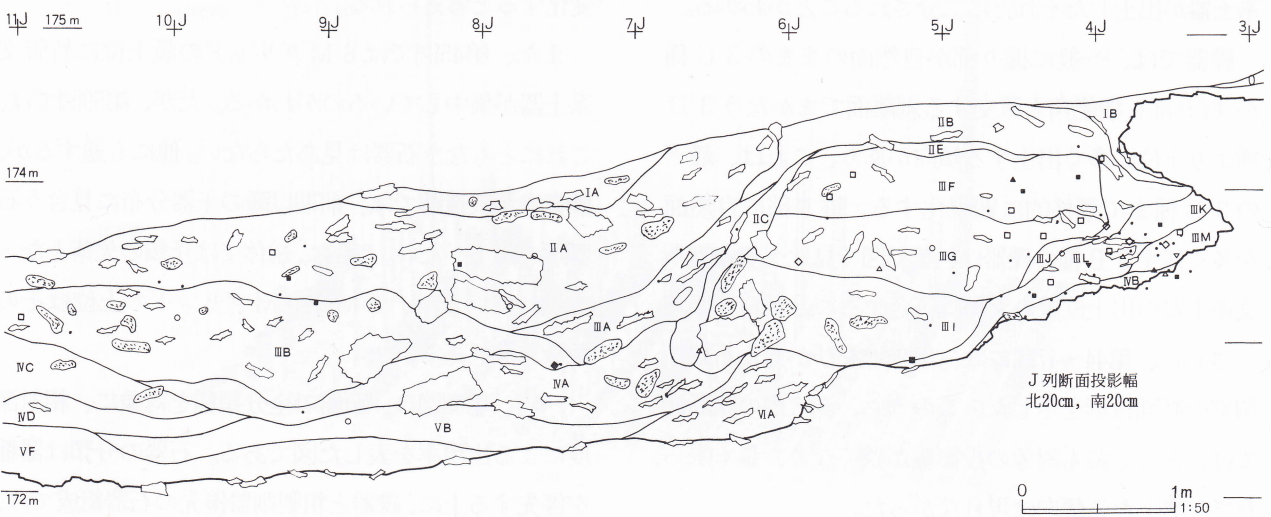
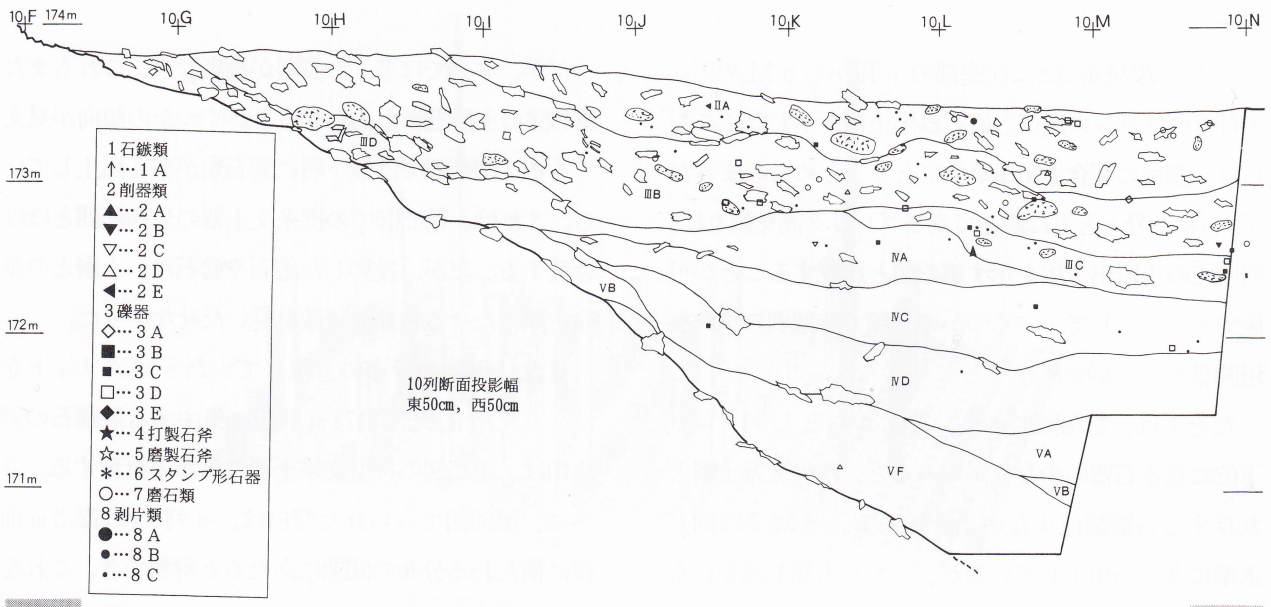
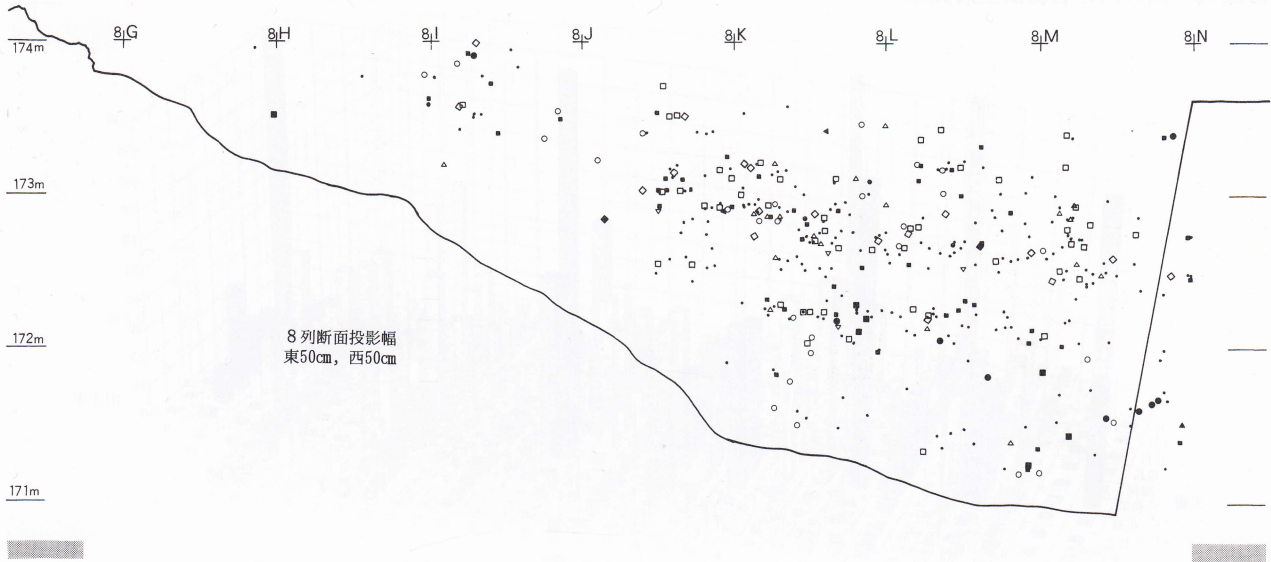
8 M



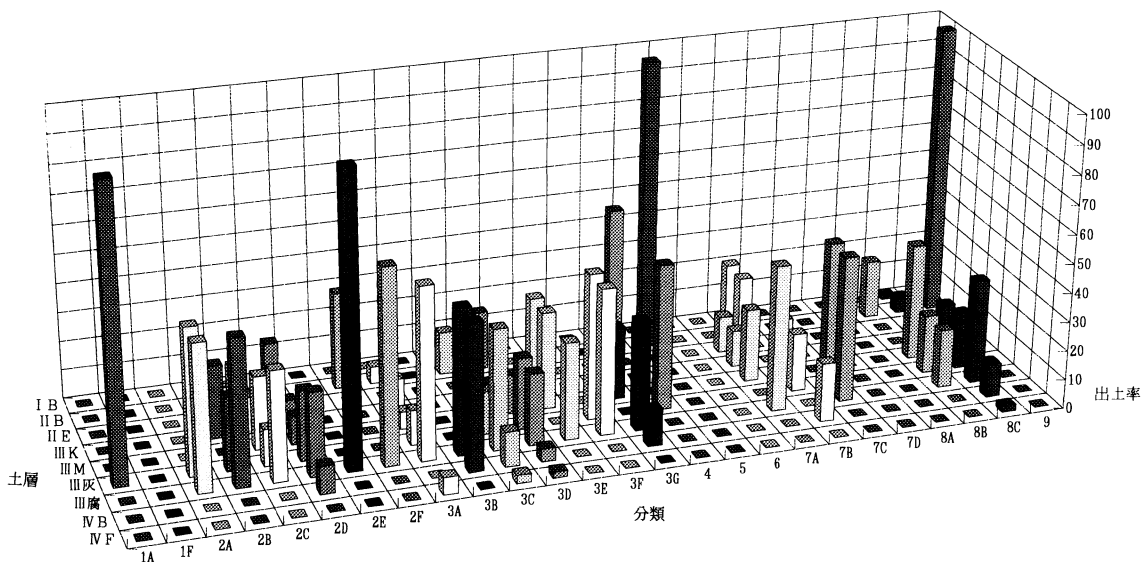
第60図 3～6列上の石器垂直分布



第61図 8・10・J列上の石器垂直分布



第62図 洞穴内の石器出土層比率



一方、第59図には、前庭部の7 Kから8 Mグリッド付近のブロック高ごとの石器出土相を示した。こちらは、割付の都合上50cm単位にとりまとめたが、石器番号とともに添えてあるブロック高を頼りに、同所での石器出土相を示す第43図と比較することが可能である。そして、いくつかの分類で時期別の傾向を垣間見ることができる。

たとえば、第59図の中央、7 Lから8 Lグリッド下位に見る石器の少なさからみると、沈線文系土器と共存する石器類は少ないようである。8 Mでは同じ水準に多くが出土しているが、こちらも第43図をひもとくと、押型文土器が出土したブロック高と、条痕文系土器が出土したそれとに二分されることがわかる。

礫器では、一般に握り部が自然面のままの3 C種が、握り部を機能角と直交する剥離面でまかなう3 D種より下位に多く出土する傾向があり、これは、最下の3 B種まで漸移的に顕現化する。握り部に自然面を多く残す3 B種の礫器は、第43図で見比べると燃糸文系土器の出土位置の大勢に符合することがわかる。

さらに、第44～47図には、出土地をひかえた石器の個別の断面投影を示した。このうち、洞穴内の諸断面では、どうしても対象の投影幅が狭くなり、量も限られて、さしたる傾向は現れなかった。

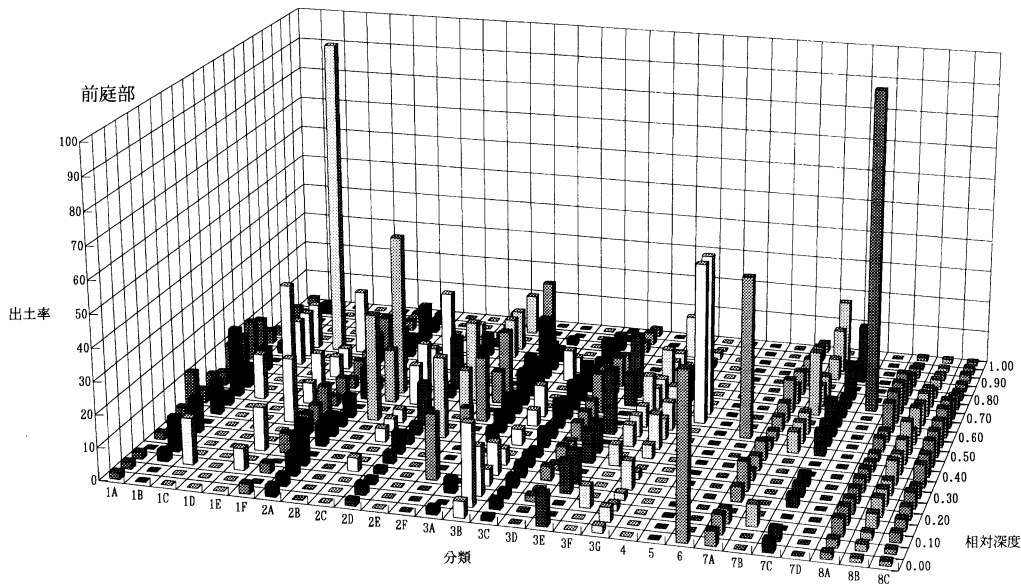
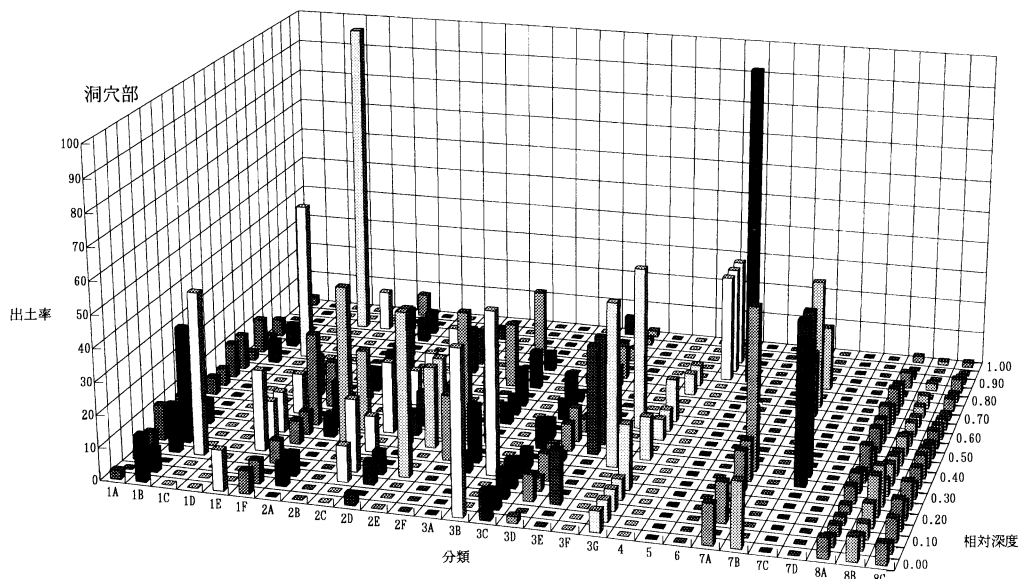
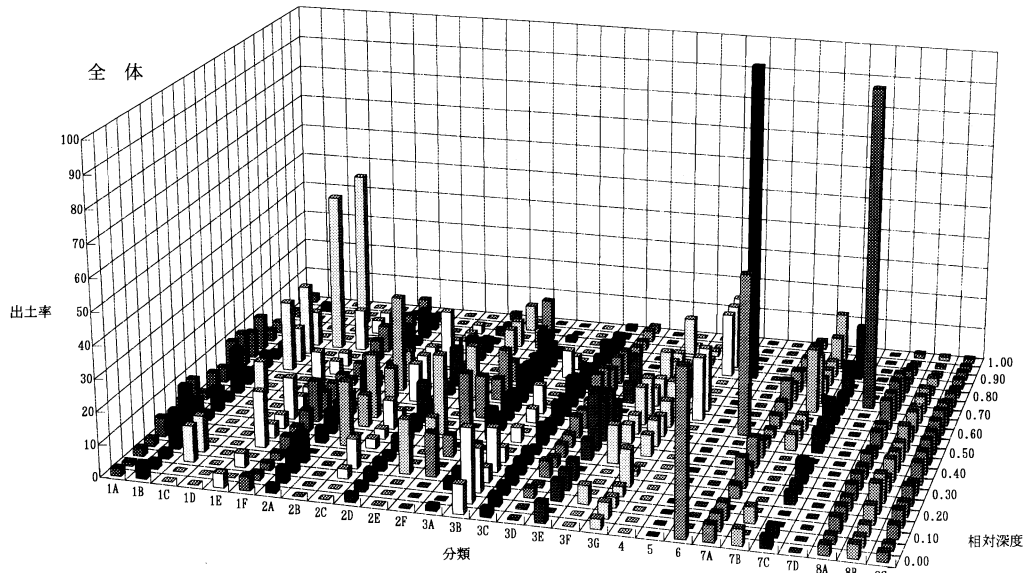
だが、8列では多くの資料が投影でき、これもまた第45図の土器投影とあわせるといくつかの傾向が見えてくる。同断面では最下層に磨石類が多く出土している。これは、第45図での燃糸文土器の分布範囲とほぼ合致する。だが、投影した敲石や磨石に、上層との差違を際立たせる特別な特徴を見いだせなかった。

また、平面の分布にも現れていた8 Mグリッドをはさんだ南北の標高172 m前後に集中する黒曜石の剥片類は、第45図の押型文系土器の分布と合致する。さらに、第59図でみられた空白は、8列では172.3 m前後に横たわる分布の間隙にあたりと解釈でき、これを境に沈線・押型文系から条痕文系へと石器の組成が変化すると考えられる。

また、第45図では8 Mグリッドの最上位に竹管文系土器が集中しているのがわかる。だが、第59図では、これにもなる石器は見あたらない。他にも通ずるが、妙音寺洞穴遺跡では、前期以降の土器分布に見合う石器類の出土がない。これは、総体では斧類の欠落となって現れているが、8 Mや9 Mグリッドの上位はその象徴ともいえる。

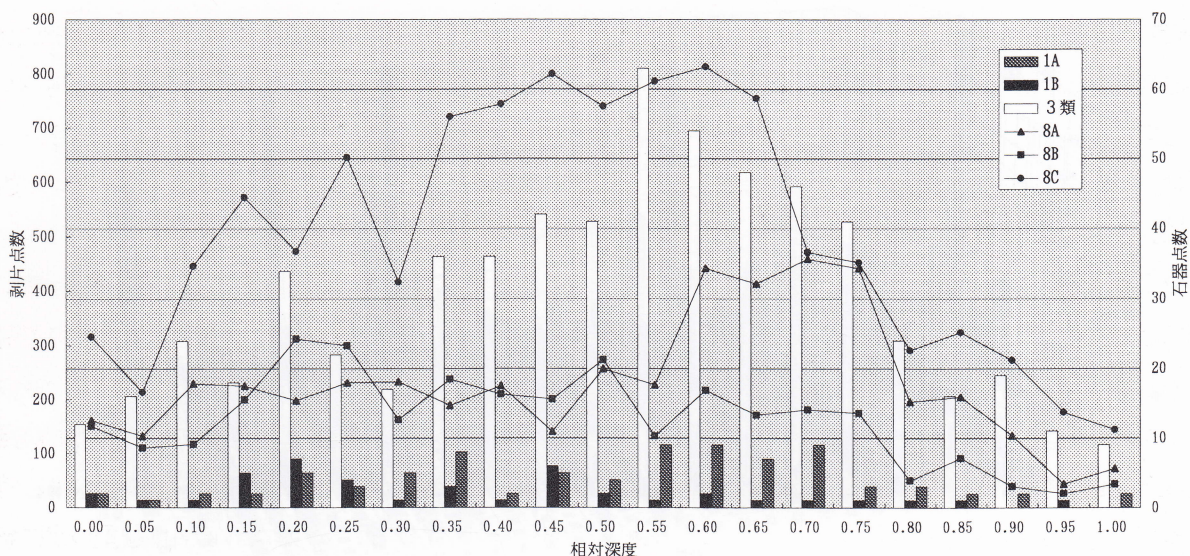
一方、第63図は、石器の全分類種を対象に、相対深度による出現率を表した図である。石器の分類は器種を優先する上に、礫器と粗製削器優先の石器組成では、

第63図 石器の全分類別出土相対深度





第64図 石器1・3類と8類の相関



時間軸に見合う細分類を施すことも難しかった。資料の不足から極端な傾向が現れた7 D種などを除いても、相対時間軸のなかでの細かな個別種間の傾向をなかなか見取ることができない。

そのなかで、石鏃の1 B種は1 A種より下位にピークをもつ。これは、さほど大きな差ではないが、全体・洞穴部・前庭部の、集計三対象のいずれにも共通する。また、同素材を使用する2 A種は、1 A・1 B種を重ねたような二個所で出土量が増加する。

これに対し、定型を意識したと認めた2 B種は、同じ基準で分離した礫器の3 A種と共通して、中層上位に集中している。2 Cと2 D、そして3 Cと3 Dの、握り部の剥離の有無で分離した粗製大型削器と礫器は、いずれも大きな差として現れないものの、自然面を利用するC種がやや下位に分布する。

洞穴内であまりみられなかった磨石類は、7 A種が洞穴の下層に集中し、7 B種は全体でも上下層の二極に分離する。7 B種のうち、楕円礫に縦列する複数の凹部を整然と並べる型のものがⅢ層上位以上で出現するものようである。

さらに、第64図には剥片類三種と、関わりが深いと考えられる三種の石器の相対深度別出土率を重ねた。このうち、8 A・8 B種の剥片は、洞穴の半ばから

前庭部の雨垂れ下に集中し、石鏃の分布にみる濃淡とほぼ合致している。分布の重なりと微小片が多いことを考えあわせれば、両種の多くは石鏃の製作による剥片だったと考えられる。1 A種の石材は黒曜石が50%近くに及び、第64図でも8 A種と共通する推移をたどっている。また、8 B種は同図でもより下位でピークがあり、約90%がチャート素材としている1 B種の増減と合致している。対して、もっぱらホルンフェルス素材とする礫器一般は、同剥片類の8 Cと同じ盛衰をたどっている。

以上、洞穴内と前庭部の大まかな石器の出土傾向についてみた。分布は、平面・垂直とも洞穴主軸に沿った南西への傾斜のなかで広がっている。だが、個別の種類となると、不明な点が多いままであった。たとえば3 B種のように、土器をよりどころに、形態的特徴が時期の特定に及ぶものもあるが、大方は継続的で判断がつかず、漸移的な変質の傾向を加味しつつ、大きく早前期の時間幅でとらえるしかない。

また、石器群の分布では、土器や骨貝のような、Ⅱ層とⅢ層の間での劇的な変化は認めがたかった。礫器の製作は連続し、変化を強調するはずの石斧類は出土量そのものが少なく、抑揚を失う要因となった。

#### (4) 骨貝類の出土状態

今回の調査では、遺構として紹介した屈葬墓の人骨1体分を除き、総8,965点の骨類や貝類が出土した。だが、骨類の多くは断片的な小片で出土しており、精査時に発見でき、その地点を記録することができたのは1,230点にすぎない。残りの7,735点は、後日実施した掘り上げ土に対する土壌水洗選別の段階ではじめて抽出できたものである。

これらの出土比率を、捕食の可能性や骨貝の網類別で示したのが第65図である。そして、第33表には確認生物種とそれらのグリッド別の出土点数、さらに第34～51表ではブロック別の出土点数を示した。遺跡では完形、そして、さまざまな部位や組合せのものが出土しているが、以上の図表では、部位や大きさに関わりなく、独立した1片を1点と計算している。また、付編第124・125図でも骨貝類の詳しい種別出土比率を示している。合わせて参照されたい。

このうち、第65図左は、発見できた骨貝類のうち、洞穴内に自生していたと考えられる生物遺骸や搬入品、人骨を除き、ヒトに捕食された結果この洞穴に至った可能性がある生物種での出土比率を示した。内訳は、貝類が65%、さらに水棲生物や準水棲の類種を合わせれば約7割に達している。妙音寺洞穴での活動が、眼下に流れる三沢川の恵みに多く依存していたことがわかる。

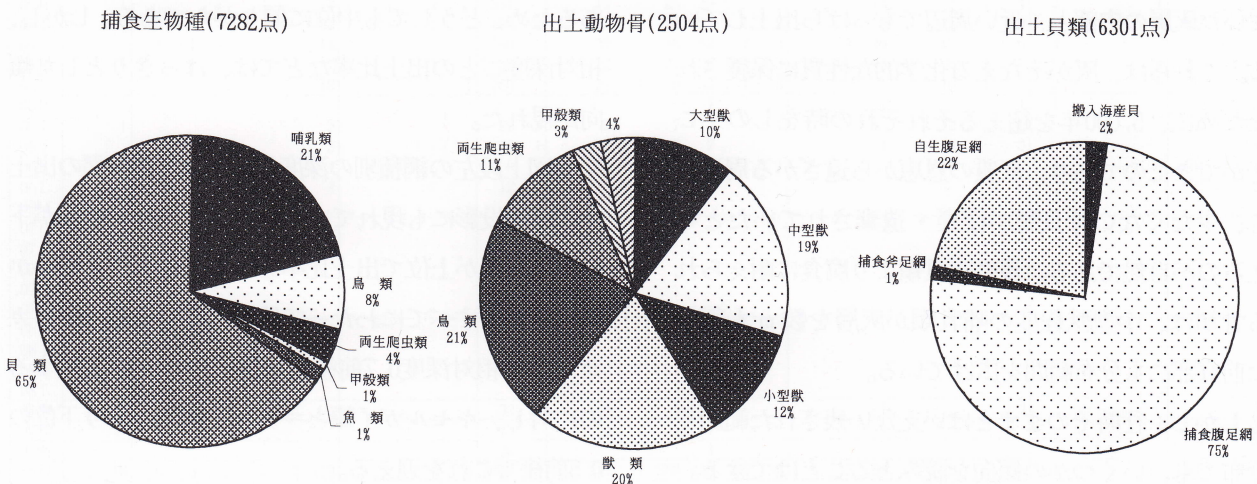
これに対し、一個体でも豊かな肉類が得られる鳥や獣類は、合わせても捕食生物全体数の3割に満たない。特定の部位が他所に持ち去られたとしても、生体を構成する骨の点数を考えれば、単体完形で検出された例が多い貝類と比較して、個体換算の検出数は圧倒的に少ないといえる。

動物類の内訳は、哺乳類が半数以上を占め、キジを中心とする鳥類がこれに続く。さらに同図中央でみると、哺乳類骨は、イノシシやシカなど、大型の獣の比率が少なく、周辺生息種で最大のクマは1点しか見つからなかった。妙音寺洞穴利用者の捕獲対象は、時を超えてタヌキからネズミ程度に至る中小型の獣に集中していたようである。

これら骨類については、それぞれ部位の鑑定も委託し、結果を得たが、資料のすべてにわたってこれを報告するには莫大な頁数を要してしまう。そのため、本書中ではその記載や集計を省略している。一般に部位は末節周辺が多く、胴部・頭部など、利用価値の高い部位の出土が少ない傾向にある。また、同じ生物種の各部位が至近に集中する例も、後述するわずかな例外を除き、みられなかった。

加えて、被熱した動物骨も多く出土しているが、こちらは、食用に代表される意図的な受熱と、後世の燃焼に巻き込まれた二通りが考えられ、特定できない。ちなみに、焼骨は、カエル・ヘビなどの両生類・爬

第65図 出土骨貝類の種別比率



虫類で比較的多く出土している。

この他、眼前の三沢川では甲殻類やウグイをはじめとする魚類などが捕らえられたようだが、三沢川で得られた最大の恩恵は、単一種で出土骨貝類の過半に達するカワニナで享受している。カワニナは、捕食貝類のほとんどを占めている。だが、そもそも結晶片岩の岩盤が露出する三沢川河床では、二枚貝が生育しにくい環境であったのも確かだろう。

一方、出土貝類全体の22%に及ぶマイマイ類やキセルガイ類などの陸棲巻貝類は、人間に食されたというよりは、落葉類が舞い込み溜まりやすい上に、適度な湿気を保つ暗所となる洞穴の内部に自生していたと考えられる。洞穴奥方への出土位置の偏りや、後述する主要捕食貝のカワニナとの出土比の相関が、自生個体の遺骸である可能性を示唆している。

その他、貝類の中での量比は少ないが、海水産類が10種140点ほど出土している。当然のことながら、秩父域には海進は到達していない。したがって、すべてが搬入品といいきれぬ。同じ海水産種だが、魚類として分類したイタチザメの歯1点を加え、搬入品は、当地での海産物の希少性を当て込んだ装飾品として供されたものが大半だろう。装飾品と特定できるものなかには、ハチジョウダカラで作られた大型の垂飾や、ツノガイの破片や裁断した環を利用したネックレスの断片などがある。

さて、第32図でも紹介したが、妙音寺洞穴遺跡で出土した動物骨や貝類は、洞穴入口にうずたかく堆積していた灰層の内部と、近い周辺でもっぱら出土している。これらは、灰がそなえる化学的な性質に保護されたために、5,000年を超えるそれぞれの時をしのぐことができたのであり、灰質の恩恵から遠ざかる周辺でも、少なくない骨貝類が投棄・遺棄されていたと考えるのが自然である。現に、貝類より腐食に耐えられる骨類は、中型獣程度の哺乳類が灰層を数mも離れた前庭部にも分布範囲を広げている。

しかし、往時そのままとはいえない残された範囲や分布でも、いくつかの傾向を読みとることはできる。

たとえば、大きな質的变化を想定できない灰層の内部でも集中の偏りがあった。

前述したように、5 I グリッド付近の灰層中央では、土器や石器のみならず、骨貝類も極端に出土量が減少する。逆に周辺では貝類が集中し、灰層全体では南に濃い環状に広がっていた。この状態には、燃焼施設とそれを使用する人のお気に入りの位置、そして周囲への残滓の投げ捨てが想定できる。

これに対し、土器や石器の接合関係にあたる同個体の特定は、屈葬墓の人骨と、後述する南底下の幼児骨以外は不可能であった。また、土層の観察の項でも述べたが、灰層内は純灰質とその流出土がめまぐるしく入れかわり、担当者の見識では精査を進めながらの確実な分層は困難であった。そのため、洞穴内の分層遺物取り上げでは灰層すべてを一括してしまっている。骨貝類は、ほとんどが灰層より出土しているため、分層別の成果は得られなかったことになる。

しかし、第67図の5列断面投影では、洞穴の入口中央にみる骨貝分布の欠落や、南底下の下層でもう一つ存在する骨貝類の集中が現れている。また、同図6列の断面投影では、灰層と雨垂れ外部との極端な分布の差が、そして、J列に対する断面投影では、カワニナを中心とする貝類がⅢF層に相当する部分で多く出土していることがわかる。

さらに、分層取り上げの不足を補うため、第34～51表を全掘削深度に対する相対位置の別に集成したのが第66図である。それでも骨貝類は、灰層中心の遺存であるため、どうしても中位に偏りがちである。しかし、相対深度ごとの出土比率などでは、はっきりとした傾向が現れた。

同図上段左の網種別の深度分布では、第67図の出土位置断面投影にも現れていたとおり、全体に骨類が下位で、貝類が上位で出土比率を増していることがわかる。また、すべてにわたって優勢に立つ貝類では、カワニナが相対深度0.7前後で出現率のピークに達するのに対し、キセルガイ類とマイマイ類は、より下位の0.5前後でこれを迎える。



















第41表 ブロック別出土骨貝集計表(4-2)

ウコ魚 グイ類	アカラガイ類	イモガイ	ヘナタリガイ	タマキビガイ	ツノガイ	ハマグリ	アサガイ	ハイガイ	サルボウガイ	カワニナ	チリメンカワニナ	キセルモドキ	キセルガイ	ツムガタギセル	ヒメキセルガイ	キセルガイ類	オカチヨウジガイ	ホソオカチヨウジ	ウラジロベッコウ	サドヤマトガイ	ニッポンマイマイ	ヒタリマキマイマイ	オオケマイマイ	ミスジマイマイ	マイマイ類	ヤマトシジミ	マシジミ	イシガイ	マツカサ	不計	説明	ブロック・遺構	相対深度	
												2					1													5 1	04L-3-23 04L-3-22	0.05 0.00		
										2													1							1 1 5 1 1 2 2 3 2	04L-4-33 04L-4-31 04L-4-29 04L-4-27 04L-4-26 04L-4-25 04L-4-24 04L-4-23 04L-4-22	0.65 0.50 0.40 0.30 0.25 0.15 0.10 0.05 0.00		
										1 29 5 2		2 1		2 2 1															1	3 37 32 12 3	05G-2-46 05G-2-45 05G-2-44 05G-2-43 05G-2-42	1.00 0.60 0.40 0.20 0.00		
										3 9		1																		4 14	05G-4-44 05G-4-43	1.00 0.00		
										3 4 9 15 40 29 30 19 7 10		1	1 1 2 4 3 2 1 1	1 2					1					1						7 8 12 18 55 40 24 27 15	05H-1-46 05H-1-45 05H-1-44 05H-1-43 05H-1-42 05H-1-41 05H-1-40 05H-1-39 05H-1-38 05H-1-37	1.00 0.90 0.75 0.65 0.55 0.45 0.35 0.20 0.10 0.00		
1					1					6 4 25 20 51 32 37 17 5 1 2				2 2 1 1 1 1 1 3										1						11 8 28 25 56 37 48 29 15 1 2 2	05H-2-46 05H-2-45 05H-2-44 05H-2-43 05H-2-42 05H-2-41 05H-2-40 05H-2-39 05H-2-38 05H-2-36 05H-2-33 05H-2-32	1.00 0.90 0.85 0.80 0.70 0.65 0.55 0.50 0.40 0.30 0.05 0.00		
										1 22 7 7 27 18			1 1 4 1						1 1												1 2 27 10 14 35 27 1	05H-3-45 05H-3-44 05H-3-43 05H-3-42 05H-3-41 05H-3-40 05H-3-39 05H-3-38 05H-3-35	1.00 0.90 0.85 0.75 0.65 0.60 0.50 0.40 0.15	
										3 16 20 27 26 1			1 1											1							4 18 24 34 38 1 2	05H-4-43 05H-4-42 05H-4-41 05H-4-40 05H-4-39 05H-4-38 05H-4-33	0.85 0.80 0.70 0.65 0.55 0.50 0.15	
					1					6 2 20 12 17 17 8 13 10 6 4				1 1 1 1 1 3					1					1							7 3 3 22 15 18 22 11 16 16 13 12 7 5 12 6	05 I-1-46 05 I-1-45 05 I-1-44 05 I-1-43 05 I-1-42 05 I-1-41 05 I-1-40 05 I-1-39 05 I-1-38 05 I-1-38 05 I-1-37 05 I-1-36 05 I-1-35 05 I-1-34 05 I-1-33 05 I-1-32 05 I-1-31	1.00 0.95 0.85 0.80 0.75 0.65 0.60 0.55 0.45 0.40 0.35 0.25 0.20 0.15 0.05 0.00	
										2 6 3 22 9 8 6					2 2															2 6 6 26 12 10 10	05 I-2-44 05 I-2-43 05 I-2-41 05 I-2-40 05 I-2-39 05 I-2-38 05 I-2-37	0.95 0.85 0.75 0.70 0.60 0.55 0.50		
													1																			10	05 I-2-37	0.50













第47表 ブロック別出土骨貝集計表 (7-2)

ウコ魚	アタイヘタツ	ハマアハサル	カワニ	チリメンカワニ	キセルモドキ	キセルガイ	ヒメキセルガイ	ツムガタギセル	オカチヨウジガイ	ホソオカチヨウジ	ウラジロベッコウ	サドヤマトガイ	ニッポンマイマイ	ヒタリマキマイマイ	オオケマイマイ	ミスジマイマイ	マイマイ類	ヤマトシジミ	マシジミ	イシガイ	マツカサ	不計	ブロック・遺構	相対深度	
																	1					1	6 05K-4-21 2 05K-4-20	0.05 0.00	
																						2	1 05L-1-38 1 05L-1-35 7 05L-1-33 3 05L-1-32 36 05L-1-31 18 05L-1-30 20 05L-1-29 12 05L-1-28 41 05L-1-27 19 05L-1-26 16 05L-1-25 12 05L-1-24 15 05L-1-23 9 05L-1-22 8 05L-1-21 5 05L-1-20	0.95 0.80 0.70 0.65 0.60 0.55 0.50 0.45 0.40 0.35 0.30 0.25 0.20 0.15 0.10 0.05	
																						2	9 05L-2-33 11 05L-2-32 21 05L-2-31 8 05L-2-30 23 05L-2-29 22 05L-2-28 13 05L-2-27 29 05L-2-26 8 05L-2-25 7 05L-2-24 1 05L-2-23 9 05L-2-22 5 05L-2-21	0.70 0.65 0.60 0.50 0.45 0.40 0.35 0.30 0.25 0.15 0.10 0.05 0.00	
																						1	2 05L-3-38 1 05L-3-35 3 05L-3-33 1 05L-3-31 2 05L-3-30 4 05L-3-29 4 05L-3-28 3 05L-3-27 16 05L-3-26 11 05L-3-25 18 05L-3-24 7 05L-3-23 3 05L-3-22 8 05L-3-21 7 05L-3-20	0.95 0.80 0.70 0.55 0.50 0.45 0.40 0.35 0.30 0.25 0.20 0.15 0.10 0.05 0.00	
																							3	3 05L-4-31 10 05L-4-30 14 05L-4-29 4 05L-4-28 7 05L-4-27 4 05L-4-26 16 05L-4-25 3 05L-4-24 7 05L-4-23 3 05L-4-22 3 05L-4-21 5 05L-4-20	0.70 0.65 0.60 0.55 0.50 0.45 0.40 0.35 0.30 0.25 0.20 0.15
																							1	3 06H-1-40 1 06H-1-33	0.65 0.15
																							1	1 06H-2-38 4 06H-2-37 2 06H-2-36 2 06H-2-34 1 06H-2-32	0.60 0.55 0.45 0.30 0.15
																							1	1 06I-4-34	0.10
																						1	1 06I-1-41 2 06I-1-40 1 06I-1-39 10 06I-1-37 12 06I-1-36 12 06I-1-35 1 06I-1-34 5 06I-1-33 4 06I-1-32 3 06I-1-31	0.75 0.65 0.60 0.45 0.40 0.35 0.25 0.20 0.15 0.05	
																						1	5 06I-2-39 1 06I-2-38 8 06I-2-37	0.65 0.60 0.55	



第49表 ブロック別出土骨貝集計表 (8-2)

ウコ魚	アタイヘタツ	ハアハ	サル	カチ	チリ	キセル	キセル	ツム	ヒメ	キセル	オカ	ホソ	ウラ	サド	ニッ	ヒダ	オオ	ミス	マイ	ヤマ	マシ	イシ	マツ	不	計	ブロック・遺構	相対深度
1				6 4 4 2 2 2	1					1 1 2 1									1 3 2 3					10 12 16 13 10 5 1	06 I-236 06 I-235 06 I-234 06 I-233 06 I-232 06 I-231 06 I-229	0.45 0.40 0.35 0.25 0.20 0.15 0.00	
				2						1														2 3	06 I-336 06 I-332	0.45 0.15	
																								1 3 2	06 I-441 06 I-432 06 I-431	0.80 0.30 0.25	
				1 2 1 10 1 4 1 2 5 1		1 1 1		2 1 1	1 1							4				1					1 4 1 15 3 13 3 5 5 7 1 2 1 3	06 J-138 06 J-137 06 J-136 06 J-135 06 J-134 06 J-133 06 J-132 06 J-131 06 J-130 06 J-129 06 J-128 06 J-127 06 J-126 06 J-125	0.75 0.70 0.65 0.60 0.55 0.50 0.45 0.40 0.35 0.25 0.20 0.15 0.10 0.05
			2 1	4 1 3 1 3 1 2 4 1 2					1 1 1	1 1					1					1					5 1 4 3 6 4 5 2 10 3 6 6 3	06 J-234 06 J-233 06 J-232 06 J-231 06 J-230 06 J-229 06 J-228 06 J-227 06 J-226 06 J-225 06 J-224 06 J-223 06 J-222	0.60 0.55 0.50 0.45 0.40 0.40 0.35 0.30 0.25 0.20 0.15 0.10 0.05
						1																			1 3 3 2	06 J-336 06 J-331 06 J-330 06 J-327	0.65 0.40 0.35 0.15
	1			1						1															2 1 1	06 J-429 06 J-425 06 J-424	0.45 0.30 0.25
			1		2					2 2							1								1 5 10 1 7 2	06 K-130 06 K-127 06 K-126 06 K-125 06 K-124 06 K-123	0.45 0.25 0.20 0.15 0.10 0.05
1			1		1			1 1		3 3 1									3		1			4 1 5 7 4 6 6 2 1	06 K-228 06 K-227 06 K-226 06 K-225 06 K-224 06 K-223 06 K-222 06 K-221 06 K-220	0.45 0.40 0.35 0.30 0.25 0.20 0.15 0.10 0.05	
																									2 3 1 4 3 3 2 2 4 5	06 K-331 06 K-329 06 K-328 06 K-327 06 K-326 06 K-325 06 K-324 06 K-323 06 K-322 06 K-321 06 K-320	0.60 0.50 0.45 0.40 0.40 0.35 0.30 0.25 0.20 0.15 0.10
			1 1															1							2 1 2 3 5 4 6	06 K-432 06 K-431 06 K-428 06 K-427 06 K-426 06 K-425 06 K-424	0.70 0.70 0.55 0.50 0.45 0.40 0.35





相対深度を優先させれば、このちがいは一段と際立つことになる。同図上段右での両者は、動物骨の増減に関わらず、お互いに反比例の関係にある。当然のことだが、捕食種と目されるカワヒナが人間によって洞穴内にまき散らかされる段階は、自生種のマイマイ類が安息する環境が少ないため、両者の相容れない関係が浮かび上がる。

また、搬入海産貝類の分布は下位から恒常的に認められるが、上位でほとんどみられなくなる。一方、動物骨は、一般に貝類より下位にあるが、水棲の甲殻類と魚類は、カワヒナとまったく同じ増減を示す。

対して、小型獣と鳥類、そして両生類・爬虫類は、明らかに三沢川を母体とした一群と異なる増減の過程を示している。集中は下位に偏るとともに、とくに、相対深度0.5付近からの激減が三沢川依存種のピークと重なっている。これは、第67図中の各断面に現れた貝類の激増と同じ現象を裏打ちしている。そして、動物骨のうち大型・中型獣は、この双方のピークに重なっており、継続した捕食を示している。

さらに、ヒトに至っては洞穴内に遺骸の及んだ経緯の明らかなきがいを示すかのように、他に共通することのない増減の傾向を示す。

ヒト骨は、いくつかの発表の際に屈葬墓以外の出土を否定したが、検出骨貝すべての同定の結果、42点が検出された。これらは、幼児や乳児の割合が多く、当時の生育環境の過酷さをものがたっている。もちろん乳幼児が当地で自然死したとは考えられず、葬られたとみるのが妥当だろう。だが、検出2土壌の位置とはかみ合わず、埋葬地は特定できない。遺存骨も断片的であるため、石組炉の改廃など灰層中の混乱に巻き込まれ、散逸劣化してしまったと考えられる。

そのなかで、南底下の岩盤壁際にあたる4K-3・4-25ブロック付近で幼児の頭骨・頸骨・肋骨・上腕骨などが至近でまともに出土する例があり、同一人物の遺骨である可能性が強い。付近は沈線文系と押型文系の土器が分布し、ほぼ直下に第3号炉跡が構築されている。同時期での南底下の使用を締めくくる一つ

の節目となる埋葬と考えられるだろう。

この他、ブロックごとに骨貝類を種別で細かく見ると、少量の生物種を中心として、おぼろげだが集中傾向を見て取れる個所もある。

たとえば、中型獣のうち、ノウサギやタヌキは、洞穴内部に多く、部位も近いものが多い。前者は洞穴入口の両側の4Hグリッド上位と4Jグリッドの中位に集中しており、4Jでは顎周辺の部位が多い。また、後者は、洞穴入口中央の4Iグリッドの上位に歯と上腕骨付近が集中して分布している。

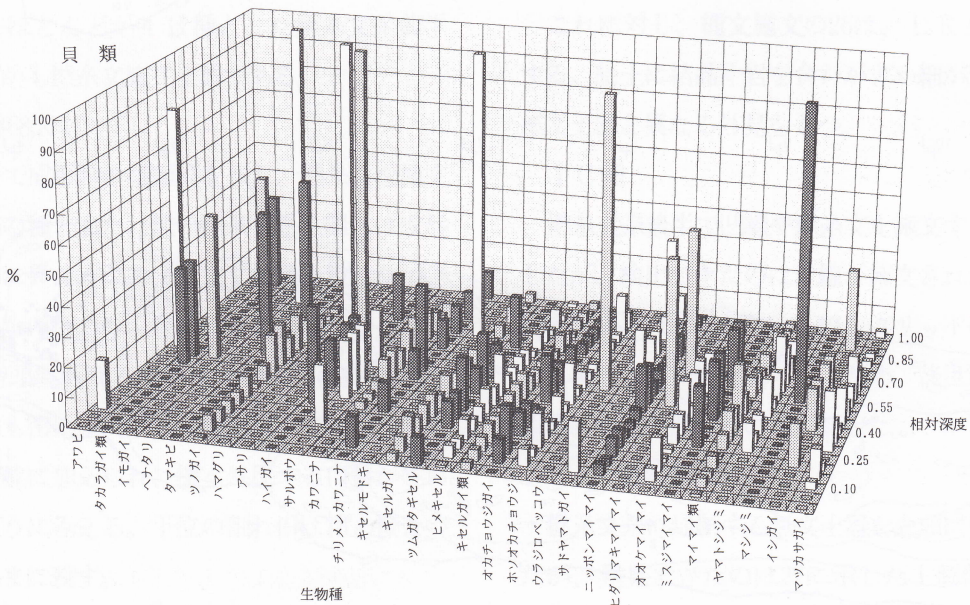
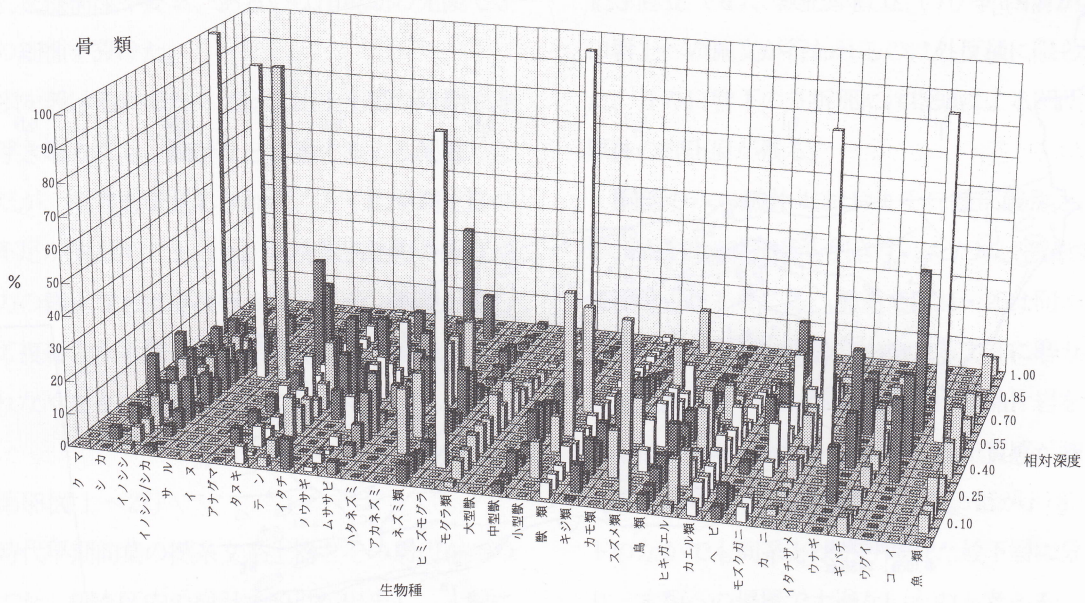
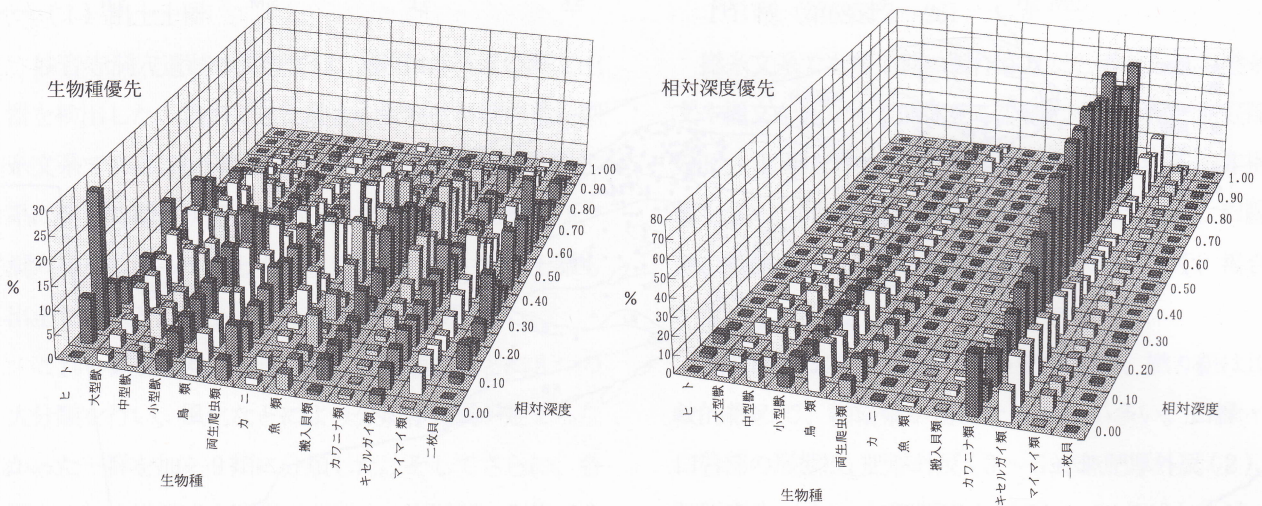
また、同じ小型獣でも、ネズミとモグラでは多少分布がずれている。かたやネズミは洞穴内の灰層上位での出土が大勢を占め、カワヒナの水平垂直分布と共通する。対してモグラは洞穴入口南の5Kグリッド上位にまとまっている。さらに、鳥類は、4Kグリッドに集中するキジを含め、洞穴入口の南から南底下の下位で多く出土した。

さらに、両生・爬虫類のうち、カエルはとくに4・5・K・L列南底下の、ブロック高30以下で集中している。逆にヘビは、他の両生・爬虫類の各種の傾向とは異なり、もっぱら洞穴内部の灰層上位に多く出土しており、冬眠などの生態から考えて、自生個体の遺骸である可能性も大きい。

これらに対し、シカ・イノシシ類は、個体の大きさからすると満足な点数が出土していないが、平面、垂直ともに生物種の中で最大の分布範囲があり、時をこえた捕食対象としての重要性和一般性をものがたっているかのようである。

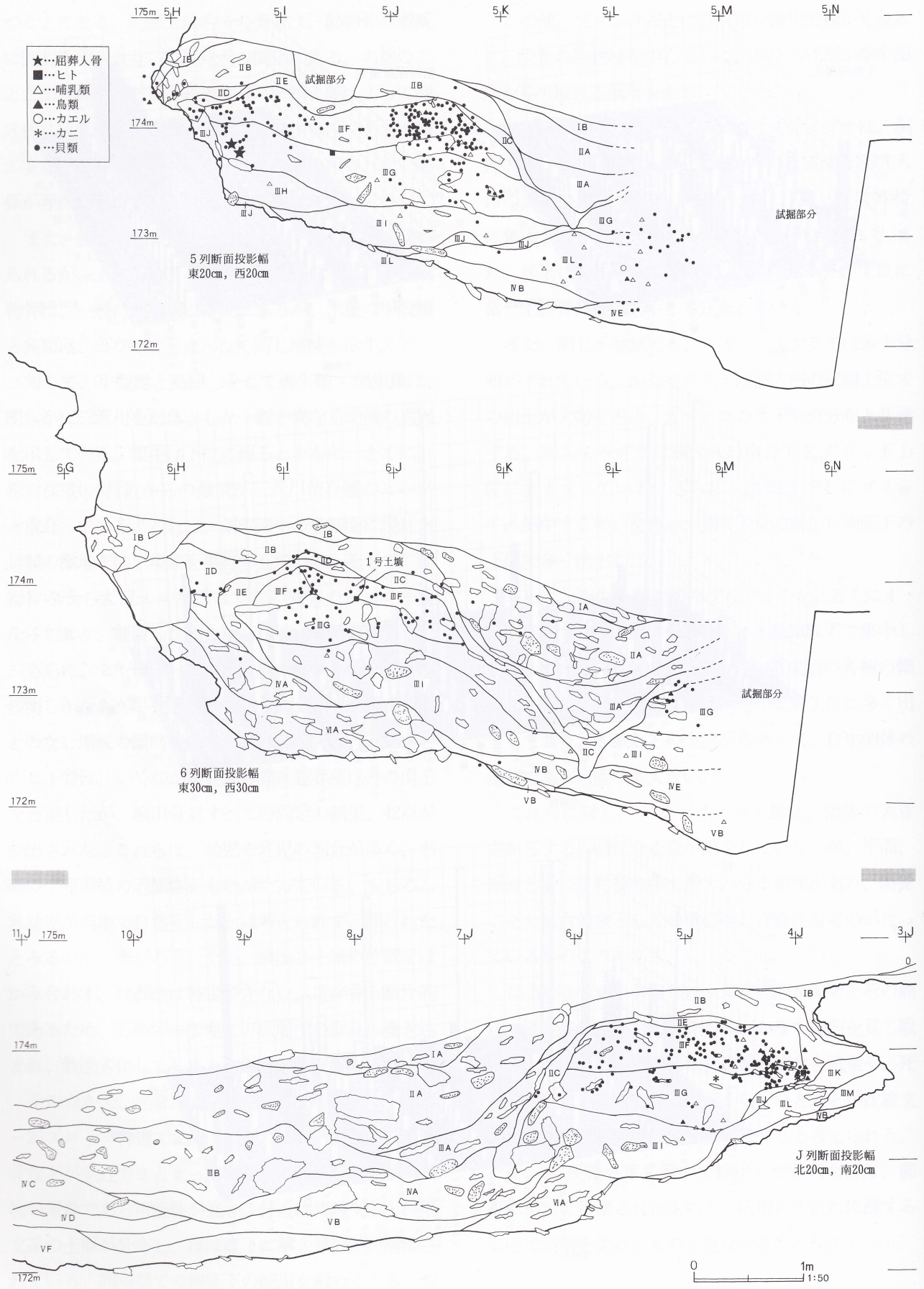
以上のように、骨貝類は、遺存範囲が灰層とその周辺に限定されながらも、いくつかの集中傾向を見て取ることができる。遺存した骨貝類の捕食と遺棄や、死滅の時期は、灰層の形成時期から、ほとんどが沈線文系から条痕文系前半の時間幅で収まると考えられる。だが、II B層やII E層中で検出した資料などは、前期に至って遺棄されたものの、灰層の至近に位置することで溶解を免れたものと見なせるだろう。

第66図 骨貝類の種別出土相対深度





第67図 5・6・J列上の骨貝類垂直分布



## 5. 出土遺物

### (1) 出土土器

妙音寺洞穴遺跡の調査では、総計4,374点の縄文土器を検出した。識別できた最古の資料は早期前葉の撚糸文系であり、途中断続的ながら中期後半の加曾利E系に至る時期の所産が認められた。他に、上層では、洞穴発見のきっかけともなった弥生時代中期の土器も出土しているが、小片のため図示はしていない。

これら縄文土器は、土器製作の共通をもとに8つの大分類を行い、風化などにより分類の帰属が定まらなかった一群を加え9類に分類した。そしてさらに、各類では、文様構成や要素、あるいは出現期の先後で3から7の細種を設けた。

分類項を設けるにあたっては、出土土器の時期や地域相を浮き彫りにし、統計などに適するよう配慮したつもりだが、全容を予見しきれず、とくに早期土器の分類で不足が生じてしまった。水洗選別遺物の総覧や統計入力の修正などは逐次行った。だが、整理が進むにつれて複雑となる修正の手順や整合性の維持が、対処しきれなくなり、報告に至ってしまった。

#### 1類 (第68図1～27)

縄文時代早期前葉の撚糸文系土器とその周辺をこの類にあてた。調査区内の総計で59点が出土し、4種に分類したが、ほとんどが4B種とした撚糸文系前半期の有文、しかも撚糸文施文土器である。

##### 1A種 (第68図1)

非常に薄手で成形時の指頭痕を残し、撚糸文を施文するものをこの種とした。他の撚糸文系土器とは成形手法が根本的に異なるため、独立した種を設けたが、結局認定できたのは1の1点のみであった。

同番は、指頭痕が残る厚さ4mmの器面に撚糸Lを縦位に、しかも密に施文する。口唇直下にはおなじ原体の押圧が横位に加えられ、緩く外反する口唇がさらに屈折するようにみえる。下位の割れ口は粘土接合の痕跡をそのままに残す。

##### 1B種 (第68図2～26)

撚糸文系でも前半期に製作されたと考えられる撚糸文や縄文を施文する個体をこの種に一括した。前庭部のK・L列を中心として53点が出土している。非掲載を含め、同一個体と思しき破片が多くあるが、口縁部の特徴以外になかなか確定できるものがなく、接合かなわなかった。

施文原体は26を除くすべてが撚糸文で、撚り紐は比較的細めで、軸絡幅が密になるものが多い。口縁・口唇部の形態は、肥厚外反(3～5)、無肥厚外反(2)、肥厚直立(6)、無肥厚直立(7)の四者があるが、口唇上への施文が行われるのは外反種に限られる。また、3の口唇下の外折部には指頭による凹凸に重ねて原体の押圧痕が残る。

胴部みの破片もおおよそ口縁部破片と大差ないが、11と21は絡条体を引きずったため、撚糸ではなく、条線文と化している。加えて、24・25は同一個体で、斜位に施文された撚糸文を撫でるように磨り消す特異な施文法を用いている。胎土には結晶片岩をはじめとして他とおなじ砂粒を含むが、粘土質感が強く、押型文系土器の一部に類似している。だが、8Lグリッドのなかでも同系とはかけ離れた最下層に分布しており、本類への帰属で大過ないものとする。

これに対し、縄文施文の26は、LRを斜位に施文する。胎土に結晶片岩を含むがきめ細かく、他の撚糸施文土器と異なる外見をもつ。

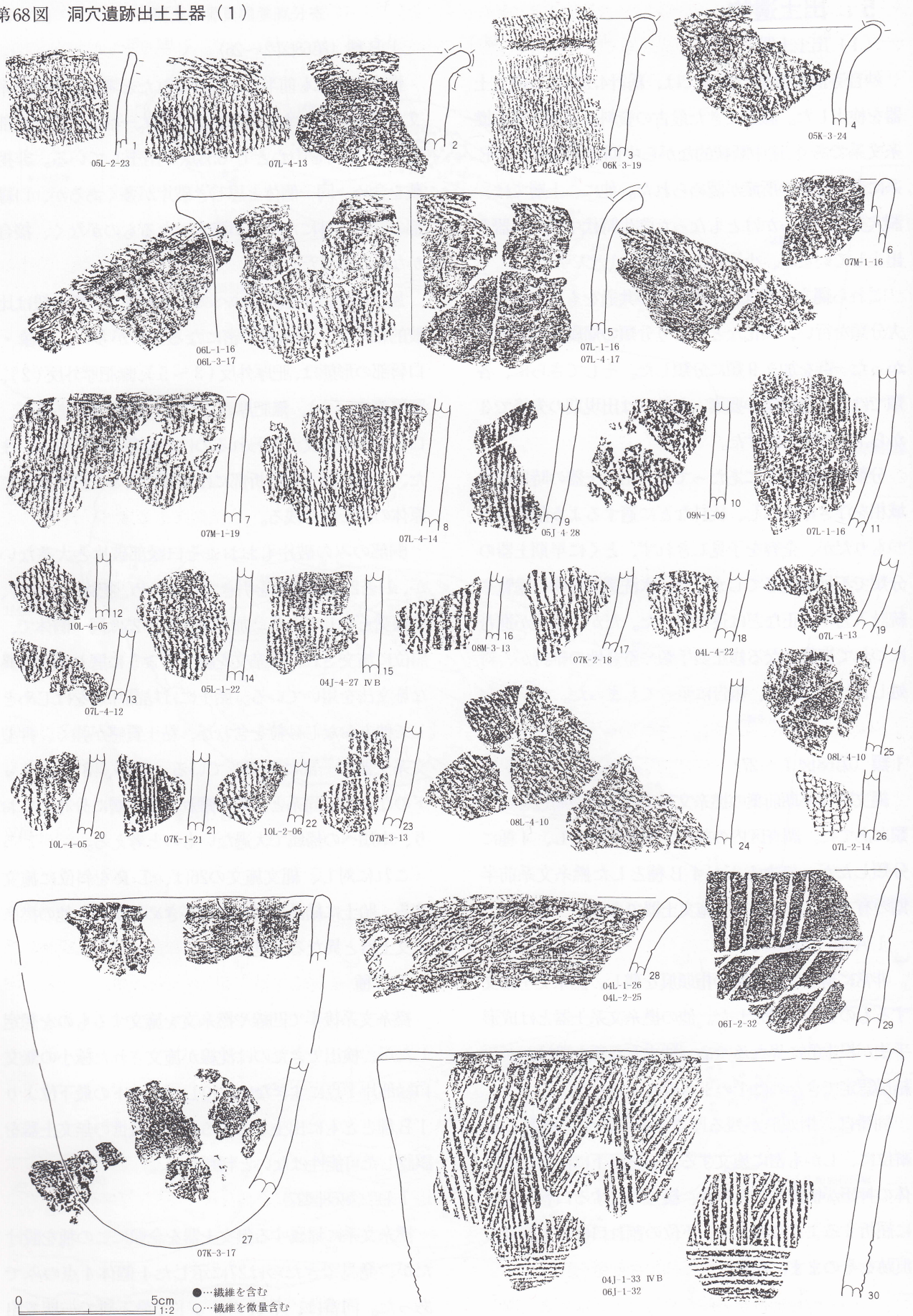
##### 1C種

撚糸文系後半で凹線や撚糸文を施文するものを想定したが、検出できたのは沈線が施文された極小の無文口縁部片1点にすぎない。10Lグリッドの最下位より1B種とともに出土しているため、後世の無文土器を誤認した可能性はないと判断した。

##### 1D (第68図27)

撚糸文系に帰属する無文土器を念頭にこの種を設けたが、発見できたのは27に示した1個体4点のみであった。同番は、7Kグリッドの最下層で一括で出

第68図 洞穴遺跡出土土器 (1)



土した推定器高13cmの小型土器だが、胴部の破片を欠いている。器高のわりには器壁が厚く、器面調整も雑で、粗製土器として急造された個体らしい。

## 2類 (第68図28～第74図160)

縄文時代早期中葉の沈線文系土器と、これと共通する手法を用い、おおよそおなじ時期に製作されたと考えられる縄文施文土器などをこの類とした。総計で431点が出土しており、分類が可能であった土器片の約12%を占めている。出土量では条痕文系・竹管文系に次ぐ順位となる。

遺物整理時には、これらを5種に分類したが、そのうち沈線施文土器を振り分けた2種は、想定した時期差と実際の出土相に齟齬があり、あまり有効な弁別とはならなかった。他の3類は、貝殻文、縄文、無文など、当時の文様施文体系の中で副次的な扱いを受けていた要素をあてた。

### 2 A種 (第68図28～第70図62)

細い沈線で幾何学的な文様を描くものを一括してこの種とした。沈線文系の前半期を念頭に、太い沈線の2 B種との間に時間的偏差が現れると予測し、統計を開始した。たしかに断面への出土地点投影をみる限り、2 A種は2 B種より下位にある例が多い。だが、作業にあたっては、個体破片ごとの分離の定義基準に揺れ動き、結局は先後を混合する意味の少ない分類設定に終わったようである。この種に分類した破片は、洞穴奥から9列までの全体にまんべんなく出土しており、95点が数えられた。

文様構成は、大きく格子・鋸歯の斜位線列と、横位のみ線列に分かれ、2 B種の63のような曲線的構図を描き出すものはない。だが、前者で全面におなじ構図が施文されるのは41のみで、線列が集合化するものは上位文様帯や胴中位文様帯の一部のみに配された可能性が強い。41も、詳しくみると、破片上端に格子と重なる縦位線列の口縁下特別帯を加えている。

文様帯の配置は、口縁直下の単沈線帯を設け、あらためて幅広の特別帯を展開させる28・29などと、32の

ような上位区画として横位線列を配するもの、30・31が用いる上位区画をもたないものの三種がある。このうち、単沈線帯は、248や253など、幅広の文様帯が退行する中でも継承されているようである。

また、36～40は、横位線列にはさまれた胴部特別帯にまばらな斜位線列と貝殻腹縁文を施文している。胎土は沈線文系に特徴的な硬質感がない。また、56も胎土の特徴や沈線施文の手法から、これらと同一個体の可能性がある。

おなじく同一個体の可能性のあるものに、33・48・52、50・53がある。また、43は、繊維の有無を除けば条痕文系土器の胎土に類似している。

### 2 B種 (第70図63～第71図88)

太目の沈線で幾何学的な文様を描くものをまとめた。2 A種の項で述べたとおり、沈線の太細による分類統計では、先後を混交してしまったため、さしたる傾向が現れなかったが、具体的な文様構成では、いくばくかのちがいを見いだすことができる。

このうち、63・67・68では、口縁下の文様帯に単なる線列の組合せではない、菱形の構図が描かれており、63では中心に渦巻文が充填されている。曲線による文様描写は70にも共通しており、下位に横位線をもたない開放型の弧線文は、65の文様帯配置とともに、248の構成にも通じるところがある。また、線間を刺突列で充填する手法も、胴部での縦位線列と並び、この種に独自のものである。

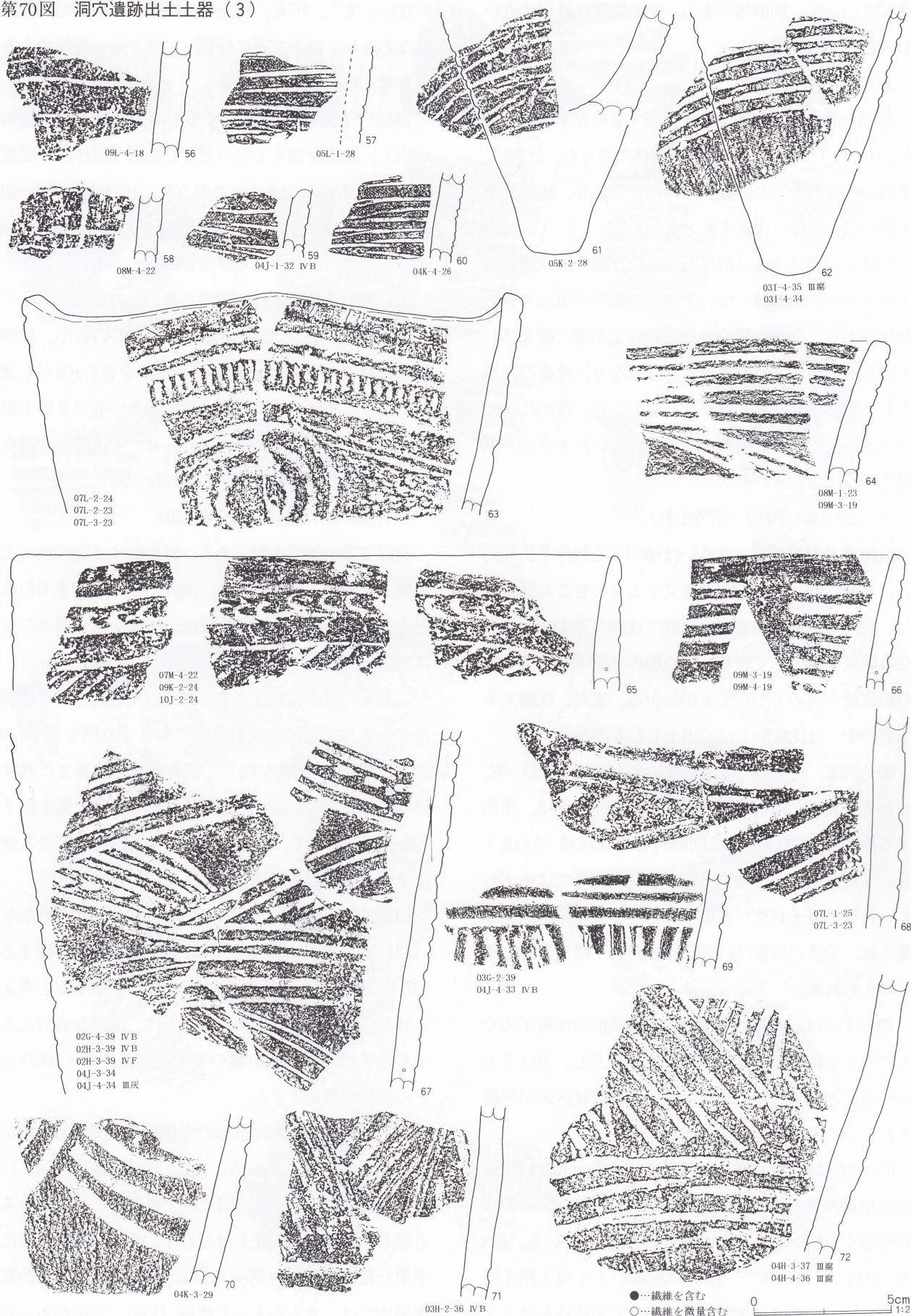
そして、66・67は胎土に繊維を微量含んだ痕跡が認められ、黄橙褐色を呈する色調や沈線の太さなど、同一個体と判断できるに加え、66が口縁直下の横位線列文様帯区画となる可能性がある。さらに、64・69も内面にみる滑沢を帯びるまでの調整や、切り立った深い沈線の特徴から、同一個体の口縁下文様帯の上下区画線に相当するかもしれない。くわえて、65は胎土に微量の繊維を含む上に、おなじく繊維を含む67とは異なり、粘土の軟質感が強い。

このほか、いささか分類基準からはずれるが、87・88は、浅い凹線を横位に展開する。口唇部の形態も似

第69図 洞穴遺跡出土土器 (2)



第70図 洞穴遺跡出土土器 (3)



通っているが、別個体である。88の器形は鉢形に近いものとなりそうである。

#### 2 C種 (第71図89)

器面全面に貝殻腹縁文のみを施すものを本種としたが、出土した17片はすべて同一個体であった。分布は、4列から8列までの広範囲にわたっており、沈線文系土器の出土状況を代表するともいえる。

89は、口径15.8cm、器高23.2cmを計測する砲弾形の尖底土器で、本遺跡で唯一すべての器形が復元できた個体である。全面に横位の貝殻腹縁文が密に施文されているが、38などの充填要素とは異なり、沈線の代替として用いられたことは歴然としている。他に比べてひとときわ長く二次的加熱にさらされていたようで、赤褐色の器面は表面の剥落著しい。

#### 2 D種 (第71図90～第72図121)

沈線文系とおなじ、あるいは類似する製作手法を用い、器表に縄文や燃糸文を施文するものをこの種とした。洞穴内から8列までの範囲で沈線文系の16%にあたる68点を検出しており、この地の早期中葉では一定の組成比を占めていたことがわかる。また、沈線文系土器の中では比較的上位で出土したものが多し。

90～94は、縄文地に沈線を追加するもので、90～92、くわえて101の4点は同一個体である。4点は、屈曲する胴上位の文様帯を二回の竹管施文沈線で区画する。文様帯の内部は無文となり、沈線文系ではめずらしい竹管で格子目文が充填される。下位は単節縄文が施され、全体の器形は口縁部が膨らむ平縁土器となると考えられる。

他の2点は、どちらも燃糸文地に横位の沈線がめぐのみで全体の構成は不明である。ただし、94は3本を一単位としており、地文を消去する帯状区画が意識されているのは確かだろう。

95～102は縄文のみを施すもので、102・103は無節、他は単節原体を使用している。このうち、95～100は器壁薄く、他の同種土器より下位で出土している。95・98～100は同一個体で、接合の痕跡がよく残る粘土質の強い胎土などは、押型文系に属する可能性を捨てき

れない。また、97も、胎土や、横走する縄文の節の特徴などから、燃糸文系に帰属し、26と同一個体であるとも考えられる。

104以下は燃糸文を施文するものであるが、絡縄幅が広く、沈線を加える94のような細密な原体は、底部の120にみるのみである。このうち、107～109は同一個体。110・111もその可能性がある。さらに、116～118も同一個体だが、おなじ原体を縦横、あるいは斜位に転がして羽状や、それに類する条方向の変化を求めている。また、106も似た効果をしてらっているが、尖頭状の口唇部の形態は、おなじく繊維を含む104とも通じており、角頭やそれに近い形態が多い他の2類土器とは趣を異にする。29や65と合わせ、本遺跡の沈線文系でも新相の特徴となるかもしれない。

#### 2 E種 (第72図122～第74図160)

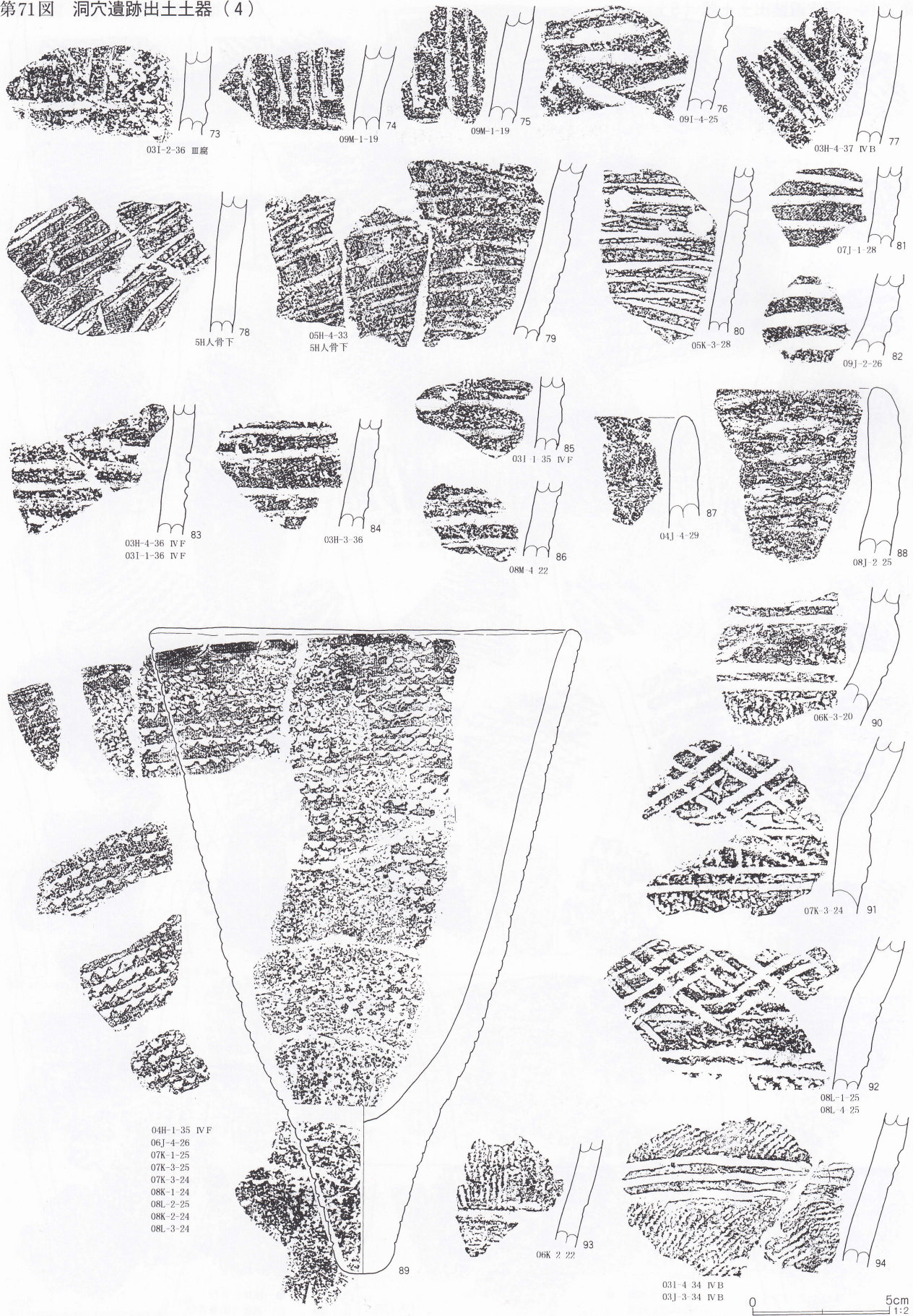
沈線文系の無文土器、あるいは類似する製作法による無文土器をこの種とした。洞穴奥から9列までのほとんどで192点が出土しており、沈線文系土器の45%にあたる。

これらの器表調整はさまざまで、平坂式土器を彷彿させるような意図的な石英砂の引きずり痕を残す129や151、粘土の質感を残し、接合痕をそのままに残す133、意図的かは定かでないが条痕様の掻き傷を印す152～154、そして、沈線文系本来の滑沢を帯びた入念なナデ込みを行う142や157など、偏差も多い。

口唇部の形態は、角頭(129)、円頭(125)、外削ぎ(124)、尖頭(130)などがあり、口縁部の内彎する127は、88とおなじく、鉢に近い器形を呈すると考えられる。また、尖頭状の130・134は、繊維を含むことでも通じており、2 D種の項で述べた、65・106などとの共存が想定できる。

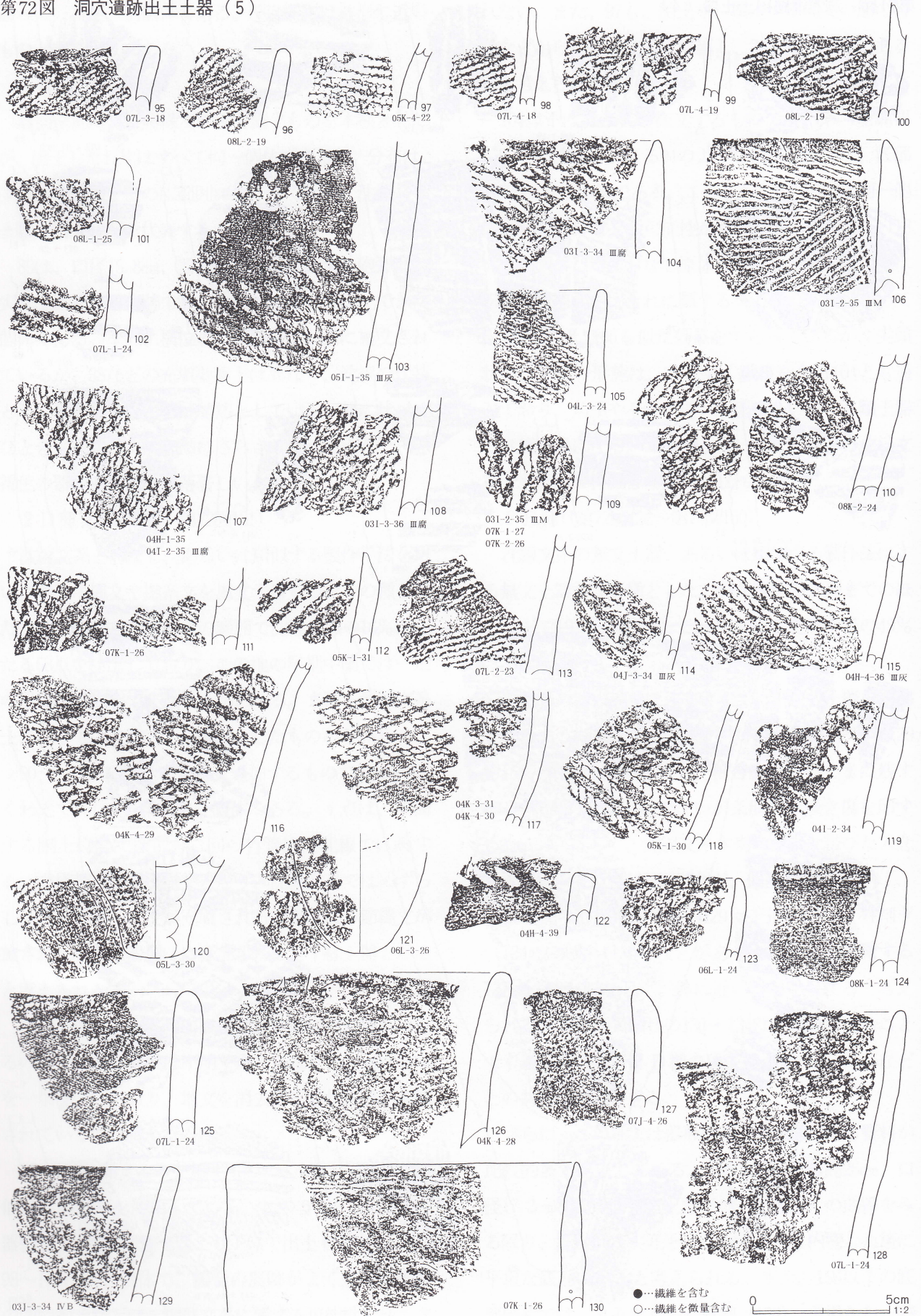
さらに、この種では器形の全体を想像できる資料が比較的多く出土している。131は、推定器高26cm、口径17.2cmの砲弾形尖底土器だが、底部近くの曲線のみを限り、直線的な尖底とはならず、一旦内彎した後に平坦な底面に至ると考えられる。また、156以下の底部破片では、丸みをもった直線(158)、平坦から一時

第71図 洞穴遺跡出土土器（4）

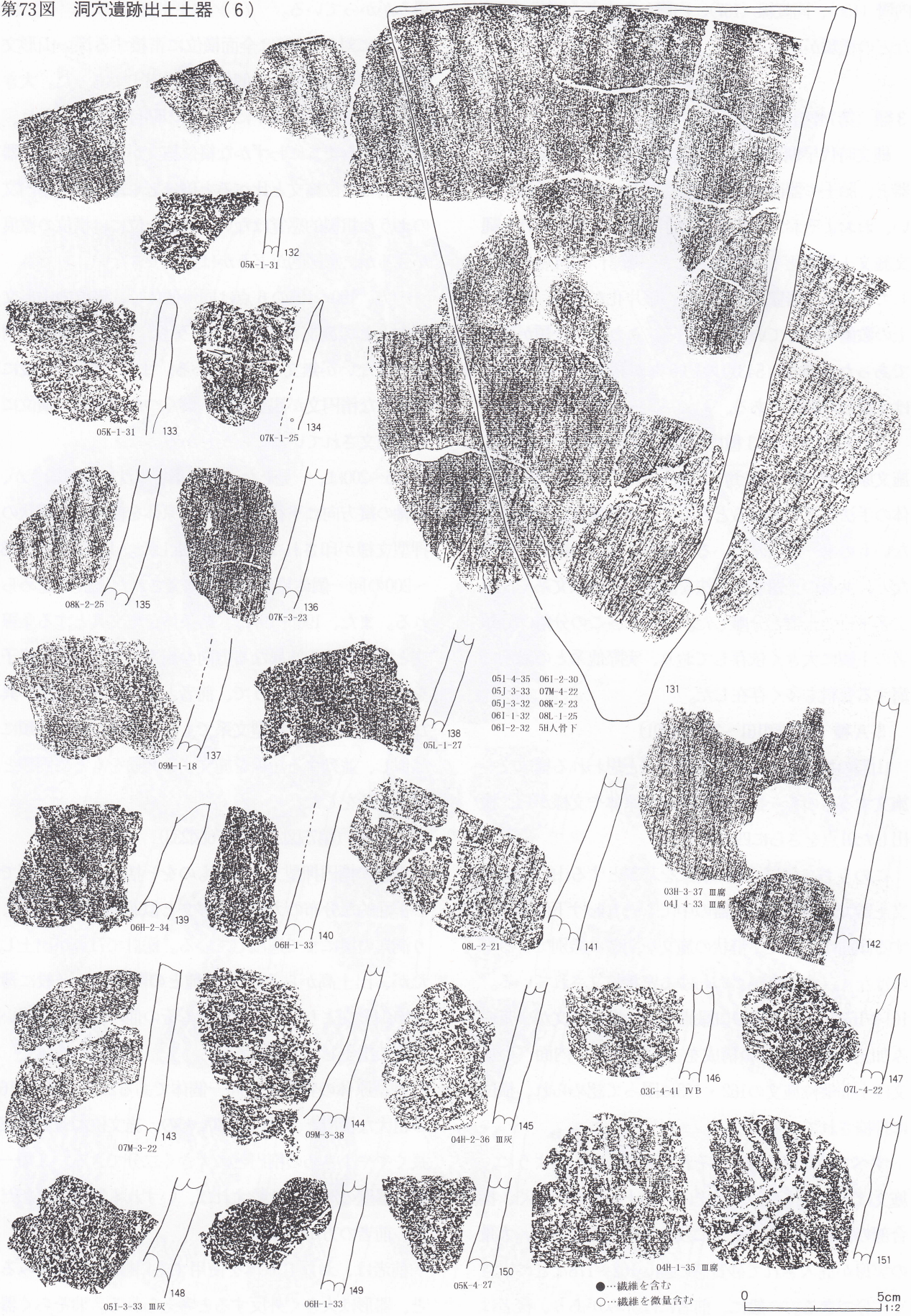




第72図 洞穴遺跡出土土器 (5)



第73図 洞穴遺跡出土土器 (6)



内彎 (156)、同直線 (157)、内彎から大きく開花 (159) などの種類がある。

### 3類 (第74図161～第76図247)

縄文時代早期前葉から中葉に製作された押型文系土器と、胎土や器面の状態から、同系に通ずる手法を用い、おおよそおなじ時期に製作されたと考えられる縄文施文土器などをこの類とした。総計で214点が出土しているが、器壁が薄いために破片化が進み、実態以上の数値を示している面もある。これは、分類が可能であった土器片3,543点の約6%が相当し、出土量では4番目の順位にある。

これらをさらに3種に分離したが、山形・楕円の施文原体別で振り分けた2種は、その中でも構成や原体の手法が見て取れるとともに、押型施文か判断つかないものも一部含んでいる。他の2類は、縄文、無文など、共通の土器製作手法を認定し、撚糸文系や沈線文系平行の土器と分離した。しかし、この分離は分類者の主観に大きく依存しており、実際他系との識別に窮する資料も多く存在した。

#### 3 A種 (第74図161～第75図201)

山形の押型文や、簾状の押型文と思われる構成文を施文するものを一括したが、施文原体や文様から、検出した91点をさらに四分できる。

このうち、161～188は縦位を基調とする山形の押型文土器で、押型文系土器の中でもとりわけ下位に出土する傾向があった。帯状の施文を明確に識別できるものはなく、すべてが、いわゆる密接施文されている。161や167など、一部の口縁直下では横位施文が一带のみ加えられ、T形の構成をとる。また、内面への施文は全面縦位施文の162・163に限って認められ、横位に押捺されている。

すべての器壁は薄く、それに配慮したかのように、施文はきわめて浅い。胎土は、粘土の質感が強く、接合部の割れ口がそのままに残る180・188などと、大量の雲母が混入されて砂質感の強い162～178などに大きく二分できる。一般に、前者には赤みがあり、後者は

黒みがかっている。

これに対し、189は全面横位に密接する深い山形文が展開するもので、1個体のみ出土であった。大きく外反する口縁の直下には大型の貼付文が加えられ、これを囲むようにわずかな縦位施文が加えられる。器壁は前の縦位施文と比べると倍ほどもあるが、楕円文のような粗製の感覚はない。内面上位には横位の擦痕が残るが、意図的かどうかは判断できない。

一方、190～195の6点は同一個体で、横位の山形文が主として施文される。このうち、190の上段は、明確ではないが無文となっている。また、193の下段には小さな楕円文が観察でき、いくつかの要素が横位に帯状施文されていることがわかる。

196～200は、一見したところ集合単沈線と見紛うが、絡軸の縦方向に平行線を刻した原体を使用し、簾状の押型文様が印されていると判断した。具体的には198～200の同一個体片に横位に施文された圧痕が認められる。また、196・197は、絡条体を施文具とする条線文と考えられる。異なる方向の施文を重ねて密な格子を描くのが目的のようで、前者とはいささか構成が異なるが、胎土が、押型文系でも粘土質感が強い部類に酷似し、並列する短線を施文する共通をもとに同類と扱う判断をした。

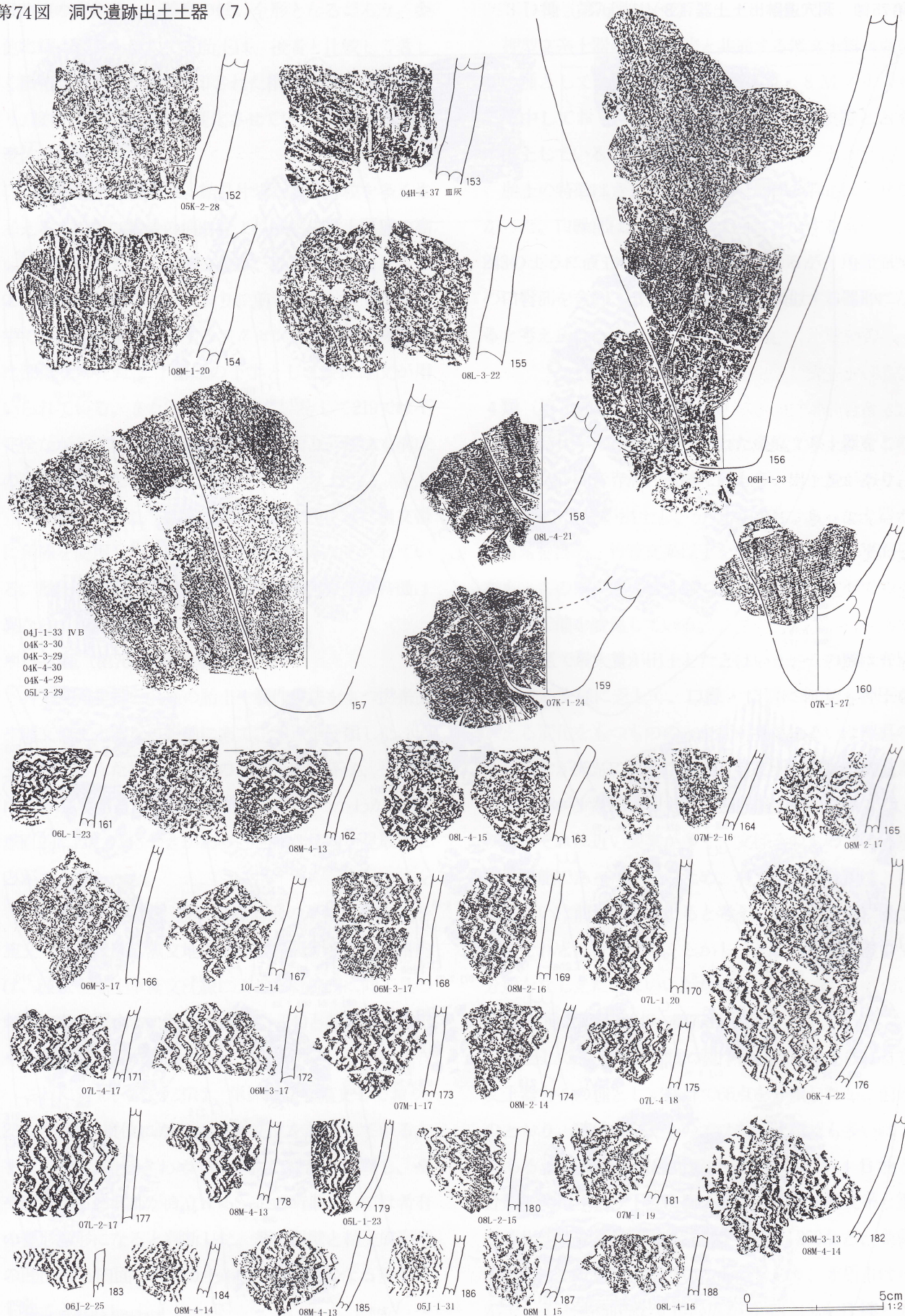
#### 3 B種 (第75図202～第76図233)

各種の楕円押型文を施すものを一括した。前庭部での平面的な分布の大略は山形文と似通っているが、より洞穴の奥にまで進出している。総計で71点が出土したが、出土高からみた3 A種との関係は、一般に薄手の山形文より上位、同種でもその他の構成とは近い高度で出土している。

押型原体の特徴は、同一個体である205～214・216の粗大な楕円と、217・229などの、施文位に対して細長くやや小さめの楕円とに大きく二分できる。3類一般の器壁の厚さと比較すれば、いずれも器壁は厚めだが、前者の方がより厚い。

前者は、おなじ原体を使用する口縁部の204をみると、器形は大きく外反すると考えられる。おそらく器

第74图 洞穴遺跡出土土器 (7)



第75图 洞穴遗址出土土器 (8)



形曲線の変化著しい器高の低い全形となるだろう。金色に輝く雲母を混入する胎土は、後者と比較して著しく緻密さを欠く。206に印された楕円の向きをみる限り、縦横などに施文位を変化させているともとれるが、全体は判然としない。

これに対し、後者は、結晶片岩などの砂粒を多くまじえるものの、接合の痕跡をよく残し、粘土質感の高い胎土が特徴となる。施文位は、217・229などをみると、縦横位が併用されており、前者ではおなじ部位の中で横位施文を地文とするアクセントとして、後者では部位をかえたT字構成の下半として縦位施文が用いられている。また232では斜位に、そして219では不完全ながら羽状に楕円が施文されており、他にも構成の変化があった可能性もある。

さらに、201は、上下の楕円文間に残された無文帯に角棒を使用した3段にわたる刺突列が加えられている。胎土は217などに類似するが、楕円原体の特徴は異なっており、別構成となるらしい。

### 3 C種 (第76図234~240)

押型文系土器と共通の胎土や製作手法をもつ撚糸文や縄文施文土器をこの種にあて、38点を分類した。出土位置からみた押型文系内の他種との関係は、平面的には3 B種と近い範囲に分布しているのがわかるが、垂直的には、ばらつきがあり、一律な傾向を見取ることができなかった。

このうち、234は、波状口縁器形の下位に撚糸文を施文し、口縁部に無文地の文様帯を設ける。文様帯内は、波状を描く単施文沈線による平行線内に同工具の刺突文を充填する。胎土は、238・240と共通する雲母や石英砂を大量に混入する。

これに対し、235~237は、単節縄文を施文しており、236では条が縦位になるよう施文位を調整している。また、235は器壁きわめて薄く、口縁部が内彎し、やや肥厚する口唇部が直立する、この時期としては希有の甕形器形になると判断した。薄い器壁と粘土成形時の凹凸残る内面の特徴からは、1 A種となる可能性も捨てきれない。

### 3 D種 (第76図241~247)

押型文系土器の製作手法と共通する無文土器14点をこの種として分類した。前庭部の7・8 Mグリッドに集中しており、T字構成の山形押型文土器とともに出土しているものが多い。

胎土の特徴はさまざまで、同一個体の判定は下せなかった。口縁部は241・242のような外反するものと、243のように直立するものの二者があるが、角頭気味の口唇部を含め、山形押型文土器に類似する器形になると考えられる。

### 4類 (第76図248~第83図484)

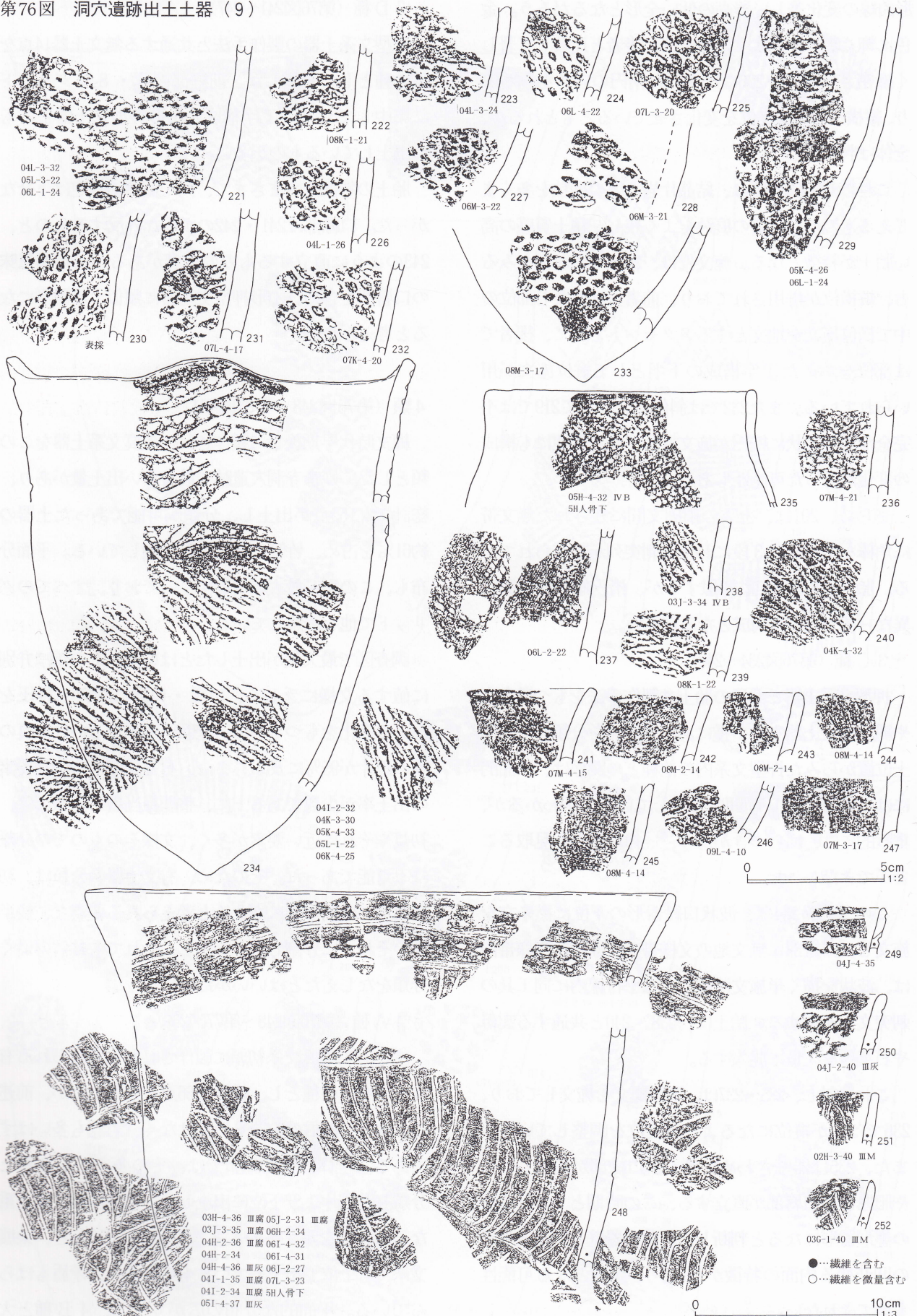
縄文時代早期後葉に製作された条痕文系土器をこの類とした。妙音寺洞穴遺跡で最も多い出土量があり、総計で2,155点が出土し、分類が可能であった土器の約61%を占め、竹管文系以下を圧倒している。平面分布も、この類が最大域を形づくっており、すべてのグリッドで他を凌駕している。

調査区で最大量が出土したとはいえ、この類は弁別に値する文様に乏しく、口縁・口唇に刺突・押圧を加える変化をもつものの、全面が条痕あるいは擦痕のみの破片が95%に及ぶ。また、有文土器も、個別要素の出土率が少数である上に、整理担当者の見識では、初見やそれに近い要素が多く、文様そのものでの分離は不可能であった。そのため、有文土器の分類は、初頭あるいは前半期にあたると思われる要素と、後半期のそれとに分割した。しかし、それでも確信のいく分類をなしえたとはいえない。

### 4 A種 (第76図248~第77図269)

主として条痕文系初頭に製作されたと思われる有文土器をこの種とし、総計で66点を分類したが、前述のとおり、確信のいくものではなく、誤認も多いはずである。全体の垂直分布では、その多くが4 B種と分類した破片より下位に出土し、一部は沈線文系と重なる出土高を示すものもある。だが、250など、条痕文系でも上位で出土しているものもあり、矛盾もはらんでいる。平面的な分布の広がりでは、4 B種と大

第76図 洞穴遺跡出土土器 (9)



差ない。だが、4列での分布は、これがない4B種とのちがいとなっている。

4A種の文様要素は多岐にわたり、一つとしておなじ構成がないといっても過言ではない。逆に考えれば、確たる文様構成を確立・維持できない土器作りの時期的・地域的不安定が憶測でき、条痕文系の中でわずか3.2%しかない出土率もうなずける。

このなかで、248は、複段にわたる沈線区画のもと、口縁直下に刺突帯、以下3段にわたって弧状文を充填する。最下の区画はなく、開放された弧状文が乱雑に施文されている。当初の個別破片の分類に際しては、沈線文系の構成を意識しつつも、それらより各段に多い繊維の混入や、胎土・器面調整の荒さが際立ち、浅くて心もとない沈線や刺突の施文手法から、条痕文系土器の一部と認識した。

しかし、同番に限れば、4A種のなかでも一際沈線文系土器と同位の出土高を示す破片が多い。また、接合関係の広がりや、出土土器のなかでも最大範囲に及び、遠距離の関係が多く成立した沈線文系に近いことを第39図での違和感が示している。やはり、分類は誤りで、沈線文系の個体として扱うべきかもしれない。だが、前記の諸要素は、2類と大きな隔たりも感じさせる、単純な同一視はできないであろう。統計等の修正はかなわなかった。

おなじく、249以下も既知の条痕文系有文土器からの消去法で導き出した分類結果で、大片や同一個体などが少ないこともあいまって、全体の文様構成を判断できない。一見する限りでは、有文帯は口縁下のごく狭い幅に限られ、構図などの構成文を計画的に配するものはなさそうである。

このうち、沈線で文様を描くものには249・253・255などがあるが、前の二点は口縁下の区画帯を設ける点で、249は65や248と、253は28など、沈線文系土器にみる口縁直下の構成手法に類似する。258も、複段の沈線充填文様帯を配する点で248と同様な構成をもつともとれる。

また、250は複数の横位隆帯の上を絡条体で押圧し

ているようだが、判然としない。おなじように、隆帯上に絡条体の押圧が残るものに264・265がある。類似する文様では、263の硬軸を用いた絡条体圧痕文、単独の横位隆帯の266があり、粘土隆起の抑揚が文様化していることでは260も250と共通する。同番は生体爪で器面をつまみ上げたものかもしれない。

一方、刺突系の施文が文様要素となるものには、259・261・262・267～269がある。平行沈線と充填刺突が組みになり構図を描くものはなく、単沈線に添えられるものが259、261・262・269では横位区画線そのものにかえられている。268は押し引き刺突の縦位区画内に同施文の線列が充填される波状口縁土器で、267では単独の爪形が横位にめぐる。

#### 4B種 (第77図270～288)

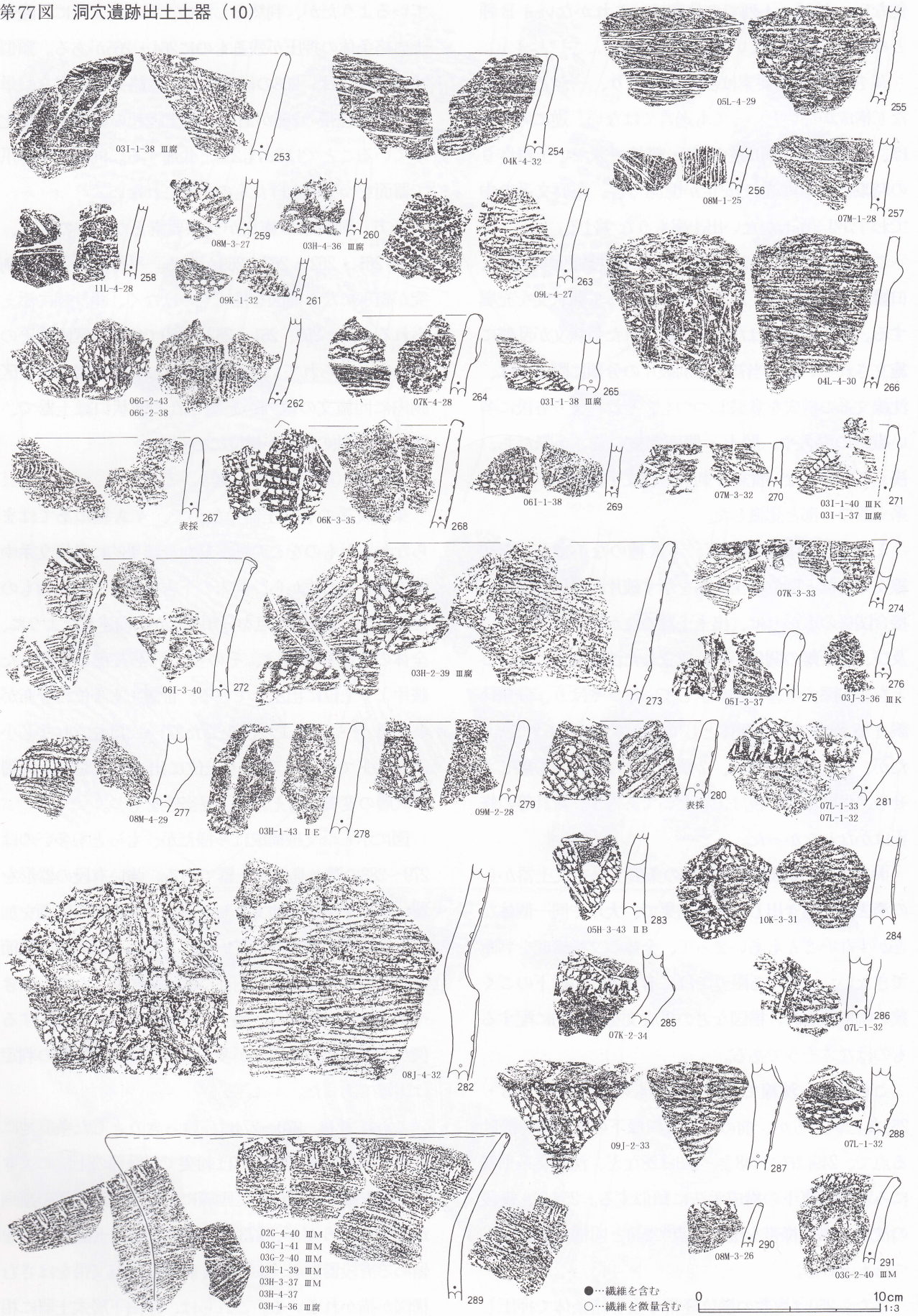
条痕文系の有文土器のなかで、4A種にあてはまらなかったものをこの種とした。結果的に条痕文系中葉の鶉ヶ島台式から、同末の下吉井式までを含むものとなった。総計で36点を分類したが、前述したように、全体の垂直分布では、その多くが4A種と分類した破片より上位に出土している。Ⅲ層でも下位の分布が多いⅢJ・L層より出土した271・273も、おなじ小グリッドでは4A種より上位に出土しており、両層が灰層の変質と考えれば、妥当性をもつ。

図に示した文様構成は多様だが、もっとも多いのは279～288の鶉ヶ島台式土器である。強い有段の器形を覆い尽くす条痕を地文として沈線や微隆起の区画を加え、その間を磨り消している。さらに、区画線の結節部には円形竹管文を、内部には区画に沿った押し引きや刺突文を充填する。胎土に雲母や石英砂を混和する例が大半だが、大型品が多いようで、同一個体の判定は困難であった。

これに対し、270～274は、はっきりとした条痕地に沈線や押し引き、さらには刺突で口縁部の上位に大きな構図を描く。縦位の区画線にしたがった鋸歯の描画が基本のようだが、273では鶉ヶ島台式土器の名残を留める有段器形に、おなじく斜位の無施文帯をはさむ構図が描かれている。これらは、茅山下層式土器に相



第77図 洞穴遺跡出土土器 (10)



当すると考えられる。

一方、275～277は、器面に粘土を追加して文様効果をもくろんだものである。275は破片の左で縦位に貼付された隆帯脇を沈線でなぞり、口縁頂部には刺突文が加えられる。また、276は、繊維が大量に混和された器面に横位隆帯のみが観察できる。さらに、277は山形の隆帯とその上位に絡条体圧痕文を施文する。条痕が強く印された器面は、雲母を含まない瀬ヶ島台式土器と共通する軟質感があり、これは3点とも共通している。確信はないが、いわゆる茅山上層式以降の土器と考えられる。

このほか、278は、擦痕様の器面に篋状工具で単沈線を描く、構図ははっきりしないが、連続する波状文や弧状文の一部と思われる。器面や胎土の特徴、II E層からの出土などを勘案すれば、条痕文系終末の下吉井式に比定できる。遺跡では同期にあたる縄文施文土器や貝殻文土器も出土しているが、こちらは、5類の羽状縄文系として扱っている。

#### 4 C種 (第77図289～第83図484)

条痕文系土器のなかで、文様をもたず、破片内では条痕や擦痕のみしか観察できないもの、あるいは無文のものをこの種とした。全体で2,053点と、大量に出土しており、この種だけでも分類可能土器の58%を占めるほどである。

その出土量の多さを念頭に、整理作業当初は胎土、条痕・擦痕の別、表裏への施文など「顔つき」をもとにさらなる分類を試みたが、偏差のばらつきが漸移的で、客観化できる弁別指標を定められなかった。加えて、統計処理のために水洗選別で検出した小片も極力分類の網をかぶせる必要性から、これらを一括せざるを得なかった。

そのため、拓影の掲載は、裏面に条痕・擦痕のないものを優先して大別し、それぞれ無文や擦痕から条痕の強い資料へと並べたつもりである。だが、主観の範囲であり、統一したものではない。

これらの器形は、一部を除き、屈曲のない砲弾形となる尖底で、平底は確認できなかった。口縁部は直立

するか、外反するかの二者があり、さらに、後者では緩やかなものが多く、強い曲線を形づくるのは291・292の2点のみである。口縁上部の形態には波状などの変化がなく、すべてが平縁と考えられる。

しかし、289では口唇の直下に加えられた搔状の刺突の他に、口唇上の一部に限って深い刺突が加えられている。ところが、図中の両端に配した破片にはこれがみられず、単位化して平口縁の循環に変化をもたせたものともとれる。

そのほかでも口唇部やその直下に刺突や押圧を加えるものは、検出口縁部片の約半数にのぼる。多くは押圧・刺切手法によるもので、口唇部外端部に列を成するものが多い。

逆に、これほどの破片数が出土していながら、底部片は驚くほど少ない。図示したなかでは胴最下位ですぼまり、丸底気味に推移する形態が多いが、483は直線的な尖底器形となる。

一方、条痕の特徴についてみると、前述したとおり、数多くの偏差と中間相が両極の間に散在し、客観的な分離は不可能に近い。ためしに、各施文法の典型例をあげると、条痕等をまったく残さないもの(290～292・309・327～350)、条痕を施文した後にこれを磨り消しているもの(298・299)、条痕が集合化せず、搔き傷的な荒さをもつもの(293・294・322・351～354・417)、擦痕様のもの(295・479)、細線の統一から絡条体条痕の可能性のあるもの(315・423)、凹線様のもの(339・367・466)、単位化したもの(326)、深くしっかりと施文されているもの(373・418・451)など、分割を始めればきりが無い。

これはまた、胎土の特徴にも通じ、分割はきわめて困難である。ちなみに、その一端を紹介すると、乾燥質で砂質感の強いもの(326)、おなじく粘土感の強いもの(289)、さらに硬い印象を受けるもの(292・295)、使用粘土は湿質ながら混和砂粒が多く、砂質感の強いもの(332)、おなじく粘土感の強いもの(294・298・309・315・325)などがある。

このような条痕や胎土の偏差が有文土器の分類に符

第78図 洞穴遺跡出土土器 (11)

